

厚本爆同60年の軌跡

60周年記念誌

# 爆音のない 静かな空を求めて

厚本爆同60年の闘い

60<sup>th</sup> Anniversary



厚木基地爆音防止期成同盟

2021年5月

## 目次

|                                       |    |
|---------------------------------------|----|
| 発刊にあたって                               | 2  |
| 祝辞                                    | 3  |
| 写真で見る厚木爆同60年の軌跡                       | 5  |
| 厚木爆同60年 闘いの軌跡                         | 31 |
| 厚木基地の沿革と概要                            | 32 |
| 住民の受ける被害                              | 38 |
| きれめない爆音と恐怖のなかで<br>二五年にわたる基地被害との対決     | 42 |
| 騒音訴訟にふみきる                             | 46 |
| 厚木爆同の運動によって<br>米空母艦載機を岩国基地へ移転させる      | 53 |
| 年表 60年の軌跡                             | 67 |
| 厚木基地爆音防止期成同盟役員一覧表                     | 81 |
| 資料編                                   |    |
| 厚木基地爆音訴訟の経過と判決内容                      | 87 |
| 第四次厚木基地爆音訴訟の判決内容                      | 88 |
| 年別騒音測定回数とNLP時間帯内の測定回数<br>および空母入港日数の推移 | 89 |
| 編集後記                                  | 90 |

60<sup>th</sup> Anniversary

# 厚木爆同結成60周年記念誌

## 発刊にあたって



厚木基地爆音防止期成同盟

委員長 石郷岡 忠男

厚木爆同が結成されてから、60年という長い年月が経ってしまいました。結成当時、昼夜に渡って航空機の騒音に悩まされていた住民が一人ではなかなか相手にされない行政に対して、団体なら聞いてもらえるのではないかと立ち上げたのが厚木爆同です。

立ち上げた頃は、まさか60年も続く団体になろうとは夢にも考えていませんでした。私達の願いとは逆に、厚木基地はますます機能強化が進み、米軍の艦載機を受け入れる事になり、基地周辺は爆音のピークを迎える事になります。

私達は何度となく関係省庁に要請行動を行いましたでしたがなかなか聞き入れてもらえず、やむなく実力行使もしました。滑走路の延長線上にテントを張り、古タイヤを燃やして3日間、ジェット機の離着陸を完全に封鎖したのです。

これには国側もさすがに話し合いに応じて、深夜飛行を禁止するなどの厚木基地飛行協定が結ばれ、NHK受信料の半額助成が実現しました。ただ、爆音の凄まじさがなくなっただけではなく、私達は従来の運動では解決しないと思い、新たな運動を模索しました。それが司法への訴えです。第一次から第四次までの爆音訴訟の判決はすべて国の責任を認め、損害賠償の支払いが行われており現在、第五次の裁判が係争中です。

激しい爆音の源となっていた米軍艦載機は私達の運動の結果、2018年3月末で岩国基地に移転しました。これで長年の願い

である静かな空が帰ってくると思ったのですが、そうは行きませんでした。

確かに100デシベル以上の爆音は少なくなったものの、新たに配備された自衛隊の哨戒機P-1やC-130輸送機、艦載機で唯一残ったヘリコプター部隊等が以前と変わらず騒音を撒き散らしています。そして心配な事は、厚木基地が新たな使われ方がされるようになった事です。

2020年頃から自衛隊ヘリコプターによる吊り下げ訓練が行われ、米軍の(地対空誘導ミサイル)ペトリオット部隊が厚木基地では初めての訓練をしたり、米軍のCBRN(生物・化学・放射線・核)部隊が8カ月間も厚木基地で訓練をしています。

CBRN訓練に関しては一方的に通告が来ただけで、内容や規模に関しては一切発表がなく、住民の不安は増すばかりです。

私達は60年にわたって基地撤去、静かな空を返せ、と訴えて参りました。ですが、その願いは新たな訓練によって打ち破られ、まさに今、厚木基地の機能強化が図られる事に強い怒りを覚えます。

この様な状況の中、60年間闘い続けて来た厚木爆同は新たな展開を図り、厚木基地が撤去されるまで辛抱強く闘って参ります。これから私達と一緒に最後までガンバリましょう。

## 厚木基地爆音防止期成同盟

### 結成60周年に寄せて

大和市長 大木 哲

厚木基地爆音防止期成同盟の皆様方、これまで60年の長きにわたる厚木基地周辺における航空機の騒音被害解消に向けた多大なるご尽力に深く敬意を表します。

昭和48年に米空母が横須賀に入港して以降、その空母艦載機が厚木基地を拠点としたことから、本市市民は長年にわたり甚大な騒音被害に悩まされてまいりましたが、市民の皆様並びに大和市議会、そして周辺自治体とも連携しながら進めてまいりました騒音被害解消への取り組みにより、平成30年3月までに空母艦載機の岩国基地への移駐が完了いたしました。これにより、厚木基地周辺の騒音状況は大きく変化し、私たちの長年にわたる不断の取り組みが、このような成果に結び付いたものと、今、強く実感しているところでございます。

今後も、国際情勢や国の安全保障政策等を注視しつつ、厚木基地の運用の変化やそれに伴う市民生活への影響等をしっかりと見極めながら、基地に起因する諸問題の解決と市民負担の解消に向けた取り組みを進めてまいりますので、引き続き皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、厚木基地爆音防止期成同盟の一層のご発展と皆様方ますますのご活躍を祈念いたしまして、私からの言葉とさせていただきます。

## 厚木基地爆音防止期成同盟

### 結成60周年記念誌ごあいさつ

綾瀬市長 古塩 政由

厚木基地爆音防止期成同盟が結成60周年を迎えられたことをお祝い申し上げます。

厚木基地爆音防止期成同盟の皆様方におかれましては、昭和35年の結成以来の長きにわたり、騒音訴訟を始めとする様々な運動により航空機騒音の解消に取り組んでこられ、その御苦労に対し心より敬意を表します。

皆様が希求されている「静かな空」につきまして、平成30年3月の米海軍空母艦載機部隊の移駐により厚木基地周辺の航空機騒音は一定程度の改善がされているものと捉えており、これも、騒音解消に向けた運動が続けられている皆様の切なる声、活動が結実したものであると感じているところでございます。

本市におきましても、厚木基地の整理・縮小・返還を基本姿勢に、皆様方、そして周辺で暮らす住民の方々の願いでもある、静かな空のもとで穏やかな生活が送れるよう騒音被害の解消をはじめ、基地から派生する諸問題の解決に取り組んでまいりましたが、引き続き、市議会並びに神奈川県及び周辺各市と連携を図り、国や米軍に対し強く働きかけてまいります。

結びに、今後の皆様の更なる活動の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



## 還 暦 の 祝 辞

神奈川平和運動センター代表 弁護士 福田 護

厚木基地爆音防止期成同盟60年、おめでとうございます。その類いまれな市民運動の長い歴史に、心から敬意を表します。そして、日頃から神奈川平和運動センターの活動を中心に支えてきていただいていることに、深く感謝の意を表します。

神奈川平和運動センターに関わりをもつてみると、厚木爆同の存在が、広く深く、地域の平和運動・市民運動の支え、拠り所になってきたことを改めて痛感します。「期成同盟」という古色蒼然とした名称は、生活の場に根ざした住民団体としての性格と意気込みを示すものとして、広く共有されてきました。

厚木爆同が45年前に提起した爆音訴訟は、現在第五次訴訟にまで発展、継続しています。その過程では、第一次訴訟の高裁全面敗訴という試練を乗り越えて国家賠償の基盤を確立し、第四次訴訟では史上初めて軍用機の夜間飛行差止め判決を勝ち取るという大きな成果を挙げてきました。米軍の主力艦載機を厚木基地から追い出したことも運動の大きな成果ですが、それは岩国に移転させたにとどまっており、私たちは、さらに抜本的な問題の解決をめざさなければなりません。

当面の課題は、第五次訴訟です。提訴から3年半、この6月くらいいよいよ原告本人尋問が始まり、ヤマ場を迎えますが、その勝利をとにもめざしましょう。

基地や平和をめぐる問題は、集団的自衛権の行使等を認めた安保法制の制定にとどまらず、自衛隊の攻撃的性格や米軍との一体化の進行、さらには敵基地攻撃能力の具備にまで及んで、困難さを増しています。しかし、そんなときこそ、私たち平和運動団体の存在が必要不可欠であり、その役割も重要なものになります。

厚木爆同の今後のさらなる発展を、心から祈ります。

## 戦後74年日本の平和を支えた厚木爆同

第五次厚木爆音訴訟原告団 団長 大波 修 二

爆同60周年おめでとうございます。私も50年以上厚木爆同運動に参加してきた立場から挨拶をいたします。

厚木基地の反爆音闘争は日米の軍事戦略を激しく批判し、基地周辺の住民の命を守る闘いでした。

第二次世界大戦後すぐ日本政府は米軍との日米安保条約（軍事協定）を結んで、東南アジアの地域をアメリカの思う通りの軍事力による世界地図を作り上げました。日本はアメリカ軍に軍用地と飛行訓練の自由（日米地位協定）を与えました。ベトナム戦争、湾岸戦争やイラク戦争もこの厚木基地は米軍の軍事戦略を支えました。その結果、厚木基地の周辺は甚大な爆音に見舞われました。爆同の先輩たちはこのままでは爆音に殺されると、戦闘機の飛行を阻止しよう闘いに立ち上がった。実力闘争は航空機の飛行を止めました。20mにも及ぶ竹を地面に挿し、廃タイヤを燃やして航空機のパイロットの視線を遮りました。この闘いはその後の爆同運動を支える活動家に十分な勇気を与えました。

反爆音の闘いの一環は、40数年に及ぶ爆音裁判にも表れています。住民の人権を破壊している爆音を法的に告発して神奈川だけでなく、日本の各地における反爆音の闘いに勇気を与え続けます。その中心は厚木爆同の皆さんです。皆さんの違法爆音を許さない不屈の精神の賜物です。厚木爆同の皆さんこれからも人権を無視する軍事行動を許さない闘いを期待しています。



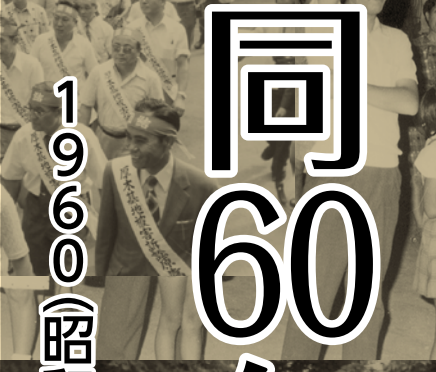
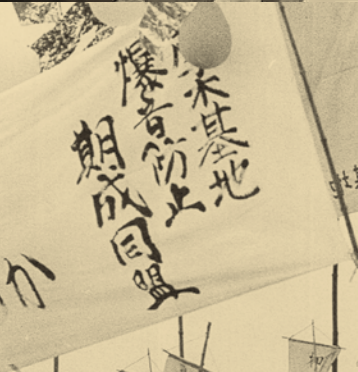
厚木基地を人間の輪で包囲  
24大行動現地実行委員会

基地被害訴訟原告団結団式  
518.29 厚木基地爆音防止期成同盟

写真で見る

# 厚木爆同60年の軌跡

1960(昭和35年)～2020(令和2年)





# 厚木爆同の信条

厚木基地爆音防止期成同盟

結成 一九六〇年九月二五日

## 厚木爆同

厚木基地爆音防止期成同盟

1. われわれは世界の平和と全人類の共存共栄を希求する。
2. われわれは厚木基地が善意の市民に与えつつある生存上の脅威は基本的人権を犯すものとしてあくまでも政府の責任を追及して、これら救済要求の貫徹を期す。
3. われわれは基地問題の抜本的解決の推進につき、不退転の闘いとして全精力を傾倒する。
4. われわれはその主義主張、政党政派のいかなを問わず、われわれを支持する者と緊密な連携を保持するとともに、政党的中立を堅持する。

大和で有償疎開期成同盟結成

は午後一時から市役所前まで行  
なれ文化自治会、観音会、東原  
武蔵野、饗会、約三百五十世帯  
の六給食会と契約五千人と十餘千  
一人二見廳長、中村副議長、中  
村爲一、山口エ子、笠井謙三、  
福田善治、加藤義興、川崎ハス  
金宇利兵、渡瀬政、池下和秀が  
参加した。

はじめに各自治会から発言。苦  
しめられたい被害の実情を説  
し合い、会の目的として「有機

飛行短艇」のよたつた線路を確  
認した。具体的進捗方針につ  
いては同持ち越しが、二十  
十五日の市会全議員協会で機曾  
問題を取りあげて対策を立てる  
よ。二見廳長に強く申し入れ  
た。

会では「無形のもの」である。  
将来の子どもを学力低下が心配で  
ある。人海闊達にならぬまま  
の市局、教育委員会、市議会の  
消極的施策に対し、強い批判が行  
なれた。当日は僅かでも三

人が参加し、二見廳をも「全議員  
協会」も対策を考えようとにも  
市役所タライアップして市民生活  
を守りてゆきたい」といって  
いる。同会は役員をまとめたあと、  
この二連日各自自治会へ呼びかけ全  
市的活動に決断しあふのとおり。  
て。役員と決議することあり。

△委員長 知久重▽副委員長  
佐藤静夫、神谷豊彦▽会計  
野澤幸助。

一決議文▽厚木市道經聖地飛行  
場開設に位置する和市民は、  
日夜航空騒音をきまざる飛行機音に  
苦しめられてゐる。なつても

指撥隊の中ゴーストになる機曾  
有人間が留滞しつゝ生命喪失  
害を蒙入。居住者はつゞ年命  
財座に対する補償はされて  
いる。この不幸事象は市民の  
生存権を脅かすものとなつて  
断じて排除するを許さず、県市  
当局はもとより、国は金を注ぎ  
出すばかりに適切な措置を  
講ずべきである。(こ)被震  
住民は総決起し、これ機曾に  
よる被害の軽減と危険地域住民  
の完全有償移住の実現を期し、  
あくまで初期段階に向かつて進  
むものである。

厚木の爆音防止同盟

[illegible]

神奈川新聞に掲載される 1960年7月25日

期成同盟から司令官へ

大和市の摩木基理消防防止期成同盟は三十日夜の役員会で、瀬谷地区への米軍ジェット機墜落事故に対し、強い抗議文を基地司令官あて提出することをきめた。また爆音によるラジオ・テレビ料金減免について、NHKから「減免しない」との正式回答があったが、同盟としてはあくまで減免運動を行なうことを申し合わせた。

すでにラジオ・テレビ料金減免については同盟をはじめ各団体で運動が始められているが、NHKは九月十八日から二十三日までの六日間、市内七カ所です実態調査を実施した結果「調査状況から被害は軽く、減免する必要はない」との回答をした。調査資料によれば、聴視困難時間はラジオが一日平均六十一分、最悪時で八十五分、一時間では平均十三分、テレビは一日平均四十分、最悪時で五十一分、一時間では十四・五分がそれぞれ聴視不能となっている。同盟では「一時間のうち十四分も見られないテレビに対し、被害軽微」とは納得できない」として、さらにNHK側へ減免措置を要求するこいう。

43

日大 東京新聞 昭和35年12月10日 第10000号

# 爆音の人権侵犯を提訴す

## 横濱法務局と 神奈川県人権擁護委員協議会 当局調査を確約す

【横浜十日電】横濱市で、深夜の深夜に、大音量の音楽が、近隣の住民に迷惑を及ぼしているという苦情が、横濱市法務局に寄せられている。法務局は、この苦情を、神奈川県人権擁護委員協議会に依頼し、調査を依頼した。協議会は、調査の結果、音楽の音量が、法律で定められた範囲を超えていると認め、法務局に、当局調査を確約した。

横濱市法務局は、この苦情を、神奈川県人権擁護委員協議会に依頼し、調査を依頼した。協議会は、調査の結果、音楽の音量が、法律で定められた範囲を超えていると認め、法務局に、当局調査を確約した。

# 発行に寄せて

## 一

この雑誌は、昭和35年12月10日、第10000号を発行いたします。この号は、横濱市法務局と、神奈川県人権擁護委員協議会の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。また、この号には、横濱市法務局の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。

この雑誌は、昭和35年12月10日、第10000号を発行いたします。この号は、横濱市法務局と、神奈川県人権擁護委員協議会の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。また、この号には、横濱市法務局の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。

# ラジオテレビ聴視料 免除を陳情

## 小金井政大田 電線管理局次長に スピード対策を指示

【小金井十日電】小金井市で、ラジオテレビ聴視料の免除を陳情する者が、電線管理局次長にスピード対策を指示した。電線管理局次長は、スピード対策を指示した。

小金井市で、ラジオテレビ聴視料の免除を陳情する者が、電線管理局次長にスピード対策を指示した。電線管理局次長は、スピード対策を指示した。

# 国稅地稅申告減免陳情

## 一

この雑誌は、昭和35年12月10日、第10000号を発行いたします。この号は、横濱市法務局と、神奈川県人権擁護委員協議会の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。また、この号には、横濱市法務局の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。

この雑誌は、昭和35年12月10日、第10000号を発行いたします。この号は、横濱市法務局と、神奈川県人権擁護委員協議会の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。また、この号には、横濱市法務局の調査結果を、読者の皆さんに紹介いたします。

– 7 –



# 一周年迎えた厚木爆音防止同盟

## 中央への陳情70回

### あす大和中で記念集会

厚木基地騒音防止同盟(田中義孝委員長、九段会館)は、一周年を迎えるにあたり、中央への陳情70回を達成した。あす(29日)午後1時、大和中で「厚木基地騒音防止同盟一周年記念集会」を開催する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。この日は、あす(29日)午後1時、大和中で「厚木基地騒音防止同盟一周年記念集会」を開催する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。

田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。この日は、あす(29日)午後1時、大和中で「厚木基地騒音防止同盟一周年記念集会」を開催する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。

## 厚木基地の撤去を

### 爆音防止 国連事務総長へ親書

厚木基地騒音防止同盟(田中義孝委員長、九段会館)は、約千五百人参加で、千日朝顔・提燈祭のたけなわに、大和中で、タンクトン連隊長あての親書を託した。これは、国連事務総長の撤去を要求する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。



知久委員長



ウ・タント総長



高下市長

酒席は田中委員長が中心で、田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。この日は、あす(29日)午後1時、大和中で「厚木基地騒音防止同盟一周年記念集会」を開催する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。

神奈川新聞に掲載される 1961年7月29日

## 八年目の初集団交渉

### 厚木基地めぐり住民と防衛施設局

厚木基地騒音防止同盟(田中義孝委員長、九段会館)は、八年目の初集団交渉を行った。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。この日は、あす(29日)午後1時、大和中で「厚木基地騒音防止同盟一周年記念集会」を開催する。田中委員長は、この一周年を機に、基地騒音防止の徹底を求め、中央への陳情を更に進めようとする。

毎日新聞に掲載される 1968年8月6日



大和市内に「厚木基地を返せ」の看板を設置 1965年

神奈川新聞に掲載される 1962年10月31日



市民要求実現総決起大会 1968年8月25日

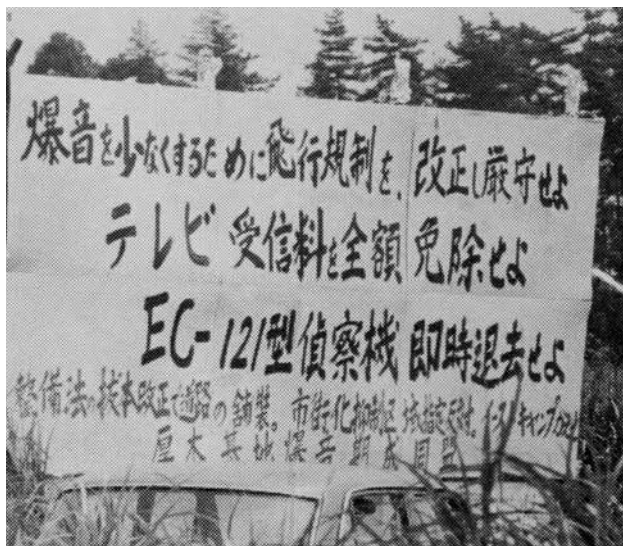


大和市上草柳の舘野鉄工所にジェット機が墜落 1964年9月8日



市民要求実現総決起大会  
1968年8月25日





実力行使のスローガン 1969年8月15日



実力行使の本部テント 1969年8月15日



古タイヤを燃やして抗議 1969年8月15日



竹竿に幟を立てて飛行阻止 1969年8月15日



厚木基地滑走路北側フェンス前で飛行阻止行動 1969年8月15日



第14回定期代議員総会で爆音訴訟を満場一致で可決 1974年5月19日



海上自衛隊の厚木基地移駐に反対する提灯デモ行進 1971年8月21日





基地被害訴訟原告団結団式(第一次訴訟) 1976年8月29日



第一次訴訟の提訴日にバスを連ねて横浜地裁へ 1976年9月8日



第一次訴訟の提訴後に報告集会 1976年9月8日



厚木基地撤去・被害訴訟勝利9.8大和総決起集会 1976年9月8日

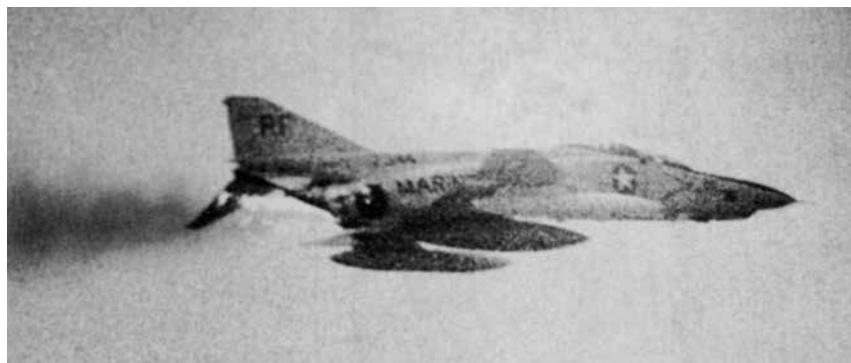


横浜地裁の第1回公判にのぞむ原告団 1976年9月8日

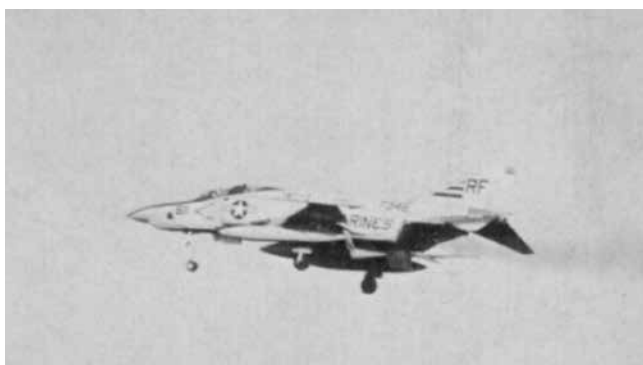


横浜地裁前で激励と連帯集会 1976年9月8日





厚木基地を飛び立ったファントム戦闘機が火を噴いて民家に墜落 1977年9月27日



墜落事故直後に現地で抗議集会 1977年9月27日



大和市内でファントム艦載機の墜落に抗議の街頭行動 1977年10月



P-3C対潜哨戒機配備阻止12.20県民集会 1981年12月20日



結成25周年記念のつどい 1985年10月20日



結成30周年記念のつどい 1990年12月10日



P-3C対潜哨戒機が強行飛来 1981年12月26日





第二次訴訟の提訴を決定 1984年6月3日



第二次訴訟を原告161名で提訴 1984年10月22日



第二次訴訟の原告団結成集会 1984年9月26日



第二次訴訟の激励と連帯集会 1984年10月22日



第一次訴訟、東京高裁が不当判決 1986年4月9日



第一次訴訟、不当判決に新たな決意 1986年4月9日



第二次訴訟、横浜地裁前で激励集会 1985年6月24日





基地包囲現地実行委員会結成 1988年1月



市民法廷劇 1989年4月30日



厚木基地を人間の輪で包囲する大行動、28,000人が大結集 1988年7月24日



第一次訴訟の勝利にむけた会議 1994年7月



第一次訴訟、東京高裁に差し戻し報告集会 1993年2月25日



市内に掲示されたNLP全面移転の横断幕 1992年10月



防衛施設庁にNLPによる爆音被害を抗議 1993年2月25日





第一次訴訟、東京高裁の現地検証 1994年10月6日



第一次訴訟、差し戻し判決日のデモ行進  
1995年12月26日



艦載機の硫黄島全面移転を求め、バスで防衛施設庁へ 1995年9月27日



第一次訴訟、東京高裁判決の報告集会 1995年12月26日



第一次訴訟の終結報告集会 1996年1月



防衛施設庁座間事務所にNLPの中止を申し入れ 1999年2月23日



展示・曲技飛行を強行した航空機  
2000年7月1日



第三次訴訟、提訴日に大和市長から激励 1997年12月8日



校舎をかすめて飛行する艦載機 2000年9月



展示・曲技飛行の中止を求めて抗議行動 2000年7月1日





結成40周年記念式典 2000年10月26日



防衛施設庁座間事務所に座り込み  
1999年2月17日



第二次訴訟、東京高裁判決前のデモ行進 1999年7月23日



NLP訓練に怒りの炎を燃やして抗議 1999年10月18日





第三次訴訟、被告・国の控訴に抗議 2002年11月7日



第三次訴訟、東京高裁判決  
2006年7月13日



基地フェンス前で抗議行動 2004年11月20日



第三次訴訟原告団代議員総会 2001年2月18日



第三次訴訟、口頭弁論報告集会 2003年7月17日



FA18スーパーホーネット配備に抗議  
2003年11月13日



FA18スーパーホーネット飛来監視行動  
2004年9月24日





第四次訴訟の原告募集街頭行動 2007年6月



第四次訴訟、原告団結団式 2007年9月1日



第四次訴訟、口頭弁論報告集会 2008年5月12日



第四次訴訟、横浜地裁提訴日のデモ行進 2007年12月17日





海上自衛隊厚木基地司令部にP-1配備中止を要請  
2008年9月23日



原子力空母の横須賀入港に抗議 2009年9月26日



P-1哨戒機の配備阻止にむけ大和市役所に座り込み 2010年5月18日



沖縄の闘いに連帯し基地の実態に学ぶ視察・辺野古 2010年4月5日





沖縄の闘いに連帯し基地の実態に学ぶ視察・辺野古 2010年4月5日



結成50周年記念式典 2010年10月26日



嘉手納と普天間爆音訴訟原告の皆さんと交流 2010年4月6日



結成50周年記念祝賀会 2010年10月26日





EA-6B電子戦機が基地北側の県道に機体の一部を落下  
2012年2月8日



多くの代議員が出席して開催された定期代議員総会 2014年5月19日



「第1回基地視察」オスプレイの拠点基地である海兵隊キャンプ富士を視察 2013年11月17日





南関東防衛局へ申し入れ 2017年4月26日



「訪問支部会議」で会員の皆さんと意見交換 2014年7月10日



NHK受信料の全額助成を総務省に要請 2014年7月28日



将校に申し入れ書を手渡す  
2020年10月29日

艦載機騒音の解消を防衛省  
座間事務所長に申し入れ  
2013年6月18日



PA3訓練の中止を申し入れる 2020年10月29日



新入会員の歓迎会 2018年2月14日





オスプレイの初飛来に抗議 2014年7月15日



厚木爆同「学習会」に多くの会員が参加 2019年1月26日



「訪問支部会議」で会員の皆さんと意見交換 2018年8月7日



第四次訴訟、左から横浜地裁判決2014.5.21、東京高裁判決2015.7.30、最高裁判決2016.12.8





厚木基地司令官に申し入れ 2020年7月9日



第五次訴訟、追加提訴日のデモ行進 2017年12月1日



NHK受信料問題で防衛省に申し入れ 2017年10月26日



オスプレイの飛来監視行動 2018年10月14日



オスプレイの飛来阻止・配備撤回集会に連帯参加 2018年6月17日



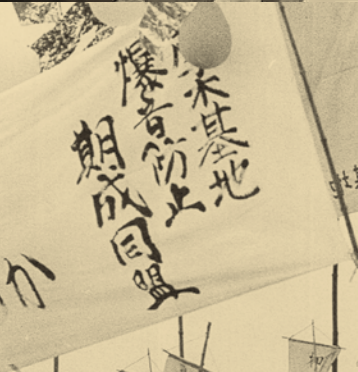
厚木基地を人間の輪で包囲  
・24大行動現地実行委員会

基地被害訴訟原告団結団式  
518.29 厚木基地爆音防止期成同盟

# 厚木爆同60年

# 闘いの軌跡

1960(昭和35年)～2020(令和2年)





# 厚木基地の沿革と概要

厚木基地は面積約五〇六万平方メートルの敷地を有する。横浜スタジアムの約二〇〇倍の敷地を米海軍と海上自衛隊が占有する航空基地である。

大和市の南西部と綾瀬市の北東部にまたがって所在。引き込み線の一部は海老名市に所在していたが、二〇一七年九月三〇日に米国から日本に返還されることが決まり、現在は撤去されている。

三市とも東京、横浜の大都市圏に近接。都市化のテンポも著しい。厚木基地の管制区域となっている半径九キロメートル以内には、前述の三市に加えて横浜、藤沢、相模原、座間の各市、さらに東京都町田市が含まれ、過密化した市街地を形成している。

この基地周辺に三〇〇万の人口を抱える厚木基地は、全国的に見ても類例のない「人口過密都市の中の軍用飛行場」である。そこを離発着する軍用機の爆音は市民の日常生活に多大な被害、迷惑を及ぼしている。

## 基地の歴史

一九三八（昭十三）年に旧日本海軍が航空

基地として定められたのが始まり。一九四一（昭十六）年に帝都防衛海軍基地となり、本格的に使用が開始されたが、一九四五年八月の敗戦で日本海軍としての基地の歴史は終わる。

敗戦後ただちに米軍に接収されるが、米占領軍のマッカーサー元帥が日本本土への最初の一步をこの基地にしろした。一九五〇（昭二五）年には米陸軍から米海軍に移管され、

以来、米第七艦隊の後方支援基地として現在に至っている。

また、一九七一（昭四六）年には基地の一部が海上自衛隊に移管され、日米双方による管理体制が採られようになった。いわば日米共同使用の海軍航空基地となったのである。

## 米空母の横須賀母港化

「米海軍厚木航空施設」の任務は洋上及び陸上の米海軍艦隊の支援業務で、諸施設とサービスの提供及び補給業務を行うことだった。一九七三年、米空母ミッドウェイが横須賀を母港としたことにともない、その業務は一挙



に拡大することになった。同空母の第五空母航空団の分遣隊をはじめ、二〇以上の分遣隊が「米海軍厚木航空施設」に置かれ、それぞれの分野で第七艦隊の支援を行うことになった。

横須賀では空母ミッドウエーの後、現在の空母ロナルド・レーガンに至るまで、五隻の空母が事実上の母港とし、四代目のジョージ・ワシントン以降は原子力空母となった。

空母名と配備時期は次のとおり。

空母ミッドウエー

一九七三年（昭和四八年）十月五日

空母インディペンデンス

一九九一年（平成三年）九月十一日

空母キティホーク

一九九八年（平成十年）八月十一日

空母ジョージ・ワシントン

二〇〇八年（平成二十年）九月二五日

空母ロナルド・レーガン

二〇一五年（平成二十七年）十月一日

米第七艦隊の守備（攻撃）範囲は広い。東はハワイから西はアフリカ大陸の南端、喜望峰にまで及ぶ。地球の半分がその行動範囲となっている。横須賀を出発した空母戦闘団（通常は六隻程度、長期にわたる場合は一〇隻程度）はミッドウエー、インディペンデンス、キティホーク、ジョージ・ワシントンと四

代にわたって、ペルシャ湾岸への航行を繰り返している。

五代目のロナルド・レーガンは米中対立の激化を反映して、南シナ海や日本海で自衛隊との共同訓練を繰り返している。

一九九一年一月、湾岸戦争勃発。横須賀を母港とした艦艇のトマホークミサイルの連射に続いて、空母ミッドウエーの艦載機はイラクへの空爆の先陣を切った。厚木基地で繰り返される昼夜の離発着訓練が空爆に備えたものであることを明らかにしたのである。その

後、二代目のインディペンデンスも、三代目のキティホークも威嚇、空爆のための湾岸詣でを繰り返している。

### 海上自衛隊の移駐・日米共同使用へ

空母ミッドウエーの横須賀母港化に先立つ一九七一年七月、海上自衛隊厚木航空基地分遣隊が設置された。その後一九七二年三月、下総基地から海上自衛隊第四航空群が移駐。本格的な日米共同使用が始まる。一九八一年には同第五一航空隊が移駐、さらに対潜水艦

（４）厚木基地における共同使用の区分図

（平成 28 年 1 月 1 日現在）

| 凡例   | 使用区分                                   | 面積（千㎡）        |
|------|----------------------------------------|---------------|
|      | 2-1-(a)地区<br>管理権及び使用について米軍だけの専用区域      | 約 1,434（千㎡）   |
|      | 2-4-(a)地区<br>管理権を米軍が有し、自衛隊と共同で使用している区域 | 約 1,076（千㎡）   |
|      | 2-4-(b)地区<br>管理権を自衛隊が有し、米軍と共同で使用している区域 | 約 2,559（千㎡）   |
| ---- | 行政境界                                   | 計 約 5,069（千㎡） |
|      | 大和市域分                                  | 約 1,121（千㎡）   |

FAC3083厚木海軍飛行場





哨戒機P-3Cの一番機が移駐、配備された。二〇一三年三月にはジェット機哨戒機P-1が厚木爆同の反対のもと、配備された。厚木基地には試作機の試験飛行が始まった。二〇〇八年以降、開発や実働任務の拠点としてこれまで二五機が配備運用され、二〇二〇年以降は国内の他基地へ配備される機体や要員の訓練基地となっている。

現在、海上自衛隊航空集団司令部が置かれ、P-1を中心とする第四航空群や第五一航空隊、第六一航空隊、航空管制隊、音響業務支援隊などが配置されている。航空集団司令部は海上自衛隊の航空集団の最高機関で、全国各地の所在する同航空部隊を一元的に指揮している。

厚木基地において日米両軍の使用区分は別図の通り、ほぼ半分ずつを両軍が管理。文字通りの日米共同使用となっていることがわかる。航空管制業務は海上自衛隊が行っているが、自衛隊の管理区域には弾薬庫や燃料タンクをはじめ、滑走路、管制塔、オペレーション施設、さらに基地南東部には自衛隊の官舎三棟と体育施設がある。

## 米海軍厚木航空施設の現況

施設管理を行う米海軍厚木航空施設司令司西太平洋艦隊航空司令部のほか、第五空母航

空団(CVW-5)所属のヘリコプター飛行隊、駆逐艦などに搭載される対潜ヘリコプター部隊、それら航空機の整備・補給・支援業務を行う部隊が駐留、配置されている。

これまで激しい爆音で住民に苦痛と被害を与えていた第五空母航空団(CVW-5)所属の固定翼飛行隊(艦載機)は厚木爆同などの運動の結果、二〇一八年三月に岩国への移転を終えた。

しかし、移転後も時には海軍機だけでなく、海兵隊や陸軍、空軍の航空機も飛来する。なお、基地東側に隣接する日本飛行機厚木工場に修理のため飛来する航空機もある。同工場は一九五五年に開設され、米海軍と航空機修理の契約を結んでいる。

米軍専用区域には家族住宅、保育園から小学校、ゴルフ場、格納庫などが、同管理共同使用区域には司令部、病院、消防署、兵舎、レクリエーションセンターなどがある。

家族住宅は、艦載機部隊の岩国移転に伴って、四〇〇〇六〇〇室が空いているとの情報がある。

また、地下燃料タンクがあり、航空機エンジンをつけたままでも給油できるホットピット施設もある。

## 硫黄島訓練施設とNLP訓練

硫黄島は厚木基地から南へ二一〇〇キロ、厚木とグアム島のほぼ中間に位置する火山島。東京都小笠原村に所属するが、島に住む村民はいない。第二次世界大戦・太平洋戦争の激戦地で、戦後は米軍の占領下にあったが、一九六八年の返還と同時に、海上自衛隊硫黄島航空基地分遣隊が発足し、現在は硫黄島航空基地隊が常駐している。

厚木基地でのNLP反対の世論に押され、一九八九年からNLPの代替訓練基地の建設が始まり、一九九一年十二月、初のNLPが実施された。施設は約一六七億円をかけて建設されたが、NLPが全て移転、実施されているわけではない。厚木爆同や大和市など周辺自治体は空母が横須賀に入港する時点で艦載機を硫黄島に降ろし、出港後に硫黄島から空母に戻す「直結方式」を強く求めているが、実現に至っていない。

二〇〇〇年ころは硫黄島でのNLP訓練の比重が減り、厚木を始め三沢、横田、岩国の各基地を使用するケースが目立っていた。激しいDLP(昼間の離発着訓練)に加えて、NLP訓練も逆戻りしつつある実状に住民の苦情も激増。二〇〇〇年は十月段階で四〇〇〇を越える過去最高の苦情件数を記

録。同年九月、大和市は米海軍との友好関係の中断を表明するに至った。その後、厚木基地でのNLP訓練は減少した。

### P-1への変更で爆音増加

厚木基地は海上自衛隊の対潜水艦哨戒機P-3Cが日本で最初に配備された基地である。一九八一年十二月二五日、米国ジャクソンビル海軍航空基地での訓練を終え、厚木基地にやってきた。地元での強い反対運動、抗議の中での配備だった。

その後、厚木爆同等などが反対する中、二〇一三年三月には後継の哨戒機としてジェット機のP-1が配備。厚木基地には試作機の試験飛行が始まった二〇〇八年以降、開発や実働任務の拠点としてこれまで三十機が配備運用され、二〇二〇年以降は国内の他基地へ配備される機体や要員の訓練基地となっている。

P-1は、自衛隊の「ジェット機は乗り入れない」と地元自治体と約束した「46文書」に違反するもの。米軍艦載機が岩国に移転した後P-1の訓練回数が増え、その騒音も大きなものがある。P-1の飛行は容認できない。

### 墜落の危険が高い米軍の大型輸送機オスプレイ飛来

墜落事故が相次ぎ、「欠陥機」の指摘があり、開発当時から「未亡人製造器」と呼ばれている米軍の大型輸送機オスプレイは二〇一四年七月に厚木基地に初飛来して以来、年に数回飛来するようになった。周辺自治体も厚木爆同等飛来には反対している。

防衛省は二〇一七年十一月、米海兵隊に所属する輸送機MV22オスプレイの事故率が、同年九月末時点で一〇万飛行時間あたり三・二七と発表した。二〇一二年の日本での配備以来、過去最悪の数字。日本政府はオスプレイの安全性について、海兵隊機全体の数値より低いか同程度と説明してきたが、同じ時期の全体の事故率は二・七二で、根拠の一つが崩れた。

重さ十三キロの部品落下事故も起こしており、危険だ。

オスプレイは陸上自衛隊が十七機配備する予定で、二〇二〇年から陸上自衛隊木更津駐屯地に二機配備されている。

米軍横田基地には二〇一八年十月に五機が配備されており、厚木基地への飛来が増えることが危惧される。

### 空母艦載機の岩国移転後も爆音減らず、空いた施設は早期返還を

これまで激しい爆音で住民に苦痛と被害を与えていた第五空母航空団(CVW-5)所属の固定翼飛行隊(艦載機)は厚木爆同等などの運動の結果、二〇一八年三月に岩国への移転を終えた。

その結果、一〇〇デシベル以上の大きな爆音は減少したが、七〇デシベル以上の爆音は減っていない。引き続き、爆音解消の運動が必要となっている。

また、約三八〇〇人の軍人や家族らが厚木基地から岩国に移転したと言われている。当然、その分の施設は空いたはずだ。空いた施設は早期返還を求める。

### 訓練が多様化し危険、基地強化につながる

二〇一七年一月に米国でトランプ大統領が就任して以来、米国の中国に対する敵視政策が厳しくなった。その影響か、厚木基地では、二〇二〇年にはこれまでになかった訓練が増えた。

危険な上に基地機能の強化につながり、厚



本爆同は抗議と中止の申し入れを行なっている。

### ●七月 パラシュート性能試験

海上自衛隊のP-3C哨戒機からパラシュートを投下して機能を確認する訓練が十日に行われた。各種パラシュートが使用基準を満たしているか点検することが目的という。

訓練はこれまで定期的に早朝に実施してきた。今回は騒音に配慮し、他の航空機の利用を一時制限して初めて午前9時台に変更した。

パラシュートが基地外に落下する危険がある。

●九月 厚木基地経由で日米共同降下訓練  
陸自空挺部隊の隊員が厚木基地に来て、横田基地から来た米軍輸送機C-130で習志野演習地まで空輸され、そこでパラシュート降下訓練を行った。

なぜ、わざわざ厚木基地を中継するのか？  
日米共同行動の強化の一環と思われる。

### ●十月 米軍ペトリオット部隊の展開

十月二十六日から十一月五日まで、日米共同統合演習に関連して、米軍が単独で実施する訓練のため、米陸軍ペトリオット部隊が厚木基地を使用。車両二十台、人員五十名規模で行った。

ペトリオットは地上配備の弾道ミサイル迎

撃ミサイル。厚木基地がミサイル攻撃を受けることを想定している。厚木基地がますます危険なものとなった。

厚木爆同など四団体は抗議と中止の申し入れを米軍厚木基地司令官に行った。

●二〇二一年二月 CBRN（化学・生物・放射線・核）訓練実施

一月二八日、防衛省南関東防衛局より大和・綾瀬両市長に対し、日米合同委員会合意事案として「米本土から米陸軍部隊が来日し、二月から九月にかけ厚木基地でCBRN（化学・生物・放射線・核）訓練を実施する」との通告があった。ペトリオットと共に厚木基地では初めての訓練。厚木基地がそういう攻撃を受けるということか。それとも、そういう攻撃を仕掛けるということか。いずれにしても賛成できない。

厚木爆同など四団体は抗議と中止の申し入れを米軍厚木基地司令官に行った。

※次ページの注

・GCA（地上誘導着陸方式） 視界不良の時、地上レーダー（空港監視レーダー、及び精測進入レーダー）により、進入開始から接地点付近までの航空機の動きを監視し、無線電話により適切な経路を指示し着陸させる方式で、このための装置。  
・ILS（計器着陸装置） 航空機が計器飛行状態で滑走路に正確に進入、着陸できるように、地上から誘導電波を発射し、着陸させる装置。

## 厚木基地所属の米海軍部隊の名称とその機種

（ウィキペディアなどより）

### 第5 空母航空団所属

| 部隊名                          | 通称                              | 機種     |
|------------------------------|---------------------------------|--------|
| 第77海上攻撃ヘリコプター飛行隊<br>(HSM-77) | セイバーホークス<br>Saberhawks          | MH-60R |
| 第12海上戦闘ヘリコプター飛行隊<br>(HSC-12) | ゴールドデン ファルコンズ<br>Golden Falcons | MH-60S |

### 第7 艦隊所属

| 部隊名                          | 通称                 | 機種     |
|------------------------------|--------------------|--------|
| 第51海上攻撃ヘリコプター飛行隊<br>(HSM-51) | ウォーローズ<br>Warlords | MH-60R |

## 米海軍・海上自衛隊の配備部隊の概要

(「大和市と厚木基地」2016年6月より)

### (3) 厚木基地の概要

| 名 称  | 厚木海軍飛行場 (FAC3083)                                           |                                                                                                                                                              |
|------|-------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所在地等 | 大和市上草柳、下草柳、福田、本蓼川、<br>綾瀬市深谷、蓼川、本蓼川、                         |                                                                                                                                                              |
|      | 標点位置                                                        | 北緯 35° 27' 17" 、東経 139° 27' 0"                                                                                                                               |
|      | 標 高                                                         | 62m                                                                                                                                                          |
| 面 積  | 約 5,069 (千㎡) (大和市域分約 1,121 (千㎡))                            |                                                                                                                                                              |
|      | 内 訳                                                         | 国有地 約 5,064 (千㎡)<br>市有地 約 20 ㎡<br>民有地 約 4,4 ㎡                                                                                                                |
| 主な施設 | 滑走路                                                         | 延長 2,438m × 幅 45m (8,000 フィート × 150 フィート)<br>コンクリート舗装<br>オーバーラン南北各 300m (1,000 フィート)                                                                         |
|      | 誘導路                                                         | 延長 6,764m × 幅 22m<br>コンクリート舗装                                                                                                                                |
|      | 建 物                                                         | 格納庫施設、 管制塔、 オペレーション施設、<br>事務所施設、 住宅施設、 倉庫施設、<br>娯楽施設、 貯油施設、 エンジン試験場、<br>ゴルフ場、 射撃場、 弾薬庫<br>G C A } (前ページの※注を参照)<br>I L S                                      |
| 使用形態 | 米海軍と海上自衛隊との共同使用                                             |                                                                                                                                                              |
| 使用者別 | 米 海 軍                                                       | 海 上 自 衛 隊                                                                                                                                                    |
| 配属部隊 | 厚木航空施設司令部<br>前方艦隊航空司令部<br>第5空母航空団<br>第51海上攻撃ヘリコプター飛行隊<br>など | 航空集団司令部<br>第4航空群司令部<br>第3航空隊<br>第4整備補給隊<br>厚木航空基地隊<br>硫黄島航空基地隊<br>南鳥島航空派遣隊<br>第51航空隊<br>第61航空隊<br>航空管制隊<br>航空プログラム開発隊<br>厚木システム通信分遣隊<br>厚木情報保全分遣隊<br>厚木警務分遣隊 |



# 住民の受ける被害

※ここからP 53まで  
「25周年記念誌」から採録

## 騒音について

一九六〇（昭三十五）年から滑走路を使っ  
て、容赦なく離着陸する米軍ジェット機は、  
滑走路北側一キロ地点で、一二九ホーンの騒  
音が記録されたように、絶えず空気を引き裂  
き振動と黒煙を周辺住民に直撃する情況をつ  
くりだすようになりました。

特に滑走路の延長線上（進入表面下）の住  
民は、耐えられない騒音の直撃を、屋根から  
ガラス戸から常に浴びせられました。

「グォーン」「ゴーツ」「キーン」という騒  
音を発しながら民家の上を低空で通過する米  
軍機。

「ドドドド」「バリバリ」「グォーツ」とい  
う騒音を残してけたたましく発進する艦載機。  
それは最早、騒音という生易しいものではな  
く轟音、暴音、痛音であり、被害住民の腹の  
底まで響きわたり、頭や耳の中へ突き刺さっ  
てくる。思わず体をすくめ、耳をおさえ怒鳴  
り散らす大人たち。子供はおびえて立ちすく  
み、泣いて親にしがみついています。  
当時の騒音の実態から被害住民は、こう訴  
えています。

## 一、住民の苦しみ、叫び

### 会社員（三三歳）

病父の療養の地として、大和市上草柳に土  
地を求めてきたが、爆音のため病状悪化、鉄  
筋コンクリートの防音室を作ったが駄目で、  
東京の大森に転居加療をしたが、二ヵ月後死  
亡しました。妻は妊娠中精神不安定のため、  
悪阻が重く流産の危険に落ち入り、急いで東  
京の知人宅に静養させ流産だけは免れまし  
た。

### 団体役員（三九歳）

爆音ノイローゼになり、約一ヵ月故郷へ帰っ  
て静養、帰宅後も引続き十日以上欠勤するこ  
と度々、精神が落ち着かず回復できない。

### 主婦（三一歳）

母乳が二ヵ月たたぬうちに、少くなり九ヵ  
月後の今では全然でなくなりました。（大和  
市に移る前は充分出た。）胸がどきどきし頭  
痛、目まいがとれません。

### 学生（二一歳）

音楽愛好などとても考えられない。個人の

情操教育は人間の精神活動の重要な一つであ  
る以上、その妨害は絶対に許せない。被害住  
民は、このように騒音が生活に、身体につき  
刺さる痛い現実を叫び訴え続けています。

朝起きて、隣のひとと顔が合うと決ってで  
てくる言葉が、「今日もうるさいですね。何  
とかならないですかねえ！」という挨拶が交  
されます。

「お早よう」「天気がよいですね」という  
近隣の挨拶言葉は、絶対にでてこないほど、  
爆音の中毒にかかってしまっているのです。

訓練の時間帯における騒音測定回数の推移（一ヵ月平均）

|   |                      | 滑走路北1kmの住宅地           |                  |                  |                  |                  |                  |                  |                  |
|---|----------------------|-----------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 年 | 時間帯                  | 52                    | 53               | 54               | 55               | 56               | 57               | 58               | 59               |
|   | 6時～17時               | 回<br>817.5<br>(77.7%) | 1016.4<br>(75.7) | 1191.8<br>(75.6) | 1191.0<br>(71.6) | 1261.3<br>(60.4) | 1396.4<br>(60.4) | 1670.5<br>(65.1) | 1991.4<br>(69.5) |
|   | 17時～22時              | 回<br>219.2<br>(20.8%) | 305.8<br>(22.8)  | 368.5<br>(23.4)  | 358.6<br>(22.8)  | 480.6<br>(27.3)  | 892.8<br>(38.6)  | 869.8<br>(33.9)  | 846.5<br>(29.5)  |
|   | 22時～6時               | 回<br>15.5<br>(1.5%)   | 20.7<br>(1.5)    | 15.3<br>(1.0)    | 25.2<br>(1.6)    | 18.6<br>(1.1)    | 22.2<br>(1.0)    | 23.9<br>(1.0)    | 28.7<br>(1.0)    |
|   | 合 計<br>(月平均<br>測定回数) | 回<br>1052.2<br>(100%) | 1342.9<br>(100%) | 1575.6<br>(100%) | 1574.8<br>(100%) | 1760.5<br>(100%) | 2311.4<br>(100%) | 2564.2<br>(100%) | 2806.6<br>(100%) |

17時～22時、夜間訓練通告時間帯

→ 夜間訓練開始

昭和59年度地区別苦情件数

| No. | 地区名     | 件数  | No. | 地区名    | 件数 | No. | 地区名   | 件数  |
|-----|---------|-----|-----|--------|----|-----|-------|-----|
| 1   | 下 鶴 間   | 33  | 11  | 上 草 柳  | 19 | 21  | 福 田   | 48  |
| 2   | つ き み 野 | 14  | 12  | 上草柳一丁目 | 19 | 22  | 福田一丁目 | 18  |
| 3   | 中 央 林 間 | 83  | 13  | 深 見 台  | 4  | 23  | 上 和 田 | 6   |
| 4   | 南 林 間   | 135 | 14  | 大 和 東  | 3  | 24  | 下 和 田 | 5   |
| 5   | 林 間     | 15  | 15  | 大 和 南  | 1  | 25  | 代 官   | 2   |
| 6   | 鶴 間     | 22  | 16  | 桜 森    | 11 |     | 市 外   | 50  |
| 7   | 西 鶴 間   | 44  | 17  | 草 柳    | 17 |     | 不 詳   | 142 |
| 8   | 深 見     | 10  | 18  | 中 央    | 16 |     | 合 計   | 738 |
| 9   | 深 見 東   | 1   | 19  | 下 草 柳  | 2  |     |       |     |
| 10  | 深 見 西   | 3   | 20  | 柳 橋    | 15 |     |       |     |

## 二、さまざまな影響

住民が具体的に蒙る騒音被害は、いくら実態を曝露しても、到底被害の深刻、重大さについて解ってもらえないかも知れません。

このことは、被害発生現地で長年居住する住民自身でなければ、到底正確に、心身的、生活的に理解しえない極めて内容が深刻で重大であるからです。

### (1) 健康な生活の被害

#### 1、音は人をも殺す

音が人の命を奪う。なにも小説の話ではない。ほかならぬ第一次騒音被害訴訟の原告である、真屋求さんは一九七八（昭五三）年五月十七日に開廷された第八回公判に原告側証人として出廷し、代理人である弁護士尋問にこう答えています。

葉山弁護士が、騒音にかかわって真屋さんの家庭に何か変った事がありましたか、と尋ねますと、「一九六一（昭三六）年十月八日、私の長男・二男は私の兄と三人で、家近くの小田急線の無人踏切りを渡りかけた際、米軍ジェット機の騒音で電車が完全に消され、三人共電車にはねられ長男は、とうとう幼い命を絶つことになった」と訴えました。

このことは、まさにジェット騒音が、電車の走音を消したため、電車の接近に気づかず悲しい事故結果をつくりだした内容であります。

騒音が心臓等の循環器系の諸機能に対して、障害をもたらし、重い影響を与えることは医学上からも公知の事実とされています。

#### 2、難聴、耳なり

耳鳴りがすると訴える住民は非常に多くいます。

ある住民は「あの強烈な音ですので、横から殴りつけられているような感じで耳がウワーンというわけですね、頭の芯のながグイーンって鳴っています。」

そしてお隣の住民は「あのキーンと私の家を飛び越していく、ジェット機の金属的な激しい音が耳に突き刺さってきます。」

私はその音が耳に痛くて恐いので、私の家の屋根の上にある物干し場を殆んど使わなくなりました。

ジェット機は、まるで洗濯竿をひっかければかりに低く飛んできて、身体ごと押しつぶさんばかりに迫ってきます。

難聴のため主人や子供が何回となく私を呼んでいるのに、気づかずついには怒鳴られることも度々です。私はそんな時、ヒステリックに怒鳴り返します。もう今は考えることも嫌になったし、家族の者の話を聞きとることさえも苦痛になりました。」と訴える主婦（四五歳）

#### 3、頭痛、肩凝り、めまい

強い騒音や振動、悪臭或いは心理的不安感などの強いストレスに曝された場合、強い不快感を感じるとともに、それを越えて頭痛、肩凝り、めまい等を覚えることは私たちが、とかく経験するところであります。

強烈なジェット騒音に苦悩し、墜落の危険、恐怖等に、日夜脅かされている被害住民は、いつも頭痛がしたり、肩凝りになり、目まがすると訴えています。

爆同で一九六六（昭四一）年に実施した会員対象のアンケート調査結果からも、かなり深刻な被害として集約されています。



#### 4、睡眠妨害

美しく、健やかな眠りは、太古の昔から人類不変の欲求であり、人間が生活するために不可欠の要素であります。

人間は誕生直後は、殆んど眠っており、満一歳位になると、約一八時間、二歳から五歳の幼児では一四時間、六歳から十八歳では九時間、成人では七時間から八時間の睡眠が必要だといわれています。

大和市草柳に住む主婦は、「絶え間のない騒音のために、終始イライラし、身体の調子が悪いときはイライラした気持ちが昂ぶって、眠れなくなり、睡眠が浅いために、床にいてもすぐ目が覚めてしまう。眠りを妨げられることで又イライラして眠が重なり、若い人と違って一旦体をこわすと仲々もとに戻れません。この事が一番つらくて。」と訴えています。

寝つきが悪くなった、睡眠不足でやりきれないと訴える被害住民は、大勢いる。このことは、アンケート調査結果からも六五パーセントの住民が、具体的に訴えています。

#### 5、生活の妨害

騒音による日常生活の破壊は、一言ではとても語りきれない。

被害住民にとって、日常生活の上で何をすけるのにも、常に騒音がつきまとい、被害を受けていない生活の場面は全くないといわざるをえません。

労働の疲れをいやし、子供を育み、団らんを楽しむ、いわば住民の皆ともいうべき、健全な家庭生活の全面的破壊の姿を、爆音という怪物を通して、見ざるをえないのであります。

家庭生活では会話が必要であり、話すこと、聞くことは、人間の生活に不可欠であります。ところが、裁判を起しているそれぞれの原告が住む、居住地域では、子供から老人まですべての人間が等しく、家庭から、職場から、集会場から、道路から、学校からあらゆる所から、自由な会話を奪われてしまいました。

また電話での通話でも会話と同様によく似た妨害を余儀なくされています。

ただ電話の場合は、相手がその場にいる会話と違って、相手と中断する原因がわからないから、その都度相手に説明して、話すのをやめるようにこちらから頼まなければなりません。面倒であり、電話の料金を考えると、腹がたつが、用件を足せませんから承知で、静かになった時、また電話をかけ直すことが多くなり、この経験は、被害住民の多勢が経験をしてきましたところであります。

神奈川県が一九八二（昭五七）年に実施した、基地周辺の四、三〇六名の成人から単純無作為抽出法でまとめた、被害実態集約の結果も、生活妨害の深刻さを歴然と現わしています。

#### 6、教育現場への阻害

家庭の生活が破壊されると同様に、静穏な教育環境を騒音は、破壊し尽していく。

それでも学校の教師は、イライラする感情を抑え、冷静に保ちつつ、教育効果をあげる努力を着実にすすめるなければならないと思います。

第一次被害訴訟の第一四回目の公判に原告側証人として、法廷に出廷された大和中学校の社会科の先生は、騒音とのかかわりで、教育現場の被害をこう証言しました。

「社会科授業は、生徒達の盛り上がり、たいへん重要であった。折角、生徒自身が授業に寄せる関心が強まった時、ジェット機が飛ぶと爆音で、その授業は中断同様になる事が、屢々あった。

また、合唱コンクールの際など、例えば録音最中であつたりすると、どうしても最初から、やり直しを要求された経験がありました。騒音がいかに学校教育に無駄と迷惑をかけているか、教師として大へんはがゆい事だと思います」と証言しています。

また第二一回目の公判に、証人として駆けつけていただいた、日本女子大学で心理学者として重鎮をなしている児玉教授は、「騒音が大きくなると、身体的にはかなり悪影響を及ぼすことは事実であり、この事は動物実験で明らかであり、学会でも認められている。特に握力検査を行うと、騒音地域の子供は、常に情緒不安定であるため、一人が八回つ

行う握力検査に耐えられない」と証言、更に「例えば一定の条件を与え、知能検査をする際、最初にジェット音を与え知能検査し、次に騒音の質を変えた音を与え検査すると、試験結果が極度に減少する」このことは、騒音による中毒が進んでいるとしか思われないと、極めてショッキングな証言をされています。

## 墜落事故の危険性

国鉄でも私鉄でも、ホームで電車を待ち、駅に電車が進入してくると「危いですから白線の内側にお下り下さい」と甲高いスピーカーで乗客へ注意の喚起をしてくれる。

道路には歩道が設けられていて、人は歩道を歩いている限り、車の危険から安全を保障されており、まず大丈夫である。

軍用機は、もともと戦闘性や機敏性を要求され、そのことが優先するわけで、安全度や保安度は極めて低くおろそかにされていることが常識である。

大和市では、一九六四（昭和三九）年九月八日に館野鉄工所へ墜落し、五人の生命を奪った、F8クルーセーダーの惨事。

また、一九七七（昭五二）年九月二十七日、横浜市緑区の人家を直撃し、幼児二人、と母親の命を奪ったファントムの惨事。

いずれも悲惨な、言葉では語ることでできない事故であるが、パイロットだけは救助されている。第二次騒音被害訴訟の第一回公判

で、被害陳述をした原告（主婦）は、「艦載機が離陸し、高い金属音を発しながら、私の家へ向って飛んでくる。私はいつもあの艦載機が私の家へ飛び込んでくるのではないかと、真剣に思わざるをえない。」と法廷で述べている。

爆同が昨年四月に、全会員を対象にまとめたアンケート調査のなかで、(1)航空機の音がこわいと思ったことがありますか、との問いに、いつもある〓五五・六パーセント、(2)時々ある〓三六・四パーセントと回答しているように、会員はつねに精神的苦悩を迫られる生活を負わされていることが解る。

またジェット機が墜落するのではないかという不安を感じていますかとの問いに、(1)強く感じている〓七七・〇パーセントと極めて高い回答を示し、(2)少しは感じている〓二〇・〇パーセントの回答を加えると、九七・〇パーセントの会員が、強い不安危険感をつねに懐いている事が解る。

表の事故発生状況では、墜落事故だけで六四件、一年に二回の割りで発生しているし、墜落現場が全部神奈川県であるという内容か

ら、われわれの身近かな問題として考えなければならぬ。

世界には、数えきれない軍事基地、飛行場が配置されており、日本だけでも二七カ所あるが、厚木基地のように、都市化のなかで、墜落の危険をかかえて訓練を繰り返しているところはない。また事故率からしても世界で一番高いところである。

墜落等の事故発生状況

| 事故年 | 墜落 | 不時着 | 落下物 | その他 | 計   |
|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| 27  | 2件 | 0件  | 0件  | 0件  | 2件  |
| 28  | 2  | 2   | 0   | 0   | 4   |
| 29  | 5  | 1   | 0   | 0   | 6   |
| 30  | 7  | 2   | 0   | 1   | 13  |
| 31  | 6  | 3   | 3   | 1   | 14  |
| 32  | 6  | 3   | 4   | 4   | 16  |
| 33  | 3  | 2   | 3   | 4   | 13  |
| 34  | 0  | 4   | 4   | 0   | 5   |
| 35  | 4  | 1   | 1   | 3   | 16  |
| 36  | 6  | 0   | 8   | 1   | 12  |
| 37  | 1  | 0   | 5   | 1   | 4   |
| 38  | 4  | 2   | 2   | 0   | 9   |
| 39  | 8  | 1   | 3   | 3   | 16  |
| 40  | 3  | 0   | 4   | 0   | 5   |
| 41  | 0  | 2   | 2   | 0   | 5   |
| 42  | 0  | 0   | 3   | 0   | 2   |
| 43  | 0  | 0   | 2   | 0   | 2   |
| 44  | 1  | 1   | 2   | 0   | 2   |
| 45  | 1  | 0   | 0   | 2   | 4   |
| 46  | 1  | 2   | 1   | 0   | 3   |
| 47  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 48  | 1  | 2   | 0   | 0   | 3   |
| 49  | 0  | 1   | 0   | 1   | 2   |
| 50  | 0  | 0   | 0   | 1   | 1   |
| 51  | 1  | 0   | 0   | 1   | 2   |
| 52  | 1  | 0   | 0   | 0   | 1   |
| 53  | 0  | 1   | 1   | 1   | 3   |
| 54  | 0  | 2   | 0   | 0   | 2   |
| 55  | 0  | 0   | 0   | 0   | 0   |
| 56  | 0  | 1   | 1   | 0   | 2   |
| 57  | 0  | 2   | 1   | 1   | 4   |
| 58  | 0  | 1   | 0   | 1   | 2   |
| 59  | 1  | 3   | 0   | 0   | 4   |
| 計   | 64 | 39  | 50  | 26  | 179 |



# きれめのない爆音と恐怖のなかで 二五年にわたる基地被害との対決

## 爆同の結成

一九六〇（昭三五）年七月、訴え続ける騒音に、これ以上は我慢できない、黙っていては殺されるかも知れないと、自らの命を守るために、被害住民が手を継ぎ生命・財産を守ろうと立ち上がった。

九月二五日に「厚木基地爆音防止期成同盟」を結成し、ここにズブの素人が真剣になって基地をとり囲み、反基地運動の第一歩を踏み出した。

## 人権侵犯で提訴、飛行規制を要求

国民は等しく平和で文化的生活を営む権利を保持している。爆音は人類に対する人権侵犯であるとしてまず横浜地方法務局及び神奈川県人権委員会へ足を運び提訴した。

そして当局をして人権侵犯の事実調査をさせることに成功した。

同時に当時の調達庁長官に、騒音被害軽減のため、次の内容の飛行規制協定の締結を申し入れた。

一九六一（昭三六）年五月九日

調達庁長官への申し入れ

- ・基地及び滑走路の拡張防止
- ・基地出入の飛行は隔日に行い、午後六時から翌朝八時までは厳禁。
- ・戦闘訓練は、行政協定されていないので違法であるから即時中止。
- ・公共施設集団住宅の上空の飛行禁止。
- ・エンジンテストは、午後六時から翌朝八時まで厳禁し、同時に地下で行う。離陸時の補助エンジン使用は厳禁。
- ・市・県・国は速やかに爆音の被害の科学的調査を行う。
- ・基地外端より四キロ以内を危険区域として必要な補償。
- ・公共施設及び被災住宅に対し、冷暖房付き完全防音工事を施工。
- ・ラジオ・テレビの受信料、電話料金、所得税の減免措置。

## 一年で一二四回の要望行動

当時の記録によると一日の飛行回数が七八八機、実に時間当り三三機、二分間に一機の割りで住民の頭上を低空で飛び交い、音量の

最高は一二九ホーンと記録されている。とても人間が住んで生活をしてゆける状況ではなく、「平和で静かな」という題目以前の問題として、なんとかしなくては生命が持たないと住民は考えたほどであった。

必然的に運動もガムシヤラに進められ、陳情、請願、決起集会、デモ等あらゆる手段、方法を網羅して意欲的取り組みがされた。

政府関係機関等へ一年間で一二四回、三日に一度の行動を繰り返したのも、この頃であった。



## 飛行規制協定成立

一九六三（昭三八）年九月十八日、開催された日米合同委員会は、厚木米海軍飛行場における飛行活動を議題とし、

- (1) 人口過密地域は飛ばない。
- (2) 厚木飛行場周辺の上空において、曲技飛行及び空中戦闘訓練は行わない。
- (3) 高さ二五〇メートル以下では飛ばない。



(4) 午後一〇時から翌朝六時まで飛行活動は禁止する。

右内容の合意が整い、事実上飛行活動を大幅に規制した全国で最初の「厚木米海軍飛行場周辺の航空機の騒音軽減に関する協定」を成立させた。

こうして爆同結成以来、国の基地政策に抵抗し、楔を打ちこんできた反基地運動は、飛行活動協定の締結、大和市基地対策協議会の設置、テレビ受信料の半額免除など一定の成果をおさめてきた。

## 艦載機墜落、五人の生命奪い去る

軍用機は、安全性、保安面の対策は常に二次的であり、艦載機の墜落事故は多発し周辺住民は恐怖と不安をつねに訴えていた。その最中の一九六四（昭三九）年九月八日、基地滑走路から飛び立った艦載機（F8クルーセーダー）は離陸直後失速、滑走路延長線上を這うようにして、基地から北へ一キロメートルの地点の、館野鉄工所を直撃、爆発し鉄工所もろとも五人の若い生命を一瞬にして奪い去った。

この悲惨な事故は、まさに米国と政府の失政にもとづく殺人行為であり、何の過失もない善良な市民が殺されるという、全く痛ましい災難というほか、いいようなない事故であった。

## 主な反基地の闘い

事故の多発、爆音の継続、偵察機（EC-121）の北朝鮮海域での撃墜など反市民的基地情勢の悪化に、これからの反基地運動を真剣に執行委員会で討論した爆同は、一九六八（昭四三）年度の定期代議員総会において、(1) 基地撤去を運動目標に明確化する。(2) 口先だけで陳情、請願をしても行政は住民を守ってくれない。(3) 生活の防衛は、全会員が腰を上げて実力行使を含む強い運動でなくてはならない。と決定した。

### (1) 会員の総意で実力行使

飛行阻止の実力行使によって要求の前進を計ることを決定した爆同は、次の要求の全面解決を防衛施設庁長官へつきつけた。

- (1) 飛行活動を隔日にする。
- (2) 午後六時から翌朝八時までは、すべての飛行活動、エンジンテストは禁止する。
- (3) 日曜日・国民の祝祭日・年末年始の飛行活動の禁止。
- (4) 飛行方法、高度の規制強化。
- (5) テレビ受信料の全額免除。
- (6) 基地周辺整備法の抜本改正による住民救済法の制定。

同年一二月二〇日、防衛施設庁からの回答は、いずれの要求に対しても善処、努力、検討の語尾に終る具体的実施に乏しい回答であった。



った。

## 整然と実力行使へ突入

この回答は、翌年二月緊急に招集した臨時代議員総会で検討されたが一蹴された。

そして八月十五日から三日間を第一次の実力行使として基地滑走路北側に櫓を構築し、坐り込むことが決定された。

八月十五日の早朝から五十名の会員の手により坐り込み現場に櫓、テントが組みたてられ爆同の本部旗が掲げられた。

会員が各支部から続々とつめかけ、この実力行使を基地に対する激しい怒りで固く結び住民の団結を誇った。

一日目を頑張り、二日目を経過、三日目へと実力行使は続けられ、米軍ジェット機の飛行活動は完全にとまった。

実力行使で飛行阻止をすることができた、会員は歓声と同時に運動の自信を肌で知ることができた。

しかしこの間、警察権力の介入が度々あり、航空法適用で検束すると脅しをかけてきたが、米軍基地に航空法の適用は出来ないというやりかえした。

三日目の午後、日本社会党選出の国会議員と防衛施設庁の間で事態収拾策が話しあわれ、夕刻になって現地闘争本部へ回答が伝達された。その内容は(1)テレビ受信料については、現行半額減免区域を拡大し(大和市全域)、

従来の放送局のみの減免負担を防衛施設庁も共同負担とする。(2)飛行コースの厳守、高度の改正、飛行規制を監視する日米合同監視委員会設置等については、八月二二日開催の日米合同委員会に提案し検討する。(3)提案内容は、日本側はエンジンテストの場所現在三カ所を一カ所に統轄する。高度は現在二五〇メートルを五〇〇メートル以上に改正、エンジンテストの時間は、現行より二時間短縮することと提案する。

この防衛施設庁の回答は現地で開催した執行委員会でも検討され、不満な点は多いが一応の誠意が認められる。として実力行使を中止し、日米合同委員会終了後、施設庁交渉をして第二次実力行使の実施について決めるという爆同声明を発表し、坐り込みを解除した。

### (2)空母ミッドウェー横須賀母港反対の闘い

一九七二(昭四七)年の暮から米第七艦隊の攻撃型主力空母ミッドウェーを横須賀へ配備・母港化する政治情勢があり、基地周辺住民は母港化の間、艦載機が厚木基地に飛来訓練することを恐れ、一九七三(昭四八)年を迎えると、早くから母港化反対の市民総決起集会、デモ行進、街頭での宣伝署名活動、国・市への陳情、請願行動等、母港化反対闘争を活発に展開した。同年一〇月五日には横須賀市長に母港化撤回、艦載機厚木基地への飛来反対の要求書をつきつけ、「母港化は横須賀

市の自治権の範囲問題であるが、艦載機の厚木基地飛来については横須賀市が責任をもって中止せよ。」と強硬に迫るなど爆同全組織の総力をかけ、市内民主団体、革新政党の共同で阻止闘争を展開したが、全市の闘いにならず母港化を許すことになった。

### (3)自衛隊移駐阻止の闘い

一九七〇(昭四五)年十二月二十一日、第十二回日米安保協議会で厚木基地の共同使用



が合意された事から、海上自衛隊航空部隊移駐の話題がもち上ってきた。

一九七一（昭四六）年に海上自衛隊厚木航空基地分遣隊を発足させた防衛庁は、一九七三（昭四八）年三月、海上自衛隊航空集団司令部を中心とする航空機五〇機、兵員二、〇〇〇名の移駐を強行しようと関係機関（県・市）へ働きかけを具体化してきた。

周辺住民は、この移駐を阻止、撤回するため国はもとより県市に移駐絶対反対の請願書



を提出、県では同年六月議会でこの請願が採択されたが、大和市と同市議会は、自衛隊移駐は国策だから仕方がないという態度を始終とり続け、議会は多数により、自衛隊移駐を容易にし極めて反市民的姿勢を鮮明にした。爆同は、市内民主団体、革新政党と共闘体制をつくり、基地北側に陣取り、移駐阻止市民決起集会、街頭宣伝など多彩の反対行動を展開したが、同年十二月二十四日、強化移駐を完了させた。

#### (4) 対潜哨戒機 P3C 配備阻止の闘い

一九八〇（昭五五）年十月十七日、防衛庁は P3C の厚木配備を、一九八一年に三機、一九八二年に五機、そして一九八四年中には、二二機にすることを文書で通告してきた。

爆同は護憲反安保県民実行委員会と協力し、「厚木基地 P3C 配備阻止現地闘争本部」を結成、徹底的な配備阻止の運動を展開してきた。基地への出入口で終日監視活動を繰り返したり、市内（大和・綾瀬）全戸へのビラ入れ活動、更には「核もちこみ反対 P3C 阻止県民集会」など第一次から第六次まで丸一年間にわたり阻止行動の支援を協力に展開してきた。しかしながら、かつてない阻止行動にも拘らず、一九八一（昭五六）年十二月二十五日、滑走路南側から胴体に日の丸を鮮明にした P3C 三機が厚木基地へ着陸し、強行配備された。

### 自衛隊弾薬庫建設の策動

そしていま、弾薬庫二棟建設計画や基地の地下に潜水艦攻撃作戦センターの建設がすすめられようとしている。

P3C 配備計画が、かつて文書通告によって明らかにされた時「自家用車の買い換えと思って下さい。P2J より P3C の方が安全である」とか「戦争をしているわけではないので核は積まないし、必要もない」といい切ってきた人たちが、いまどんな考えと気持ちでいるか判らないが、われわれが当時から心配していた事が、いよいよ本格的になってきた事だけは否めない事実である。





# 騒音訴訟にふみきる

## はじめに

爆同結成以来、運動から運動に明け暮れ、県・市会そして国会へと私たちが提出してきた陳情・請願書は二〇回を数え、また防衛施設庁はじめ関係機関、アメリカ大使館への抗議要望行動は二〇〇回を越え、爆同は総力をあげて、すべての人的・時間的労力を基地にかかわって費やしてきた。

しかし結局「揉み手で頭を深く下げて、よろしく願います。頼みます」方式では問題の解決にならないことを知らされた。

三日間にわたる実力行使で、完全に米軍機の離発着を止めてみたが、やはり根本的解決にはならなかった。

まさに爆同十六年にわたる反基地運動は、国の基地対策をつくらせることには成功したが、その後のミッドウェー母港化による艦載機飛来、海上自衛隊の移駐など、基本的なことからでは「防衛」という二文字に蹴散らされ地方自治体に僅かな補助金行政をおしこむことで、住民の声や訴えは最も遠い距離に置かれてきた。

そして無念さだけが残るなかで、私たちは、運動の構築を真険に考え、一九七六（昭五一）

年五月、爆同第一六回定期議員総会は「新周辺整備法を粉砕し、基地の永久使用に歯どめをかけ、騒音被害の解消をめざして、騒音訴訟を闘う」ことを決定した。

## 横浜地裁へ九二名が提訴

爆同第一六回定期議員総会で、騒音訴訟を起して闘う事を正式決定してから、提訴まで僅か三ヵ月余。この間爆同は総力をかけ、社文法律センター神奈川支部所属の、宇野・小池両弁護士を代表格として二五名の弁護士と共に、忙しく原告団組織の結成、被告実態の調査と訴状の作成、原告各自の陳述書作成と、日夜の別なく極めて能動的に、奮闘した。そして一九七六（昭五一）年九月八日に、九二名（内主婦三八名）の原告団は、弁護士、支援者と共に、堂々と横浜地方裁判所の門をくぐり、裁判へ固い第一歩を踏みだすことが出来た。

## 裁判にかける意義

爆同結成以来、騒音と墜落の不安に懊悩し、明けても暮れても反基地運動に取り組み、国

の関係機関や自治体に要望、嘆願、請願等、揉み手で何とかして欲しいと繰り返し行動をしてきた事を考えれば、裁判の闘いが長期間であることを理解しながら、充実した画期的な闘いができると確信した。

同時に（一）日米共同軍事基地において、住民運動が提訴した騒音被害の、最初の差し止め請求の闘いであること。（二）提訴にふみきるまでの一七年間、住民が闘い続けてきた軍事基地に対する「空しさ」を法律的手続きに委ね、



みんながさめた目で、最後のよりどころとして裁判所に訴えたこと。(三)従つてもし裁判が行政当局並みの意識で説得力のない、形式論において原告敗訴の判決をだしたとしたら、われわれ被害住民は、頼るべき国家機関はいずこにも見出せなくなり、日本の法律不信は、たんに原告のみでなく、国民全般へと拡がり、かつ民主主義は根底から崩れ落ちることになる。(四)同時に人類が生きようとする歴史的世代的継承は、断絶することになる。

## 請求の趣旨と正当性

被害住民である原告が請求する内容は、『一、被告・国は自ら、またはアメリカ合衆国軍隊をして原告らのために、(一)厚木海軍飛行場において、毎日午後八時から翌日午前八時までの間、一切の飛行機を離着陸させてはならず、かつ一切の航空機のエンジンを作動させてはならない。

(二)同飛行場の使用により、毎日午前八時から午後八時までの間、原告らの居住地に六五ホーン以上の航空機騒音を到達させてはならない。

二、被告・国は原告らに対し、総額二億七千八百万円ならびにこれに対する本訴状送達の日から支払はずみまで、年五分の割合による金員を支払え。

三、被告・国は原告らに対し、一九七六(昭五二)年九月以降、(一)毎日午後八時から

翌日午前八時までの間、一切の航空機騒音、ならびにエンジン作動の騒音がなくなるまで。

(二)その余の時間帯において、原告らの居住地に六五ホーンを超える一切の航空機騒音で到達しなくなるまで、毎月二万三千円の割合による金員を、当該月の末日ごとに支払え。

四、訴訟費用は被告・国の負担とする。』との判決および仮執行の宣言を求める。

原告が差し止め請求を内容として主張するところは、公害対策基本法に基づく一九七一年(昭四六)年五月二五日の閣議決定、神奈川県条例等の規制基準に照らし(一)夜八時から翌朝八時までの間の飛行活動全面禁止、(二)昼間の六五ホーン以上の飛行騒音の規制であり、このことは、人間の生きる権利として、健康にして快適な生活を維持するための必須条件であること。

しかし基地の現状は、被害を軽減して欲しいと願っている数十万人の周辺住民の意向を無視して、被害を拡大し極めて危険な方向へと深刻度を増大させている。

## 人格・環境権の争い

米軍も自衛隊も、被告住民のわれわれにとって暴力装置であって、日常の市民生活上の必要や利益とは何の結びつきもない事は、われわれが反基地運動、裁判闘争と二五年にわたる運動のなかで生活体験として、肌で感じてきたところである。

例えば公害訴訟では、既に大阪空港・新幹線訴訟があるが、これ等は日常不特定多数の市民にとって利用されるという生活上の手段があるが、厚木基地には一片たりとも、生活上の結びつきはない。

あくまでわれわれは、日夜激しい爆音、振動、墜落の危険に脅かされてイライラし、気分がめいり不快な状態に落ちいる。

「家庭生活は妨害され、教育は壊され、やがて生命まで失われる」。

この人間としての生活し生きる権利を、回復保証して欲しいと願うことが人格、環境権の要求であり、差し止めという法律的手続きによって充てたいと、われわれ原告は主張しているのである。

そして少なくとも日本国平和憲法の解釈上わが国を他国の侵略から防衛するための国家の活動と、健康や平和で静穏な日常生活を求める国民の何れが、法的価値として優越し、何れが法的により厚く保護されるべきかの価値判断を抜きにして、この訴訟についての正しい結論を下すことは出来ないことは確かな事である。

この意味において、われわれの訴訟は、すぐれた憲法裁判としての意義をもち、またここが訴訟の重要な争点でもある。

## 国の反論(最終準備書面から)

被告・国の反論を最終準備書面から抜粋し





てみると、(一)厚木基地をアメリカに貸しているのは、日米安保条約及び地位協定にもとづきアメリカ合衆国に使用させているのであり、駐留する西太平洋艦隊航空司令部は、太平洋海軍航空部隊司令部の指揮下にあつて、極東の施設及びい下部隊を持ち、同基地はこれら各部隊に対し、航空機による作戦支援及び補給、整備、訓練、後方支援を行っている極めて軍事上重要な基地であること。(二)憲法九条は、日本が主権国としても固有の自衛隊は何ら否定されていない。そして自国の平和

と安全を維持するため、自衛の措置をとる事は国家の最も基本的な任務と機能の一つである。同時に自衛のための具体的方法の選択は国民の負託を受けた政治部門が諸般の事情を考慮して、決定すべき高度に政治的な事柄である。(三)以上からして厚木基地の存在そして使用は、極めて高度な政治的部門の判断に委ねるべきで、司法審査の対象から外すべきであると反論しているのである。(四)また同基地は、一九四一(昭十六)年以来のものであり安保条約、地位協定にもとづく米軍使用、自衛隊移駐、同使用は、すべて告示されており、厚木基地は一貫して軍事基地の機能が継続されてきており、その社会的環境からして十分周知してきている筈。従つて住民が居住してきて、その反基地性の差し止めを求める事は、言語道断との反論を臆面もなく繰り返している。

### 結審を迎え更なる決意

ライシャワー発言で日本への「核」持ちこみの疑惑が深まり問われるなかで、原告延千二百名を二六回開廷された公判へ送りこみ、訴訟開始から四年九カ月の歳月を経て、一九八一(昭五十六)年六月一七日に結審をむかえた。基地被害に苦しめられてきた長年の怒りと、公判での被告・国の、住民切り捨て居直り態度に、居ても立ってもいられない気持を抑え、結審法廷は予定どおり開廷。原告側は、三時

間三〇分にわたり(一)訴えの理由、(二)国の管理瑕疵、(三)差し止め請求、損害賠償論に分け、六名の弁護士が最終弁論を行った。これに対し、被告・国は、三時間にわたり相変わず(一)安保条約、国の統治行為、(二)公共性と受忍限度論を使い分け、双方で六時間三〇分をこえる弁論に、五〇名の原告団は固く見守り続けた。

結審が終り裁判所中庭に集合した原告団を前にして、主任弁護士を務めてこられた小池弁護士は、「今日の最終口頭弁論は、内容において完全に原告側が勝った。ただ日米安保条約が質的に強化されたり、政治反動が急速にすすんでいる今日の政治情勢の下では、裁判所に住民側に立った判決をださせるため、これからがむしろ本當の闘いになる筈である。」と結んだ。

われわれは、健康で文化的な最低限度の生活を営むために、必要不可欠なギリギリの措置を、被告・国におこなわせるよう裁判所に命令して欲しいと、原告準備書面でも結語している。このことは、それなくして人たるに値する生活が成り立たないという性質のものである。

まさにこの裁判の判決は、極めて簡単明瞭でなくてはならないし、答えは明白にでているのである。

## 「なぜもどらぬ静かな夜」 「夜間飛行差止め」却下＝第一審判決

ジェット騒音に、眠る時間さえ侵され続けてきた被害住民九二名の原告が起した「厚木基地騒音被害訴訟」に、一九八二（昭五七）年十月二十日午前十時、横浜地方裁判所小川裁判長から判決が言い渡された。

丁度、時計の針が十時に合わさると同時に、法廷入りした小川裁判長に、全原告の目がくいているように集まる。うつむいた姿勢で重く判決主文の朗読が始まり、「飛行差止め請求について却下する。被害については過去分の損害賠償について認める」と発言。原告から「エッ」「なんで」と、啞然とした溜息が法廷の静寂を打ち破るように聞えた。

### 判決報告集会で 司法の「正義」を糾弾

僅か三分間の判決朗読。裁判所前の宣伝車上に「一部勝訴」の垂れ幕が弁護士の手で掲げられた。二百名におよぶ支援者とともに報告集会に臨んだ原告団は、「反基地運動に取り組んで二十三年、最初の十年間は揉み手をし頭を下げて行政当局に陳情、要望を徹底して繰り返してきたが、住民が受ける被害に適切な処理がなされなかった。その後、智恵を絞り、三日間の実力行使でジェット機を止めたが、やはり問題解決にならなかったと知っ

た時、最後は司法の正義に期待し裁判しかないと考え、六年の訴訟の戦いにすべてをかけた。

しかし判決は行政権力に司法が屈服したこととなり極めて残念であり、当然控訴して最後まで闘う」と怒りの決意を表明。

また弁護士団を代表して小池弁護士は「判決内容はかつての大阪空港最高裁判決に準拠して言い渡された内容であり、飛行差止めが却下されたことに強く抗議する。しかし損害賠償の認定で、国賠法二条一項が適用された事は、国が基地の設置、運営上瑕疵（重大な過失）があることを裁判所が指摘した事であり、横田判決に較べ一歩前進したと考える。従って、控訴して闘うことにより展望が持てる」と結んだ。

### 判決の骨子・内容

判決の骨子・内容について、抜粋し必要箇所をまとめてみた。

#### \* 判決の骨子

一、本件飛行場の設置、管理と自衛隊機の運行とは、密接不可分に防衛施設権の行使としてなされているものであるから、自衛隊機の離着陸の差止め等を求める請求は直接当然に防衛行政権の行使の取消変更ないしはその発効を求めるものであり、民事訴訟の手続きによることは許されない。

また安保条約等に基づき、米国の権限において離着陸する米軍機については、その運行に関して我が国の民事裁判権は及ばないし、被告・国に対し条約上の義務履行行為と接触する米軍機の離着陸について、制限措置を執ることを求めることは、法的に不能を強いるものである。従って本件差止め請求はいずれも不適法であるから却下を免れない。

二、被告・国の設置、管理する本件飛行場においては、その使用目的に沿って米軍機及び自衛隊がこれを利用することにより、離着陸に際して騒音等が発生させ、営造物である本件飛行場の使用者以外の第三者に該当する原告ら周辺住民に、受忍すべき限度を超えた精神的苦痛を生じせしめている。

従って、被告・国は右原告ら（八〇のコンター以内の地域に居住する八〇名）に対して、国賠法二条一項に基づき、慰謝料としての損害賠償責任を負う。

三、本訴提起の日の三年前以前に発生した損害についての賠償請求権は、時効により消滅している。

四、将来の損害賠償請求は、権利保護の要件を欠き、不適法であるから却下を免れない。

#### \* 判決の要旨

一、二項については省略。  
三、被告による侵害行為が、仮に高度の政治性を有する条約等に由来し、いわゆる統治行為に属するものであるとしても、国民の中



の限られた一部の住民にのみ受忍すべき限度を越えた被害を及ぼしていると認められる場合には、法の根本原則である衡平の觀念に照らして、かような侵害行為は違法であるとの評価を受けざるを得ず、被害を受けている当該一部住民が救済されなければならないのは当然であるから、本件訴えのうち損害賠償請求は適法である。

四、本件飛行場では、一九六〇（昭三五）年当時よりジェット戦闘機をはじめとする各種の米軍機が頻繁に離着陸を繰り返し、周辺地域のうちでも滑走路北側及び南側での航空機騒音は、かなり激甚であったことがうかがわれる。また、一九七三（昭四八）年の空母ミッドウェーの横須賀入港以来、同空母の寄港中にその艦載機が多数本件飛行場に飛来して騒音が一段と騒がしくなった。

更に、本件飛行場における航空機の離着陸は、墜落や落下物の危険等の面からみても、周辺住民に不安感、恐怖感を与え、精神的、心理的に悪影響は及ぼす侵害行為であると認められる。

五、六項は省略。

七、公の営造物である本件飛行場に、施設自体としての物理的欠陥ないし不備がない場合であっても、飛行場の供用目的に沿って米軍及び自衛隊がこれを利用することにより、多数のジェット機を含む航空機が離着陸するに際して騒音等が発生させ、営造物である本件飛行場の使用者以外の第三者に該当する原

告ら周辺住民に被害を生ぜしめている状況は公の営造物である飛行場の設置、管理の瑕疵（国賠法二条一項）に含まれる。

本件飛行場は、周辺住民に受忍限度を越える被害を発生せしめることが避け難い状況にあるにもかかわらず、その設置、管理者たる被告は、右被害の発生を防止するための十分な措置を講じないまま、本件飛行場をジェット機を含む多数の航空機の離着陸に使用させ、しかも自ら海上自衛隊を移駐させて騒音等を一層激化させているから、受忍限度を越える被害を被った原告らに対し、国賠法二条一項に基づく損害賠償責任がある。

八項以下は省略。

## あらたな闘いに仲間の輪

### ―爆同臨時総会で控訴決定

判決後、僅か四日目の十月二十四日、各支部長、代議員、原告と総勢八〇名を集め開催した臨時代議員総会は、延々三時間にわたる討論をした結果、「一審判決の変更を要求して控訴する。」ことを全代議員の満場一致で決定した。

報道関係は一切シャットアウトし機関に結集した者が、お互いに遠慮のない意見を出し、決定内容に責任と体を使って運動を強めるため、時間をかけた総会であった。

総会では、「(一)本部として六年にわたる訴訟の闘いを生かし、基本的には控訴して現判

決の変更を要求して闘う。そのことが住民の生活を守る事であり、いま全国で闘っている反基地の闘い、裁判の闘いに影響を与える事であり、仲間の連帯でもある。

(二)それには訴訟費用を含め、全会員から従来どおり会費の拠出を要請する」との提案に、発言に立った各代議員は「組織的にみても会員からすれば控訴する事に問題もあるが、いま立ち上がり控訴する事が、子供や孫たちに静かな生活と環境をつくる基本になる」との意見。また最年長の真鍋さん（原告）からは「この闘いはできれば私が生きていっているうちに決着つけたい。子供や孫にこの苦しみを残さないために控訴して闘います」と発言し、会場から万雷の拍手が湧き上がった。

総会議長が「控訴して闘うことは組織、原告にとって息の長い重い闘いであるので控訴することについて挙手で採決する」と発言、全代議員の満場一致で控訴を決定した。

## 原告七七名が控訴

### 控訴手続き完了

一審での裁判闘争は、提訴から結審まで四年九ヵ月、判決まで六年一ヵ月の歳月を爆音の切れることのない状況下での闘いであった。原告団にとって極めて長い闘いであり、この間八名の物故者、七名の市外転出と状況も変わり、これらの原告を除外し七七名で控訴する準備をすすめ、十一月二日、横浜地裁を

經由して東京高等裁判所へ、すべての手続きを完了させた。

## 闘いの輪を更に広げ 第二次訴訟へつなぐ闘いを

長かった六年間の第一次訴訟の闘いは、あらたに東京高裁へ闘いの舞台が移され、更に茨の道を歩み続けることになった。

一審判決は、平たく言えば命じた損害賠償金以上のことは、「公共性」ゆえ我慢（受忍）しろと因果を含めて説得しようとしているだけで、騒音から原告をはじめ多数の住民を本気で救い出す努力は、みられない内容であった。

原告であるわれわれは、もともと厚木基地撤去や飛行全面禁止を要求したのではなく、せめて夜だけでも静かに眠りたいとする人間として極めて当り前の要求を起こしたものであり、それさえ空しく片づけられてしまったわけである。

われわれは控訴した事で決意をあらたに住民組織の質的再編を行い、同時に第二次訴訟を起こして闘うことも決定した。

また、判決が、深刻な被害の現実の前に被告・国を完全に免責することができず、一部ではあるが被告に対する賠償を命じ、更には米軍機による被害まで国賠法で賠償を命じたことは、日米共同使用によって住民が日々蒙っている被害が国の加害行為によるものには

かならないとした判決要旨を、今後の住民運動をすすめる大きな手がかりとして、あきらめず望みを捨てず、反基地運動を広げながら間断のない取り組みをしたいと考える。

## 東京高裁の闘い

控訴審での第一回公判は、控訴後約一年を経過した一九八三（昭五八）年九月二日東京高裁民事第十五部の法廷で開かれた。控訴理由の意見陳述に立った原告代理人の中野弁護士は、「横浜地裁の原審判決は、原告らの悲願である航空機の夜間離着陸差止め、昼間騒音の禁止について、被告である国のまやかし論調に引きづられ、防衛行政権などの耳慣れない述語を用いて、これを却下した」と厳しく裁判所の司法責任を追及した。更に「将来の損害賠償についても原・被告の立証責任分配をとり違えて却下し、僅かに過去の損害賠償の一部を、しかも仮執行宣言に付さずに認容するという極めて低次元、誤りの解釈しかもたらせなかった」と意見陳述を続け、さらに控訴審を担当される裁判長に、「住民要求を正面から捉えた民主的で正当な司法判断を強く要請する」と締め繰った。

## 被告・国の反論

被告・国は、控訴審でも相変わらず、米軍機・自衛隊機の飛行活動が違法かどうかは、高

度に政治性をもつもので、司法審になじまないだけ反論するに止まった。

## ゴマカシが効かなかった現地検証 「裁判長の頭上に二〇八ホーン」

控訴審の検証は、第一回公判後一ヵ月過ぎた十月十三日十七時から、滑走路北側二、〇〇メートル地点の緑の広場を使って行われた。

一審では三回行われた検証が、事前の基地側への対応で、いずれも米艦載機は殆んど飛ぶことがなかっただけに、集った五十名を超えた原告会員はまた被告国に裏切られたと思っていたが検証時間の開始頃からF4ファントム・A7コルセアが、つぎつぎ離着陸訓練を行ない、三十分間に二十三回、最高音一〇八ホーンを記録するなど、まずまずの検証効果をあげることができた。特に米軍から、訓練通告が周辺自治体になされた後であり、連日のように市民の苦情が電話で市役所に殺到している背景もあって、裁判長も「これはひどい」といわざるをえない一幕もあり、終始シブイ顔で検証を見守る被告・国の代理人と極めて対照的な現地検証で終った。

## 二年十ヵ月で結審

「裁判はシンドイ。金もかかるし疲れる」原告がそれとなくこぼす言葉である。横浜地裁



にくらべ東京高裁では、電車に乗っている時間も倍かかる。十回の公判を闘い三回の現地検証に参加し、とうとう結審に漕ぎつけた。残暑が厳しく汗ばむ一九八五年八月二八日、原告・被告双方が分厚い最終準備書面を前に結審となった。

原告の準備書面の巻頭に、「現判決は原告らの切実な要求である。本件飛行場における一定時間帯の航空機の離発着の禁止および音量規制の請求を『門前払い』で却下し、損害賠償請求額を『値切り』認容し、将来の損害賠償請求については却下し、更に仮執行宣言を付さないという不当な判決であった。

これでは、原告らは日常蒙っている『深刻かつ重大な精神的苦痛』からは全く救済されない。『日常生活を保全するうえで最低限度維持されることが望ましい』環境を保持することはできない。われわれは原判決に全く承服することができない。……控訴審裁判所は、原判決のような空理・空論を弄ぶことなく、単純・卒直に事実を直視し、大胆・簡潔に原告らを救済すべきである」と原告そして数十万人の周辺被害住民の声を判決に期待している。

## 第二次騒音被害訴訟に一六一名の原告 基地を包囲する住民の怒り

第二次騒音訴訟は、厚木基地を完全に包囲し、みんなで基地をみつめ、監視する形で提

訴することに決定。原告への参加を会員に呼びかけてきた。

組織された原告は、大和市八二名、綾瀬市四二名、海老名市一四名、座間市七名、藤沢市八名、相模原市八名と一六一名の原告団を結成することができ、弁護団についても飛鳥田団長外一三三名の大規模訴訟団となった。

### 平和への良心で基地を囲む闘い

原告団の組織目標一二〇名からすると、予想をこえて原告が集ったことに驚いているが、このことは最近、夜間連統着艦訓練(N・L・P)の強行で騒音回数が増大していることや、飛行活動の行動範囲が拡大され危険が増えていることも事実だが、いま平和と安全を願う会員の良心が、真剣に結集されたものと考えている。

いうまでもなく、厚木基地は日米共同の主要基地として存在し、常に日米軍事同盟とかわり、国の軍事拡大の方向と密接に表裏の関係にある。

一九八一年一二月に、配備された対潜哨戒機P3Cは、核爆弾を配備できる危険な軍用機であり、横須賀には、トマホーク問題、原子力空母カールビンソンの寄港・母港問題がある、われわれはまさに、核の疑惑と核エスカレーション状況の圏外にいられなくなってきた。

換言すれば、われわれを取りまく周辺では、

核軍拡が目に見える形で、大へん危険に進行しているといえる。

こうした危険な軍事状況に、個人の力は小さいが、抵抗して闘う会員の良心が、大規模な原告団結集に現われたと考える。

### いなぜ第二次被害訴訟が必要か

一審判決は、差し止め請求は却下されたものの厚木基地の設置・管理運営について、国側の過失(瑕疵)を裁判長は厳しく指摘し、損害賠償を認容した。

そして騒音被害について、「人間が生活や健康を保持するうえから、受忍の限度を遥かに越えていると指摘し、国が騒音の拡大を放置してきたことは、極めて責任が重く、厚木基地は欠陥飛行場である」と結んだ。この判決内容を、原告弁護団は一部勝訴と評価してきた。

いま控訴審では、来春に判決を迎えることになったが、控訴審の公判においては、国側が証人申請もあきらめて苦慮して公判対応を迫られたことは、一審判決の内容の重みが、大きく影響していると考えることができる。

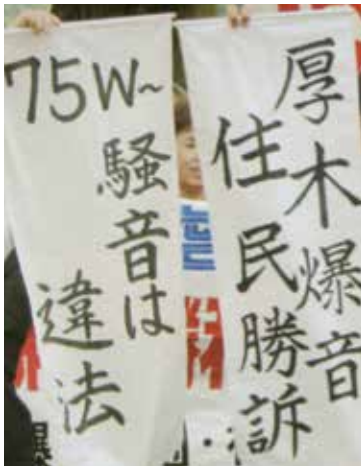
同時に、来春に予定する東京高裁判決は、横浜判決を上廻る内容の高い判決が出ることは必至である。

従って第二次の訴訟を取り組んだ事は、(一)東京高裁の判決を、更に上廻る判決を目ざせる。(二)判決と判決内容を社会正義とし、定着

させ世論をつくる。(三)少くとも騒音問題の解消を、裁判闘争を通じて決着させる。(四)基地強化に歯止めをかける。(五)地方自治の基地行政を更に強化させるなどの課題が出来ると確信するからである。

※P38から二二二まで

「25周年記念誌」から採録



## 厚木爆同の運動によって 米空母艦載機を岩国基地へ移転させる

### 第三次爆音訴訟5,047人で提訴

#### 賠償地域拡大を勝ち取る

そもそも第三次訴訟への取り組みのきっかけとなったのは、第一次訴訟の非人間的な判決があった。それは、1986年4月9日に東京高裁で判決が言い渡された。田中裁判長から言い渡しされた判決本文は、①原判決中被告敗訴部分を取り消す。②右取り消し部分にかかる原告らの請求をいずれも棄却する。③原告らの当審で拡張した現在の損害賠償請求をいずれも棄却する。④訴訟費用は第一、第二審を通じて原告らの負担とする。という内容であった。法廷を埋め尽くした70人の原告及び支援団体の組合員は判決を聞き終わっても瞬時に怒りの言葉も出なかった。横浜地裁での一部勝訴の判決をすべて覆すあまりに非人間的な高裁判決に対する怒りの声で不退転の決意で最高裁において逆転をめざす闘いを第二六回定期議員総会で確認した。そして最高裁での闘いに向けて、16万の署名を集め、1988年7月24日には2万8千人の人間の鎖で厚木基地を包囲した。

そして、1996年7月14日、第三六回定

期代議員総会を開催し、第一次爆音訴訟が終結したことを報告し、新たに第三次訴訟を原告1万人規模で闘うことを提案し、満場一致で決定した。

### 原子力空母の母港化に反対し、基地のない神奈川をめざす県央共闘会議結成

2000年代になり、厚木爆同の運動は、他の団体との連帯や協力、交流が盛んになった。その例として「厚木基地撤去、核兵器の廃絶をめざす県北地区共闘会議」の結成が挙げられる。

1984年に結成された「平和・反戦県北共闘会議」は県央地区における平和・反核・反基地の運動に取り組んできた。その間に周辺事態法の成立、憲法調査会の設置など平和と民主主義が脅かされる状況が進み、また、横須賀の原子力空母母港化が計画される中、厚木基地・キャンプ座間・相模総合補給廠を抱えるこの地域において、平和と基地撤去を求める運動を再構築することの重要性が提起され、より広範な行動をめざし、「県央共闘会議」の結成が準備されることとなった。

2000年6月18日、厚木爆同、平和・民



主団体、自治労、湘北教組、高教組の各組織代表80名の参加により「原子力空母の母港化に反対し、基地のない神奈川をめざす県央共闘会議」が結成された。この「県央共闘会議」は、厚木基地やキャンプ座間、相模補給廠、横須賀基地など、神奈川の米軍基地での軍事行動と機能強化に反対し、県央地区で平和・反戦・反基地に取り組む平和・民主団体として厚木爆同が中心となって発足した。

## 厚木基地開放日における展示飛行を

### 廃止に追い込む

厚木基地の基地開放日の展示飛行（デモンストレーションフライト）は、厚木爆同の活動と自治体による働きかけによって2001年以降は廃止された。

展示飛行とは、米軍が基地開放日に行っていたエアショーにおいて実施していたもので、急上昇、急降下、急旋回、低空飛行などを繰り返す飛行である。この飛行は、騒音の激しさのみならず、墜落事故への不安から以前より中止を求める住民の苦情や抗議が多く自治体に寄せられていた。

しかし、基地開放日に来場する人たちは展示飛行を目当てだとして、米軍は展示飛行の中止には難色を示した。

そんな中で、基地開放日に向けて展示飛行のリハーサル訓練中にパラシュート部隊が基地外に着地し民家等に損害を与えた事故が

1997年6月26日に起こった。この事故をきっかけに翌日には厚木爆同が抗議声明を出し、展示飛行の即時中止を訴えた。

この年以降、厚木爆同は抗議を続け、それに伴い自治体も動き出す。1998年の基地開放日の展示飛行中止を求め6月29日に大和市長と市議会、綾瀬市長、基地周辺の五市議会で作る基地対策協議会は厚木基地司令官らに要請した。こうした厚木爆同の運動や自治体からの要請もあって、1998年の展示飛行は我々の運動の成果として中止させた。

しかし、1999年の基地開放日には展示飛行が実施された。そのため、2000年の展示飛行について、神奈川県は「NLPとは異なり、日米安全保障条約上関連のない単なる“曲技”」との認識を明らかにし、中止を強力に働きかける姿勢を明確にした。厚木爆同も2000年6月29日、展示飛行の中止を求め厚木基地正門前で抗議のシュプレヒコールを行い監視行動をした。



機闘戦闘米軍飛行展示する編隊モンダイ

厚木爆同の運動と共に、大和市長が展示飛行や深刻化するNLPに抗議するために厚木基地との友好関係断絶を宣言したことも相まって、2001年4月18

日、米海軍厚木航空施設司令官が大和市長を訪ね、この年の基地開放日に展示飛行を行わないことを表明した。

その後、2001年12月28日に大和市長は在日米海軍司令官に展示飛行の廃止要請を行った。さらに、2002年4月15日、神奈川県と周辺七市は国と在日米海軍司令官等へ、展示飛行の廃止を要請した。

これらの要請を受けて、2002年5月22日、在日米海軍司令官は外務省の副大臣との会談で、「展示飛行は今後行わないことにした」と述べ正式に展示飛行の廃止を表明した。

## NLPに抗議

### “怒りの炎” 集会で実施回数削減

1991年12月以降、硫黄島においてNLP（夜間連続離発着訓練）が行われるようになり、1995年以降はNLPの約9割が硫黄島で実施された。しかし、あくまでも硫黄島は暫定的な施設であり、米軍は距離的な問題や天候不順などの理由でNLPの硫黄島での全面実施は困難という判断だった。硫黄島の施設完成以後もNLPは厚木基地で行われることがあり、その都度厚木爆同は抗議を続けた。

2000年9月には月に2回もNLPが実施された。2001年2月23日にNLP通告に抗議するため“怒りの炎”と名付けた抗議集会を開催し、基地北側で古材を燃やした。



集会「怒りの炎」

この時のNLPは理由が明らかにされていないが中止させることができた。厚木爆同は、同年9月24日に「違法爆音・NLP 反対」集会を、9月25日には「怒りの炎」集会を土井たか子氏命名による滑走路北側空き地の「憲法磨きの丘」で開催した。2001年はNLP実施を止めさせることができた。

NLPに関して日米両政府は「NLPは硫黄島で実施する」事で政治合意し、2月4日防衛施設庁は「NLPの日米両国政府了解事項」を公表した。その内容を以下に示す。

1. 合衆国政府は引き続きできる限り多くのNLPを硫黄島で実施する。
2. 合衆国政府が本土の飛行場においてNLPを実施しなければならない場合においては、合衆国政府は、従来の慣行を継続し、できるだけ早く日本政府に通知するとともに、騒音・環境等の面に最大限配慮する。

こうした情勢を受けて、厚木爆同は2003年3月13日基地正門前で抗議集会と中止を求める要請行動をし、夕方には「怒りの炎県民集会」を開催し、違法爆音・NLP

反対を訴えた。こうした行動の結果、その後は毎年のNLP実施回数を激減させることができた。

### 第三次厚木爆音訴訟 横浜地裁判決

1997年12月23日、横浜地裁に訴状を提出、1998年には原告が追加され、最終的に5,047人の大規模訴訟団として第3次厚木爆音訴訟がスタートした。この訴訟では飛行差し止めを請求しない形で損害賠償だけを求めた。原告数を増やすことで賠償額を上げ、騒音被害は違法であるとの判決を積み上げ、政府に圧力をかけるという「現実論」を実行した。

ただ、厚木爆同の悲願が「爆音のない静かな空をとりもどそう」であったことを考えると、飛行差し止めを請求しないことは、厚木爆同を母体とする原告団にとって苦渋の選択であった。

2002年10月16日、1審判決が出されW値75以上の地域での騒音が受忍限度を超えていると認定され、4,935人の原告に総額約27億4千万円の損害賠償の支払いが被告国に対して命じられた。その中では「国による厚木基地の設置、管理には違法性があるといわざるを得ない」「騒音状況を相対として把握すべきで、NLPの有無だけで判断するのは相当ではない」との司法判断が下され、おおむね満足のいくものであった。また、W値

80以上の地域にしか認められなかった損害賠償がW値75以上の地域まで拡大され、さらに被告側が主張した「危険への接近論」や「勤め人論」を理由とした損害賠償額の減額措置は採用されなかった。裁判の早期決着を図るためにも原告側は控訴しない基本方針であったが、国はこの判決を不満として10月29日に控訴した。

### FA18スーパーホーネット

#### 配備に抗議

米軍の新型機が厚木に配備されるという動きを受けて、厚木爆同の執行委員会は2003年10月18日、配備に抗議する方針を決定した。10月29日には強行配備反対の要請書を外務省に提出。12月12日には、強行配備撤回を求め、基地南側で監視行動を行った。さらに12月23日には米軍に要求書を提出した。

しかし、2004年10月2日スーパーホーネット10機が厚木基地に飛来し、強行配備されてしまった。

### 厚木基地艦載機の岩国基地移転計画

#### 爆音のたらい回し反対を表明

在日米軍再編計画の一部として厚木基地の空母艦載機を岩国基地へ移転させる計画が持ち上がった。2005年10月に中間報告が発表され、地元の合意がないまま2006年5



月30日閣議決定された。

厚木爆同は、この米軍再編計画に対し、「厚木基地と岩国基地での騒音のたらい回しでは爆音はなくならない。米軍は米本国へ帰れ！自衛隊は来るな！」との基本見解を発表した。そして、「米軍機の爆音が軽減される確かな保証はなく、自衛隊の追加配備は爆音の通年化、基地の恒久化につながり、住民の期待を満たすものではない。」と訴えた。

さらに、岩国移転に対し、「受け入れ先の地元住民の立場を考えると、岩国移転を評価することはできない」とする立場を明らかにした。このように厚木爆同は、岩国移転計画に反対する姿勢を示し、岩国市での艦載機移転に反対する市民運動を支援し、協力した。2006年3月5日に岩国市では市民運動団体主催のイベントが行われ、その集会に厚木爆同から代表が参加し、「岩国基地への厚木基地艦載機の移転を我々は望んでいない」と岩国市民に訴えた。岩国基地周辺住民による運動と厚木爆同との交流や支援は岩国基地爆音訴訟準備会の形成と、2009年3月の岩国基地周辺住民による初めての騒音訴訟提訴につながっていった。

米軍再編計画には厚木基地の艦載機が岩国基地に移転されても厚木基地で訓練が実施されないとは言っていない。また、厚木基地がそれによって返還されるとも明記されていない。言い換えれば、米軍再編によって、基地機能が強化されると危惧される状況なのである。

### 第三次厚木爆音訴訟 東京高裁判決

2003年7月から東京高裁で控訴審が始まり、2006年7月13日に高裁判決が言い渡された。判決では損害賠償、基地爆音訴訟としては過去最高である総額約40億4千万円の支払を国に命じた。また、賠償の範囲も一審の判断が維持され、W値75以上の地域を勝ち取った。そして、「危険への接近論」を理由とした賠償額の減額も認めなかった。

この高裁判決を「騒音被害に対する国の責任に踏み込んだ一審判決を全面的に支持している」と評価し、最高裁へ上告しない方針を決定した。国も上告しなかったため第三次厚木基地爆音訴訟は確定した。

### 第四次厚木基地爆音訴訟

#### 原告7,054人で提訴

2007年1月頃から第四次訴訟についての検討を始め、第四次厚木爆音訴訟では、次の時に請求しなかった「飛行差し止め」を再び請求する方針を1月26日に明らかにした。そして今回は、米軍機と自衛隊機の飛行差し止めに関して、従来の民事訴訟だけでなく、行政訴訟も提起することにした。

3月下旬から20万枚のパンフレットと加入申し込み書をW値75以上の地域に配布して原告の募集活動を行った。2007年9月に結団式が行われ、12月7日、厚木基地周辺住民



第四次原告団 行進する裁判所

6,130人が国を相手取り横浜地裁に提訴した。その後、2008年4月21日に追加提訴を行い原告総数は7054人となり、基地騒音訴訟の原告としては過去最高規模となった。

### 全国基地爆音訴訟

#### 原告団連絡会議を結成

厚木爆同は2000年以降、沖縄の反基地運動団体との交流も積極的に展開し、嘉手納基地包囲行動、沖縄平和行進、普天間基地包囲行動などにも参加した。こうした相互交流が深まる中で、米軍再編計画の中間報告が2005年10月に発表され、各地の米軍基地では、基地機能の強化をもたらす米軍再編に団結して反対する動きが生まれた。そして、騒音被害と闘う訴訟団の集まりを持つという声を受けて、厚木爆同が中心になって交流集会を開催する準備が進められた。

厚木爆同が呼びかけ人となり、2008年9月に全国の基地騒音被害を訴える訴訟原告団、訴訟準備会、計7団体が大阪市に集まり、交流集会を開催した。参加団体は、沖縄新嘉手納基地爆音訴訟原告団、普天間基地爆音を

なくす訴訟原告団、小松基地爆音訴訟連絡会、横田基地等の公害対策を進める準備会、第四次厚木爆音訴訟原告団の7団体と厚木爆同の計8団体であった。

この交流集会で、今後も情報交換を続けるために、連絡会議を立ち上げることが同意された。そして、2008年12月8日、「全国基地爆音訴訟原告団連絡会議」が結成された。

## 自衛隊P-1哨戒機配備阻止にむけ

2007年に防衛省から海上自衛隊の新型対潜哨戒機P-1の厚木基地乗り入れが打診され、大和・綾瀬市の議会が「配備でなく乗り入れならば」と受け入れを認めたときから、配備の恐れがあった。

P-1は海上自衛隊が厚木基地に配備しているP-3C対潜哨戒機の国産後継機として開発されたものだが、P-3Cはターボジェットプロペラ機であるのに対し、P-1は4発のジェット機であることから、1971年(昭和46年)に防衛庁が大和市、綾瀬市に通知した「厚木基地には自衛隊のジェット機は使用しない」という、いわゆる ※46文書に違反するものであることは明らかであった。

もともと1971年当時は、厚木基地の米軍戦闘機による爆音被害が激烈であり、厚木爆同など市民団体や行政も爆音被害に対して大きく抗議していた時期であった。米軍から厚木基地の一部が返還され、自衛隊との共同

使用基地となったことから、千葉の下総基地から海上自衛隊が移駐してくることになり、大きな反対運動が立ち上がった。これに対し防衛庁(当時)は基地の騒音対策として「自衛隊はジェット機の使用はしない」と言う文書を知照してきた。これが46文書である。

P-3Cは1981年から海上自衛隊に納入され、厚木基地にはP-3Cの拠点として配備されているといわれている。

納入から30年が経過し、退役機が出てきたこともあり、後継機P-1の製作が2000年に発表され、川崎重工や三菱・富士重工などの手により開発・試作が始められた。

しかし、P-1はジェット機であることから46文書に違反するとして、厚木爆同は厚木基地への配備に抗議・反対運動を続けてきた。

2007年12月8日には乗り入れ阻止のデモ行進、2008年1月15日には防衛省南関東防衛局にP-1移駐反対の申し入れを行った。その後、も南関東防衛局との交渉や基地の監視行動に取り組んだ。

2010年2月15日、防衛省がP-3Cの後継機としてP-1を2011年度から4機厚木



P-1 配備阻止で大和市役所に座り込み

基地に配備することを発表した。厚木爆同は2010年5月23日、P-1配備撤回大和集会を開催し、配備撤回を強く訴えた。その後、海老名、相模原、町田、藤沢、座間の各地域でも配備反対統一行動を提起し、反対闘争に取り組んだ。

## 毎年学習会を開催

### NHK受信料などをテーマに

厚木爆同は、1年に1回講師を招いて学習会を開催している。この時も弁護士・福田護先生にNHK受信料の不払い運動のための法的裏付けを学習した。われわれは航空機の爆音によってテレビの音が聞き消され、まともな放送サービスが受けられないため、爆音被害地域の家庭のNHK受信料を、爆音加害者である国が全額肩代わりすることを求めて受信料の支払いを拒否する運動を続けている。しかし、最近の裁判で「受信機を設置した者は契約の義務があり受信料を払わなければならない」との判決が示され、会員間に疑問や不安が高まったため学習会を開催し「支払の督促や通知があった場合は個人で解決せず、厚木爆同事務局に連絡し組織で対応する」事を確認した。

このように、裁判闘争の現状についてや、厚木基地の問題点、地位協定を巡る問題などについて学習を深め、現在まで開催を続けている。





なお、NHK受信料問題に関して、2019年の学習会を受けて、厚木爆同本部としても、「問答集」という形でパンフレットを作成し、全会員に配布した。

自衛隊P-1哨戒機配備阻止にむけ

## 各支部で街宣行動

厚木爆同は、2011年に入ってもP-1哨戒機の厚木基地配備を阻止するために、組織を挙げて運動に取り組んだ。そして、2011年10月からは、各支部において街宣行動に取り組んだ。それぞれの支部の最寄り駅頭に立ち、「厚木基地への自衛隊のジェット機配備は約束違反だ!」「※46文書は生きている。」と、訴えた。それと同時にビラ配布も行い、広く市民に訴える行動を1年にわたり続けた。

※46文書Ⅱ1971年6月25日に日米合同委員会において海上自衛隊との共同使用が合意され、29日閣議決定、翌30日移管式を経て7月1日に「厚木航空基地分遣隊」が設置された。その移駐にあたり、自衛隊の維持運営について横浜防衛施設局を通じ、大和市・綾瀬市に通知した文書。以下にその内容（一部抜粋）

昭和46年12月20日

横浜防衛施設局長

厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について

厚木海軍飛行場の運用に関し、日頃のご配慮とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、昭和46年6月29日の閣議決定に基づき、海上自衛隊が本年7月1日から当該飛行場の維持運営にあたっており、今般、下記事項を履行することとを約し、ここに、海上自衛隊が部隊を編成し、その任務の遂行にあたることとなりましたので、通知します。

## 記

## 1 飛行場の運用について

(1) 人口過密化傾向の著しい貴市の事情を十分に理解し、今後、滑走路の新設、延長等飛行場の拡張は行わず、又、客観情勢に対応し、極力、整備縮小に努力します。

2) 当該飛行場の運用にあたっては、住民の生活の安全確保を第一義的に配慮し、海上自衛隊としても、現在当該飛行場においてとられている航空機の騒音の軽減に関する規制措置を遵守するのほか、要すれば、貴市と協議する機関を設け、一層の安全対策をこうじます

(3) 将来、今般の自衛隊の使用計画を著しく変更する場合は、あらかじめ貴市と協議します

(4) ジェットエンジンを主たる動力とする飛行機(ターボプロップ機を除く。)は、緊急やむを得ない場合を除き、使用しません。

補遺

# 1 部隊の編成について

当該飛行場（基地）における部隊の編成については、厚木航空基地分遣隊のほか、現在、下総航空基地にある部隊の一部（第4航空群等）を漸次移転し、最終的には航空機約50機、人員約2,000人をもつて構成する計画である。

## 2 著しい変更について

「厚木海軍飛行場の海上自衛隊による共同使用について」の記1(3)に規定する「著しく変更する場合」とは、「1 飛行隊以上の部隊を増強する場合」と解する。

これに対し、防衛省は地元の理解を得て配備したいと表明したが、地元民との協議は一度も行われず、綾瀬・大和市議会の了承を得たとして、2013年3月に厚木基地へのP-1配備を通告、2013年3月29日に厚木基地への配備を強行したのである。

## 空母艦載機による機体の一部落下事故

## 飛行中止を求める

米空母が横須賀に入港すると、厚木基地では毎日のように艦載機の離着陸訓練が行わ



道路に落ちた部品

れ、厚木基地周辺住民はすさまじい爆音に連日晒されている。そんな中で、厚木基地に着陸しようとしていた米軍艦載機の電子戦機E A 6 B プラウラーが胴体左パネルを剥離脱落させる事故を起こし、

基地北側、相鉄線脇の県道にかなり大きな部品を落下させた。人的被害はなかったものの、走行中の車に接触し、一歩間違えば重大な大惨事になりかねない部品落下事故であった。厚木爆同はすぐに厚木基地に対し抗議行動を行い、「即刻飛行訓練の中止、原因究明と安全確認の公表まですべての航空機の飛行を中止」することを強く要求した。

しかし、そんな住民の思いを無視するように、原因の報告も安全の確認もないまま、3月30日には、事故を起こした同型機の飛行再開が強行された。厚木爆同は大和駅頭での街宣行動を展開し、住民をないがしろにした米軍の横暴な行動を強く非難した。

4月22日、プラウラーは本国アメリカに帰還し、代わりにグラウラーが配備された。

## 激しい離着陸訓練により

### 苦情・抗議が3日間で2700件

2012年5月22日から3日間、連続離着

陸訓練が厚木基地で行われた。FCLP

(連続離着陸訓練)とNLP(夜間連続離着陸訓練)を連続

して行い、想像を絶する激しい爆音をまき散らした。そしてひどいことに通告し

てきたのは、前日であり、地元住民を尊重しないまさに寝耳

に水の対応であった。通常、空母出航の1週間前にFCLP・NLPは、硫黄島で行うことになっている。今回は空母のトラブルにより、厚木で訓練を行ったと発表された。トラブルの原因は未だに公表されていない。

この3日間、多いときは1分おきに100dB(デシベル)を越える騒音が数え切れないほどだった。住民の怒りも限界に達し、行政への苦情・抗議は、3日間で2700件を越えた。5月23日、厚木基地正門で米軍司令官に対し強く抗議し、即時訓練中止を求めた。そして、その日のうちに南関東防衛局にも行き、抗議行動を行った。

## 連続する米軍機による墜落、部品落下事故

### 一切の飛行停止を求める

オスプレイの厚木基地飛来に対する不安が



基地正門での抗議行動

高まる中、2013年12月16日、厚木基地所属のヘリコプター(MH60S)が、三浦市三崎に墜落する重大事故が起こった。厚木爆同など県内平和7団体は12月20日、南関東防衛局長に対し①事故の原因と飛行ルートを早期に究明し、住民の不安と恐怖を取り除く再発防止策を住民に示すこと ②原因が究明されるまで同機種の飛行を止めること などを強く迫った。しかし、局長からは、①人的被害はなかったが、住民に不安を与え遺憾である ②同機種の安全点検を徹底する との回答にとどまった。

また、ヘリ墜落事故の不安が消えない矢先の2014年1月9日、今度は綾瀬市寺尾北の住宅密集地に米戦闘攻撃機(FA18Eスーパーホーネット)の金属部品落下事故が起こった。部品落下は駐車中の車の窓ガラスを突き破り、幸い人的被害はなかったものの一歩間違えば人命に関わる重大な事故であった。

厚木爆同は、恐れていた事故が連続する事態を深刻に受け止め、1月10日、厚木基地司令官に対し、「事故原因の究明と公表、再発防止策と安全管理が徹底されるまで一切の飛行を中止すること」を強く申し入れ、抗議した。

## オスプレイの厚木基地への

### 初飛来中止を求める

2014年7月9日、防衛省は「米軍のMV22オスプレイが厚木基地に飛来する可能性



がある」と大和・綾瀬両市に通告した。通告を受けた両市長は、直ちに「市民の負担増につながるオスプレイの飛来は容認できない」と反対の姿勢を示した。

2年前に沖縄の米軍普天間基地に配備されたオスプレイが東日本に飛来するのは初めてであり、厚木爆同は原告団や県央共闘、神奈川県平和運動センターと連携し、7月11日に南関東防衛局、14日に米海軍厚木基地を訪れ「オスプレイの飛来中止を求める抗議文」を手渡し、「住民に新たな不安と爆音をもたらすオスプレイの飛来は断じて認められない」と強く訴えた。こうした地元自治体や住民の声を無視して7月15日午後3時30分、オスプレイ1機がついに厚木基地に飛来した。厚木爆同は、滑走路の南北に騒音測定器を設置し、約50人で監視行動を行った。基地北側住宅地上空に回転翼を上に向け重低音の爆音をとどろかせ、オスプレイが現れると「オスプレイは帰れ!」「合意違反の飛行は止めろ」と一斉に抗議の声がわき起こった。



厚木基地にオスプレイ飛来

オスプレイの飛行は、日米合意で「基地外では回転翼を真上に向ける垂直離着陸モードは原則禁止」とされており、この日の飛行は明らかに日米合意に違反

し墜落事故を起こしかねない危険な飛行だった。

オスプレイ飛来に対する反発が強まる中、住民の不安を逆なでするかのよう

に8月18日には4機が厚木基地に飛来した。米軍は地元自治体に「東富士・北富士両演習場での訓練のため立ち寄る」と通告していたが、実際は23日までの訓練期間中オスプレイは連日連夜、厚木基地に駐機していた。そして東日本で初めて市街地上空で夜間飛行を行った。さらに3機は帰還予定日の23日を過ぎても厚木基地にとどまり、ようやく25日に飛び去った。再三にわたるオスプレイの厚木飛来は、「沖縄の負担軽減」を口実とし日本全土でオスプレイの飛行訓練を行うため、厚木基地を本土訓練の拠点とする動きが強まっている。

## NHK放送受信料の全額助成を

### 総務省・防衛省に要請

厚木基地の騒音への対処措置として厚木爆同が要求・実現した受信料減免措置がある。1964年4月1日から厚木基地周辺地域でラジオ受信料は全額免除、テレビ受信料は半額免除という減免措置が開始され、5月16日



オスプレイ監視行動

にはテレビ受信料半額免除地域が大和市全域に拡大された。

厚木爆同では、航空機の騒音によってテレビやラジオの視聴困難が生じていたため、関連機関への陳情を展開した。1961年9月には、郵政省、NHK、防衛施設庁等の合同実態調査が行われ、全国規模の運動も展開したことで、1964年4月から免除措置がとられるようになった。しかし、厚木爆同としては、「爆音の被害による不完全な電波に料金は出せない」という主張に基づき引き続き全額免除に取り組んでいる。

そんな中で、新たな行動として国と基地周辺自治体への要請行動に取り組むこととし、2014年7月28日に「厚木基地周辺のNHK受信料の全額免除および全額助成を求める要請」を総務省と防衛省を訪ねて要請を行った。

また、8月26日から29日にかけて「厚木基地周辺のNHK受信料全額免除を国に求める要請」を厚木基地周辺の自治体(大和市、綾瀬市、座間市、海老名市、藤沢市、町田市、相模原市)および神奈川県に対して行った。

厚木基地周辺住民は、自衛隊や米空母艦載機による爆



NHK受信料問題で防衛省に申し入れ

音で、テレビの音がかき消され、普通にテレビを見ることや聞くこともできない状態が続き、心身ともに多大なストレスをもたらしている現状が続いている。この現状を踏まえ、今回取り組んだ「NHK受信料の全額免除を求める要請」は、爆音が解消されるまでの間、住宅防音工事の対象区域としている75W以上のコンタナー内に済んでいる住民のNHK受信料を全額助成することを求めている。

## 2013年から毎年基地視察を実施

2013年に始まった基地視察は毎年、バスを貸し切り、関東周辺の基地を視察している。第2回は「横田基地」「入間基地」で視察を行なった。2015年の第3回は、会員



基地視察参加者で記念撮影

40名が参加して航空自衛隊百里基地と茨城空港を視察した。百里基地周辺では、厚木基地と同様に爆音被害や部品落下事故を起こしている。今回の視察では、平和活動に取り組ん

でいる茨城県平和擁護県民会議の相楽事務局長と百里基地反対同盟の梅沢さんのご案内で視察を行った。百里基地闘争の百里基地裁判やひと坪運動と航空機墜落や航空機騒音の解消などを現地で学び、これからも連帯して闘っていくことを確認した。

この後も、2016年には横須賀基地、浦賀水道、武山駐屯地池子米軍住宅を、2017年は、木更津駐屯地、ノースドック、川崎平和観を、2018年は、横田基地と丸木美術館、2019年は、米軍キャンプ富士と自衛隊東富士演習場というように毎年視察を行っている。

## 訪問支部会議を全支部で開催

2013年から本部役員が各支部に伺い、支部が抱えている課題や支部活動の活性化に向けての意見や要望を承る「訪問支部会議」をスタートした。

2014年も会員の声を組織運営に生かすため、執行部の三役が各支部（11支部）を訪問して意見交換を行った。この年最後の開催支部となった大和南2支部では、支部組織の立て直しが出来たこともあって、大変多くの会員の皆さんが参加さ



訪問支部会議の様子

れ、積極的に意見や要望を出された。出席された会員からは、「この爆音を何とかして欲しい」「厚木爆同が力をつけて関係機関を動かして静かな空にしよう」と爆音解消を訴える声が多く出された。

## オスプレイと飛行訓練に反対する

### 東日本連絡会を結成

厚木爆同からも役員として参加する「オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会」が2015年1月17日、関東および静岡、山梨、長野、新潟各県から21団体の代表が出席し開催された。

この連絡会は米海兵隊MV22オスプレイが沖縄・普天間基地に24機配備され、訓練飛行が全国展開の様相を見せ始めていることから、東日本エリアで連絡組織を立ち上げ、情報の共有体制と、国および自治体に対する要請行動を強化するものである。

## 新会員歓迎会を開催し

### 学習と交流を深める

厚木爆同は、組織強化に向け、会員の拡大に取り組んできた。2014年には、55世帯の方々が新会員として加入された。この新会員の皆さんと力を合わせ行動するため、2月8日「新会員歓会」を開催した。

当日は、冷たい雨が降りしきる日でもあつ





新会員歓迎会

たが、多くの新会員の皆様に出席頂いた。

歓迎会は、厚木爆同の活動や厚木基地の実態などの学習会と、参加者との意見交換を行う交流会を行った。交流会では参加者から、活動への貴重な意見や要望をいただいたので、これからの活動に活か

していくことを確認した。

## NHKかながわ西営業センターに

### 受信料問題で毎所要請

厚木基地周辺住民は、米空母艦載機による激烈な爆音に見舞われ耐えがたい状況にあることから司法の場に訴えてきた結果、「爆音は受忍の限度を超え、違法な爆音である」との判決が出されている。

私たちは、NHK受信料制度そのものを否定するものではないが、航空機の爆音によってテレビの音がかき消され、まともな放送サービスが受けられないため、爆音被害地域のNHK受信料を国が全額負担すべきと考えることから、NHK放送受信料の全額助成に向け行動している。その行動の一環として、11月8日にNHK横浜放送局かながわ西営業センターを訪ね要請書を提出し、意見交換を

行った。

要請内容の概要

は、①NHKは、見られない、音が聞こえないなどの状況を解消させる責任を負っている

ので、米空母艦載機による激烈な爆音に見舞われテレビの音が聞こえないなどの深刻な状況を解消させるため、艦載機爆音の解消を国に働きかけて欲しい。

また、航空機爆音による障害が解消されるまでNHK放送受信料を国が全額助成するよう関係機関（省庁）に働きかけて欲しい。

②NHKが委託した訪問員は、恐喝めいた態度での訪問が増加しており、特に高齢者や一人暮らし、女性に対しての激しい言葉遣いなどによるトラブルが多発していることから、訪問員の教育指導を徹底されると共に、トラブルの再発防止に早急に取り組んで欲しいなどを要請した。

## 第四次厚木爆音訴訟で

### 自衛隊機の飛行差し止め勝訴

〈画期的判決 地裁判決 2014年5月21日〉

2007年12月に提訴した第四次厚木爆音訴訟は、追加提訴を経て原告7,054



NHK営業センター要請

人となり、2008年5月12日に第1回の口頭弁論を皮切りに裁判闘争がスタートした。2014年3月11日には、73,805筆の署名を横浜地裁に提出、いよいよ地裁判決に向け、緊張感が高まった。

同年5月21日、提訴以来6年半の歳月を経て、横浜地方裁判所第1民事部において、判決が言い渡された。その内容は、「厚木基地周辺住民に対する爆音被害は違法である」として損害賠償額の増額を認め、自衛隊機の夜間（午後10時～午前6時）飛行差し止めを命ずる画期的なものだった。民事とともに、行政訴訟にも取り組んだ弁護団の功績であった。私たちの悲願である飛行差し止めが、自衛隊機についてのみではあるものの、これまでの基地爆音訴訟でいずれも門前払いされてきた差し止めの厚い壁を、一歩でも打ち破ることができた点は、今後の闘いの大きな力となった。これは、厚木爆同と原告団の長きにわたる運動の継続と、全国的な基地訴訟運動の広がりによるものといえる。

しかし、最も激しい爆音をまき散らしている米軍の飛行については、「日本が米軍の活動を制限する根拠がない」との判断から、今回も差し止め請求は棄却されました。米軍の飛行差し止めが認められない限り、爆音問題の解決はなく、大きな課題が残されているため、原告団は、「米軍機の飛行差し止めが認められず、自衛隊機の飛行差し止め時間も十分ではない」として、控訴する方針を決定し

た。

## 〈高裁初の自衛隊機差し止め、将来請求を認める 控訴審判決 2015年7月30日〉

地裁判決を受け、各支部で報告会を開催し、控訴審に向けて、一致団結して米軍機の飛行差し止め、自衛隊機の飛行差し止め時間の延長を求め、闘うことを誓った。そして、2014年11月27日高裁での口頭弁論が始まり、2015年7月30日、原告6、935人に対し、判決が言い渡された。内容は、自衛隊機の夜間飛行差し止めを命ずるとともに、損害賠償について将来請求を認める画期的なものだった。

しかし、米軍機の飛行差し止め請求については「米軍機を差し止める法的根拠は存在せず、米軍機の飛行差し止め請求は不適法である。」と、またしても私たちの永年の闘いをしりぞける残念な結果となった。

高裁判決を詳しく見ると、(1) 自衛隊機の差し止め請求については、「W値75以上の地域に居住する原告は、基地騒音により睡眠妨害、その他の生活妨害で人格権利益が大きく損なわれており、2016年末まで自衛隊機の夜間飛行差し止め(午後10時～午前6時)を命ずる」(2) 損害賠償請求については、①厚木基地の騒音レベルは周辺住民の生活環境に関わり、健康にも影響を及ぼしうる重要な利益の侵害に当たり、社会生活上受任すべき限度を超える被害を生じさせるもので、権利法益の侵害である。②国は危険を認識しな

からあえて近づいた場合に賠償が減免される「危険への接近」法理を主張するが、転入者にとつて騒音の実態はある程度継続して居住しなければ実感できず、危険への接近に当たらない。③将来請求(平成27年5月15日以降)については、これまで厚木飛行場の使用および供用の違法性が40年にわたり継続されており、今後も同程度の騒音が継続する可能性が高い。しかし、米艦載機が平成29年頃に岩国に移駐する計画であることから、平成27年5月15日から平成28年12月31日までの間、将来請求の支払を命ずる。との判決が示された。

## 〈住民救済を放棄した最高裁 不当判決 2016年12月8日〉

2016年8月11日、米軍機の飛行差し止めを求めて、最高裁に上告し、最高裁前や駅頭でのビラ配布や学習会に取り組み、最高裁に向け闘いを開始した。

2016年12月8日15時、最高裁判所第1小法廷で判決が下された。横浜地裁の二審判決、東京高裁の二審判決が認めた「自衛隊機の飛行差し止め」を認めず、東京高裁の二審判決が認めた今年12月までの「将来請求」をも却下した。

また、今年9月、最高裁が「米軍機飛行差し止め」について東京高裁判決を不服とした原告の上告を受理しなかったことから、「米軍機飛行差し止め」却下の判決も確定した。

連日こんなに激しい爆音で、基地周辺住民の精神や健康が破壊されているにもかかわらず、

それを立証しなければだめだという最高裁の判断は、冷酷な政府と同様、血も涙もない司法の最高権力者の考えだ。

40年間かけて争ってきた米軍機の飛行差し止めを今回も認めない理由は、米軍機は「第三者行為」で日本の司法では判断できないと最高裁が住民救済を放棄し続けているからだ。

自衛隊機について最高裁は、裁判で飛行差し止めができるのは、防衛大臣が裁量範囲を超えて自衛隊の運航をした場合で、「自衛隊機の飛行差し止め」を認めた高裁の判断は誤りだと主張した。

国防は高度の公共性・公益性があり、住民の睡眠妨害は深刻で軽視できないが、それが防衛大臣の職務の乱用によるものだと認定できない。従って、航空機の飛行差し止めはできないとした。この最高裁の判断は、住民の健康被害を認めながら、軍用機の公益性は



第四次訴訟、左から横浜地裁判決 2014.5.21、東京高裁判決 2015.7.30、最高裁判決 2016.12.8



それを上回るものだとしたものだ。

約半世紀にわたり爆音被害は基地周辺の住民に健康上多大な被害を与え続けている。その住民が航空機爆音によって殺されかけているのに、司法は黙ってみているしかないという。これでは司法は社会的責任を放棄したに等しい。今回の最高裁の判断は、決して我々が納得できるものではなく、不当な判決といわざるを得ない。

## 第五次厚木基地爆音訴訟

### 原告8, 879人で横浜地裁に提訴

第四次訴訟の最高裁判決後の報告集会で、原告団長が、第五次訴訟への決意を宣言し、第五次訴訟が始まった。厚木爆同は、準備段階から全面協力を約束し今日までやってきた。全爆同会員に原告募集の案内を送り、各地域で説明会を開催、1万人の原告を集めることを目標に取り組み、2017年8月4日の1回目の横浜地裁提訴で6,000人が原告参加、そして2017年12月1日、2回目の提訴をあわせ、8,879人の原告で闘いを進めることとなった。これは、過去四次にわたって行われた厚木基地における裁判史上最大の訴訟となった。

## 米軍艦載機は岩国基地へ移転

日米両政府は、2006年5月1日に「在

日米軍再編実施ための日米のロードマップ」を発表し、その中で地元の負担軽減策として厚木基地の空母艦載機の岩国基地への移転と恒常的な空母艦載機発着訓練施設の選定が合意され、この間計画が進められてきた。

2018年3月移転により軍人1,700人、軍属600人、家族1,500人合計3,800人が岩国基地へ移動した。艦載機の岩国基地への移転が段階的に進んだことにより、航空機騒音が静かになったという発言が基地周辺の首長から出されている。実際、100dB以上の騒音が減ったことは、厚木爆同60年の活動と40年にわたる裁判闘争の成果と考えられる。しかし、厚木基地には岩国基地に移転した艦載機が頻繁に飛来して訓練を行っていることが確認されている。

また、在日米軍司令部は、厚木基地を訓練、補給、整備のために折に触れて使用するとも明言している。厚木爆同は、岩国基地への艦載機移駐後の騒音や飛行状況などの実態把握に努め、基地撤去に向けた新たな取り組みを展開していかなくてはならない。

## 航空機の飛行目視調査と

### 騒音測定調査を実施

岩国基地移駐後の厚木基地の航空機の飛行の実態と騒音の状況を把握するため、厚木爆同は、原告団と協力して厚木基地を飛行する航空機の目視調査と騒音測定に取り組んだ。

2018年9月にスタートし、毎年取り組んだ。2020年で3回目となる。

まず、艦載機の移転によって騒音がどのようにに変化したか、大和市内に設置されている騒音測定器5カ所のデータと、綾瀬市内に設置されている騒音測定器6カ所のデータの分析作業を行った。その結果、移転後の4月から7月までの4ヶ月間における基地北側1Km地点と基地南側500m地点の100dB以上の騒音測定回数を2016年、2017年、2018年の4月から7月までを比較すると、移転前に比べ8割から9割程度の減少となっていた。このように、100dB以上の大きな騒音の減少は、私たちの長年にわたる爆音解消60年間の運動の成果であり、特に40年を超える爆音解消の裁判闘争で、「受忍限度を超える爆音」「違法な爆音」「健康被害を与える爆音」などの判決を勝ち取ってきたこと、さらに行政や議会、市民の声などが力となり、国を動かしたことにより騒音を減少させることができたのである。

ただ、70dBから90dBの移転後4月から7月の騒音測定回数の合計は、毎月1,000回を超える実態であり、基地周辺の騒音は引き続き発生していることがわかった。このようなことから、行政が設置している騒音測定器によるデータの数値だけでは、航空機の種類や所属、飛行経路など、騒音源の実態がわからないこともあり、厚木基地を飛行する航空機の目視調査と騒音測定に取り組むことを決

定した。

2018年

9月10日から  
21日まで土日  
を除く9日間、  
のべ72人が参  
加して実施し  
た。そして、  
データを分析  
した結果、艦  
載機移転後の  
4月から7月  
までの70dBか



飛行目視調査と騒音測定

ら90dB台の騒音測定回数は、毎月1,000回を越えている状況が続いていることがわかった。戦闘攻撃機などから発せられていた高い騒音は、移転により減少したが、神奈川県生活環境の保全等に関する条例に定められている住居専用地域での騒音許容限度とされている50dBをはるかに超える70dBから90dBの違法騒音が、未だに毎月1,000回を超える状況からして、艦載機移転によって静かになったとはいえず、引き続き70dBから90dB台の違法騒音の解消に取り組む必要があることが分かった。

岩国移転によって、行政は静かになったとの報告をしているが、移転後三年間調査に取り組んでいるが、月に1,000回を超える実態がはつきりし、静かになったといえる状況ではないことが明らかになった。

## 岩国基地移転後も艦載機の飛来が続く

「岩国移転後も厚木基地の役割は今までと変わらない」という米軍司令官の言葉を証明するように2019年1月9日から4月22日まで、のべ73機ものF/A18やオスプレイ等の飛来があった。そして4月26日には日米友好祭のために多数の艦載機などが厚木に飛来した。約60年にわたる厚木爆同運動や五次にわたる裁判闘争など、私たち住民の「静かな空」を求める声が岩国移転の大きな力になったことは評価できるが、いまだに厚木基地には多数の艦載機が飛来している状況である。

また、5月7日には空母艦載機の着陸訓練（FCLP）を硫黄島で行うという通告があった。内容は、5月9日から19日まで11時から3時まで、その上5月16日から19日は予備施設として厚木基地が指定されていた。この通告後、大和市長と綾瀬市長が米海軍厚木基地司令官、外務、防衛両大臣に対し「厚木基地で訓練を行わないよう」要請した。それだけではなく、8月24日には空母艦載機9機が厚木基地に飛来し爆音をまき散らし、翌25日、原子力空母乗組員の慰労のためのファミリークルーズで洋上展示飛行をした後、27日までに岩国基地に向かって飛び立った。そのうち2機は1本の滑走路を並走して同時に離陸するという危険な飛行をした。

## 厚木基地の新たな動き

### 基地機能強化を許さない

2020年に入り、米軍と自衛隊が今まで厚木基地で行われなかった訓練を強行するようになった。厚木爆同は基地の強化に繋がる懸念があると考え、監視を強め、抗議活動を展開した。

### 〈パラシュート物資投下訓練〉

私たちの運動の成果もあって、大きな爆音被害を発生させていた米軍の空母艦載機が岩国に移転した。本来であれば、使わなくなつた施設や土地は返還されるのが筋だと私たちは考える。しかし、米軍と自衛隊は空いた基地を利用して今まで行っていない新しい訓練を厚木基地で展開している。

それは、輸送機からパラシュートで投下する訓練である。間違つて民家に落ちる可能性もある訓練であり、今回はあろう事かパラシュートの一部が破れていたことも確認でき



パラシュート物資降下訓練



た。

### 〈空挺団降下訓練〉

9月15日に厚木基地から陸自空挺部隊の隊員が米軍輸送機C130で千葉県習志野演習地まで空輸され、そこでパラシュート降下訓練が行われた。このように厚木基地は米軍が使い、陸自も、そして日米共同訓練でも、となると基地機能はますます強化され、私たちがめざしている基地返還は遠ざかる。このため、厚木爆同は四団体とともに抗議の申し入れを行った。私たちが問題にしたのは、米軍の作戦に自衛隊を活用してよいのか、空挺部隊の錬成訓練ならば米軍機を使用する必要があるはずだということ。また、厚木基地は長年航空機の騒音に苦しめられている。これ以上の爆音をもたらずような訓練はやめるべきである。さらに、降下訓練は演習場外に着地する可能性もあるわけで前記した厚木基地でのパラシュートでの投下訓練と同じように民家に接している習志野演習場での訓練は問題だということだ。

### 〈米軍ペトリオット部隊の訓練〉

10月26日から11月5日まで日米共同統合演習に関連して、米軍が単独で実施する訓練のため米陸軍ペトリオット部隊が米海軍厚木基地に展開する情報が伝えられた。弾道ミサイル等からの防衛をシミュレーションする訓練を実施するようだ。厚木基地には、車両20両、人員50名の規模で集結した。

厚木爆同は4団体とともに滑走路脇での監視・抗議行動を行い、その後、厚木基地正門

での申し入れ、南関東防衛局に対する申し入れ等の行動を提起し、厚木基地の機能強化に断固反対していく。

以上のように最近の厚木基地では今まで無かった初めての訓練など新たな厚木基地の使用が頻繁に行われている。

今こそ周辺住民の反対の声を結集し、基地機能の強化を止めなくてはならない。それだけでなく、大和市基地対策課を通し、南関東防衛局から2点の情報提供があった。

1点目は、海上自衛隊厚木基地に乗り入れている航空機について、老朽化のため機種更新の情報だった。硫黄島におけるFCLPの支援及び同島に配備されている海上自衛隊・航空自衛隊への物資等の輸送を行っている「C-1」を順次「C-2」に更新される予定ということである。また、海上自衛隊厚木航空基地及び硫黄島航空基地の管制施設の点検等を行っている「YS-11FC」を順次「U-680A」に更新される予定ということだ。

2点目は、我が国周辺の海域での対潜戦の優位性を確保するとともに、近年の各種事案に適切に対応するため、「SH-60K」をベースとする回転翼哨戒機（能力向上型）を開発しており、試作機納入後、海上自衛隊厚木航空基地において性能確認試験を実施する事の情報だった。2020年度から2022年まで2機の能力向上型ヘリコプター哨戒機の試験を原則2～3日に1回（昼間、約3時間）



程度実施する予定ということである。部隊人員は50名であり、そのほか技術者等が出入りするそうだ。

厚木爆同は、60年の歴史の中で、部隊の移駐やP-3C強行配備、P-1導入に強く反対してきた。今回の情報提供の内容

は、新しい50名もの部隊の移駐であり、新しい機種の配備で、しかもジェット機である事実は、自衛隊機のジェットエンジンを禁ずる「46文書」に違反し、決して容認できないことだ。また、ほとんどは洋上で実施されるとはいうものの、人口密度の高い厚木基地周辺の住宅地の上で性能試験を行うということは到底許されるものではない。厚木爆同や厚木基地周辺自治体では「厚木基地撤去」を方針として掲げている。そうであるならば、岩国移転によって空いた施設や土地について返還を求めていくべきだ。空いたから新しい部隊や新機種を配備するのはまさに基地機能の強化にあたり、私たちの思いに逆行するものである。

# 60年の軌跡

| 1961（昭和36）年                                                                  | 1960（昭和35）年                                                                                                                                          | 軌跡 |
|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 4・1 テレビ・ラジオ受信料不払い実力行使開始<br>5・18 「厚木米軍航空基地周辺近隣地域住民に対する人権侵犯事件の調査方について」横浜法務局へ提訴 | 7・23 五つの自治会の365世帯で「厚木基地爆音防止有償疎開期成同盟を結成」<br>8・28 全市自治会長との基地問題懇談会（同盟主催）<br>8・30 神奈川県が厚木基地周辺の騒音調査<br>9・7 厚木基地爆音防止期成同盟発足<br>9・25 厚木基地爆音防止促進市民大会<br>10・16 |    |

| 1962（昭和37）年                                                                                                                                                                                                       | 1961（昭和36）年                                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1・14 第四十三回委員会（「戦闘訓練違法の訴状」提出決める）<br>3・30 爆音被害と救済策調査結果横浜法務局へ提出<br>5・13 基地問題研究会開催（講師 衆議院議員飛鳥田一雄氏）<br>6・2 拡大委員会開催（補償要求推進運動要綱案について）<br>7・1 常任委員会（同盟二周年記念行事について）<br>8・18 常任委員会（爆音増で悩む病院「聴診器も使えない」）<br>11・6 大和市基地対策協議会発足 | 7・30 結成一周年記念大会開催<br>8・15 県の厚木基地周辺第二回爆音調査<br>9・6 横浜法務局人権擁護課、爆音の人権侵犯事実調査開始<br>10・14 第四十回同盟委員会<br>12・7 第四十二回同盟委員会（テレビ受信料問題討議） |

| 1964（昭和39）年                                                                                                                                                                     | 1963（昭和38）年                                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2・10 基地周辺民生安定法制定全国大会参加<br>4・5 原町田現町田市商店街に米軍機墜落4人死亡負傷31人<br>5・23 代議員総会運動方針等審議（第4回）<br>9・8 大和市上草柳の館野鉄工所に米軍機墜落4人死亡4人重傷<br>9・27 臨時代議員総会、（墜落事故に關して審議）<br>11・24 同盟提唱による米軍基地司令官との懇談会開催 | 1・13 常任委員会（基地周辺民生安定法について）<br>2・17 常任委員会（地区別懇談会実施計画決定）<br>5・9 石井大和市長に基地問題等解決促進を要望<br>5・26 第3回同盟定期総会<br>12・4 横浜法務局と横浜放送局に抗議・陳情 |



| 1966（昭和41）年 |                      |                    |                          |                  |                     | 1965（昭和40）年 |                             |                             |         |                   |                                       |
|-------------|----------------------|--------------------|--------------------------|------------------|---------------------|-------------|-----------------------------|-----------------------------|---------|-------------------|---------------------------------------|
| 12・17       | 11・19                | 9・15               | 5・22                     | 4・22             | 1・30                | 12・1        | 9・10                        | 9・4                         | 6・26    | 5・27              | 4・24<br>5・5                           |
| 執行委員会       | 石井大和市長を招き基地対策への見解を聞く | 厚木米軍基地司令官及び幹部将校と懇談 | 代議員総会、運動方針、予算案等審議する（第6回） | 執行委員会（放送法改正案を協議） | 執行委員会（防衛施設周辺整備法案対策） | 同盟執行委員会     | 「飛行規制協定」違反に抗議、「深夜飛行の絶対禁止」要望 | 「飛行規制協定」違反に抗議、「深夜飛行の絶対禁止」要望 | 同盟執行委員会 | 五市三町厚木基地移転促進実行委員会 | 米軍ジェット機相模原米軍住宅地に墜落11人死傷<br>代議員総会（第5回） |

| 1968（昭和43）年            |                  |                 |         |                |              | 1967（昭和42）年                                  |            |                          |                     |                          |                                                   |
|------------------------|------------------|-----------------|---------|----------------|--------------|----------------------------------------------|------------|--------------------------|---------------------|--------------------------|---------------------------------------------------|
| 10・12                  | 8・25             | 8・5             | 6・23    | 5・19           | 1・21         | 12・16                                        | 9・2        | 7・2                      | 5・28                | 2・11                     | 2・11                                              |
| 代議員会（今後の運動のすすめ方）について協議 | 盟主催 後援大和市基地対策協議会 | 「大和市民総決起大会」開催 同 | との懇談会開催 | 同盟と防衛施設庁、横浜施設局 | メリカ大使等ハカ所へ提出 | 緊急代議員会（米海軍厚木航空基地の即時返還と安全対策の確立強化に関する要望）を政府へ提出 | 方針等審議（第8回） | 定期代議員総会運動方針、基本方針等審議（第8回） | 臨時代議員会（鈴木強参議院議員と懇談） | 定期代議員総会運動方針、基本方針等審議（第8回） | 臨時代議員会（市の基地行政の経過と対策について）<br>代議員総会、運動方針予算案等審議（第7回） |

| 1970（昭和45）年                  |       |                           | 1969（昭和44）年  |                             |                         |                  |                        |                                 |
|------------------------------|-------|---------------------------|--------------|-----------------------------|-------------------------|------------------|------------------------|---------------------------------|
| 6・27                         | 12・21 | 8・30                      | 5・17         | 11・9                        | 8・15                    | 5・25             | 1・19                   | 11・24                           |
| 定期代議員総会（基地跡地の平和利用について）（第11回） | 執行委員会 | 「厚木基地平和利用実現総決起大会」（保健所前広場） | 還要求等審議（第10回） | 定期代議員総会（基地の早期返還要求等審議）（第10回） | 基地滑走路北側に2日間坐り込みの実力行使を実施 | 爆同結成10周年記念要求貫徹集会 | 水素入り風船闘争で飛行阻止を代議員会で決める | 臨時代議員会（厚木基地撤去大和市民連合結成）を呼びかけを決定） |

| 1972 (昭和47) 年                                                                                                                                                  |      |      |       |       | 1971 (昭和46) 年                                                                                                                                                     |      |       |       |       |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|-------|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------|-------|-------|
| 5・21                                                                                                                                                           | 7・16 | 7・23 | 11・12 | 11・28 | 8・21                                                                                                                                                              | 9・11 | 12・19 | 12・23 | 12・26 |
| 定期代議員総会(年2回以上の<br>基地追放日を決める)(第12回)<br>市内10ヵ所に「自衛隊帰れ」「基<br>地返せ」の看板建てる<br>第1回基地追放日(市内自動車<br>パレード車20台)<br>第2回基地追放日(市内宣伝活<br>動と組織拡大運動)<br>横須賀母港化撤回の要望書を横<br>須賀市に提出 |      |      |       |       | 「自衛隊民間航空共同使用計画<br>阻止大集会」提灯デモ<br>厚木基地自衛隊民間航空共同使<br>用計画破棄跡地の平和利用実現<br>の署名簿を市議会、県議会に請<br>願書提出<br>自衛隊移駐反対の市内宣伝活動<br>自衛隊移駐同意の市議会を傍聴、<br>抗議<br>自衛隊移駐に抗議基地滑走路北<br>側で坐り込み |      |       |       |       |

| 1974 (昭和49) 年                                                                                                                                          |      |      |     |       | 1973 (昭和48) 年                                                                                                                                                                                               |      |      |      |       |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|-----|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|-------|
| 3・30                                                                                                                                                   | 5・19 | 6・12 | 9・8 | 10・10 | 2・18                                                                                                                                                                                                        | 5・13 | 8・11 | 10・6 | 11・30 |
| NHK藤沢営業所にテレビ受信<br>料集金問題で抗議<br>定期代議員総会(「騒音訴訟」<br>を提案満場一致可決)(第14回)<br>厚木自衛隊司令官に会見、爆音<br>増大に抗議<br>館野鉄工所ジェット機墜落10周<br>年(現地で追悼)<br>北海道長沼ミサイル基地訴訟の<br>原告団と交流 |      |      |     |       | 第3回基地追放日(市内自動車<br>パレード宣伝活動)<br>定期代議員総会(横須賀母港<br>化、航空集団司令部移駐反対<br>を決議)(第13回)<br>「航空集団司令部移駐阻止市民<br>大会」提灯デモ<br>空母「ミッドウェー」入港、横山<br>横須賀市長に「艦載機」は引き取<br>れと抗議する(大和より車6台<br>で横須賀へ)<br>「ミッドウェー母港化、及び自衛<br>隊配備反対大和集会」 |      |      |      |       |

| 1976 (昭和51) 年                                                                                               |      |      |      | 1975 (昭和50) 年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |      |     |      |     |                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----|------|-----|-------------------------------------|
| 3・14                                                                                                        | 3・28 | 5・23 | 8・29 | 10・19                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 8・30 | 8・2 | 7・31 | 7・8 | 6・15                                |
| 臨時代議員総会(「爆音公害訴<br>訟」を提案満場一致で可決)<br>爆音公害訴訟準備委員会発足<br>定期代議員総会(訴訟闘争方針<br>等を審議)(第16回)<br>原告団、結団式原告92名、団長鈴<br>木保 |      |      |      | 署名運動を決定)<br>臨時代議員総会、(線引き反対の<br>大集会)提灯デモ<br>「厚木基地撤去、線引き反対市民<br>料問題で申し入れ<br>NHK藤沢営業所にテレビ受信<br>議(バスで50名参加)<br>新整備法反対、防衛施設庁へ抗<br>議、(バスで50名参加)<br>防衛施設周辺の生活環境整備法<br>法について論議す(第15回)<br>定期代議員総会、(生活環境整備<br>の説明会<br>防衛施設周辺の生活環境整備法<br>の説明会<br>新整備法反対、防衛施設庁へ抗<br>議(バスで50名参加)<br>NHK藤沢営業所にテレビ受信<br>料問題で申し入れ<br>「厚木基地撤去、線引き反対市民<br>大集会」提灯デモ<br>臨時代議員総会、(線引き反対の<br>署名運動を決定) |      |     |      |     | 10・24<br>「ラロック」核証言で防衛施設庁<br>へ抗議申し入れ |



| 1977 (昭和52) 年 |                                     |                          |                 |                       |                   |                   | 1976 (昭和51) 年 |                       |                                                          |
|---------------|-------------------------------------|--------------------------|-----------------|-----------------------|-------------------|-------------------|---------------|-----------------------|----------------------------------------------------------|
| 9・27          | 9・18                                | 9・10                     | 7・18            | 6・5                   | 5・23              | 3・7               | 12・22         | 11・2                  | 9・8                                                      |
| 枝さん死亡)        | 横濱市緑区へ米軍ジェット機墜落、幼児2名死亡(のち土志田和枝さん死亡) | 秋のレクリエーション「ぶどう狩り」勝沼へバス4台 | 横濱地裁第4回公判 65名参加 | 訴状提出一周年「訴訟勝利基地撤去」の大集会 | 横濱地裁第3回公判 原告61名参加 | 横濱地裁第2回公判、原告61名参加 | 陳述原告83名参加     | 米軍輸送機(C・1)基地内墜落乗員6名即死 | 横濱地裁に訴訟提出、バス2台に原告全員参加<br>「厚木基地撤去被害訴訟勝利九・八市民総決起大会」(やまと公園) |

| 1979 (昭和54) 年 |                                       | 1978 (昭和53) 年 |                                   |                              |                                |                                                 |                       |                       |                              |
|---------------|---------------------------------------|---------------|-----------------------------------|------------------------------|--------------------------------|-------------------------------------------------|-----------------------|-----------------------|------------------------------|
| 6・18          | 6・10                                  | 10・11         | 8・23                              | 6・28                         | 5・17                           | 5・14                                            | 3・22                  | 1・18                  | 10・19                        |
| 決「合意」         | 定期代議員総会(第19回)<br>横濱地裁第12回公判(「早期判決」合意) | 長原告反対尋問(国側)   | 横濱地裁第10回公判(鈴木委員<br>長原告本人証人尋問(原告)) | 横濱地裁第9回公判(真屋求原告<br>反対尋問(国側)) | 横濱地裁第8回公判(真屋求原告<br>本人証人尋問(原告)) | 定期代議員総会(第18回)<br>横濱地裁第8回公判(真屋求原告<br>本人証人尋問(原告)) | 横濱地裁第7回公判 原告40名<br>参加 | 横濱地裁第6回公判 原告43名<br>参加 | 横濱地裁第5回公判(緑区墜落<br>事故追求)原告88名 |

| 1980 (昭和55) 年 |                           |                     |                             |                              | 1979 (昭和54) 年              |                              |                              |                         |                                                                            |
|---------------|---------------------------|---------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------|
| 6・9           | 3・13                      | 3・5                 | 2・20                        | 1・16                         | 12・18                      | 11・28                        | 9・26                         | 9・9                     | 8・6                                                                        |
| 人に対する反対尋問)    | 横濱地裁第22回公判(原告側証人に対する反対尋問) | 横濱地裁第21回公判(原告側証人尋問) | 横濱地裁第20回公判(前同<br>様ジェット機飛ばず) | 横濱地裁第19回(第20回公判)被告側証人及原告本人尋問 | 横濱地裁第17回(第18回公判)被告(国側)証人尋問 | 横濱地裁第14回(第16回公判)原告本人及原告側証人尋問 | 横濱地裁第14回(第16回公判)原告本人及原告側証人尋問 | 「厚木基地撤去訴訟勝利市民総決起集会」大和公園 | 横濱地裁第13回公判(原告本人山口スエ子氏、小、中学校の及川、菊池両先生教育者の立場から証言)<br>裁判長現地検証(検証中ジェット機1機も飛ばず) |

| 1981 (昭和56) 年              |                           |                                                          |                                           |                    |            | 1980 (昭和55) 年                         |                         |                    |                  |                            |                         |
|----------------------------|---------------------------|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------|------------|---------------------------------------|-------------------------|--------------------|------------------|----------------------------|-------------------------|
| 9・8                        | 6・29                      | 6・17                                                     | 6・14                                      | 3・31               | 3・25       | 12・22<br>(23)                         | 12・14                   | 12・5               | 8・27             | 7・9                        | 6・15                    |
| 「P3C 反対厚木訴訟勝利市民集会」中央文化会館にて | 「核持ち込み反対P3C 配備阻止訴訟勝利県民集会」 | 「核持ち込み反対P3C 配備阻止訴訟勝利」を決議<br>横浜地裁第27回公判原告側最終準備書面提出最終陳述、結審 | 定期代議員総会(「P3C 配備阻止、訴訟勝利」を決議)<br>横浜地裁第26回公判 | P3C 阻止行動、基地南門へ反復デモ | 横浜地裁第26回公判 | 原告側代理人市内宿泊<br>裁判長現地検証(裁判長、国側、止行動について) | 臨時代議員総会(P3C 配備阻止行動について) | P3C 配備阻止現地闘争本部結成総会 | 告浜崎書記長本人尋問及び反対尋問 | 横浜地裁第23回(第24回公判)原告側代理人市内宿泊 | 定期代議員総会(「訴訟勝利、基地撤去」を決議) |

| 1983 (昭和58) 年 |                          |                       |                                |  | 1982 (昭和57) 年         |                      |                                     |                          |                                   |                       |
|---------------|--------------------------|-----------------------|--------------------------------|--|-----------------------|----------------------|-------------------------------------|--------------------------|-----------------------------------|-----------------------|
| 11・16         | 10・13                    | 9・21                  | 6・5                            |  | 11・2                  | 10・24                | 10・20                               | 9・3                      | 5・16                              | 12・20                 |
| 高裁第2回公判       | 高裁裁判長現地検証(文化会広場、ジェット機飛ぶ) | 参加<br>東京高裁第1回公判 原告34名 | 定期代議員総会(艦載機訓練の代替地利用について)(第23回) |  | 東京高裁に控訴する控訴状横浜地裁に提出する | 不服とし東京高裁に提訴することを決定する | 臨時代議員会(横浜地裁判決を不服とし東京高裁に提訴することを決定する) | 大和市長に「核廃絶平和都市宣言」声明を申し入れる | 定期代議員総会(「訴訟勝利 P3C 配備阻止」を決議)(第22回) | 「核戦争をひきおこすP3C 反対県民大会」 |

| 1984 (昭和59) 年     |                   |              |                           |                                        |                              |                        |                |                                |                                      |                             |
|-------------------|-------------------|--------------|---------------------------|----------------------------------------|------------------------------|------------------------|----------------|--------------------------------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 10・22             | 10・15             | 9・26         | 8・3                       | 6・22                                   | 6・18                         | 6・3                    | 5・2            | 4・16                           | 2・6                                  | 12・1                        |
| 第二次訴訟原告団横浜地裁に訴状提出 | 高裁第7回公判(被告国側証人尋問) | 告一六一名 団長笠間繁雄 | 第二次訴訟原告団結成集会、原告即時中止を申し入れる | 米厚木基地司令官と外務省北川政務次官に艦載機訓練に抗議し即時中止を申し入れる | 防衛庁長官に「厚木基地撤去、着艦訓練即時中止」申し入れる | 改称<br>(P3C 現地闘争本部を発展的) | 反戦平和県北共闘会議結成大会 | 定期代議員総会(第二次訴訟への取り組みについて)(第24回) | 高裁第3回公判<br>高裁裁判長現地検証(飛行機の飛ばない日を国側要請) | 騒音被害第2次訴訟についてアンケート調査(全会員対象) |



| 1985（昭和60）年 |                 |            |                |      |                         |                                     |                   |                                 |                |                                                |                                  |
|-------------|-----------------|------------|----------------|------|-------------------------|-------------------------------------|-------------------|---------------------------------|----------------|------------------------------------------------|----------------------------------|
| 12・4        | 10・20           | 10・2       | 8・28           | 8・16 | 6・26                    | 6・24                                | 5・26              | 5・10                            | 3・27           | 12・5                                           | 高裁第8回公判（原告鈴木委員長証人尋問）             |
| 判           | 第二次訴訟、横浜地裁第3回公判 | 爆同結成25周年記念 | 第二次訴訟横浜地裁第2回公判 | 陳述結審 | 高裁第11回公判（原告代表意見要求、抗議する） | 厚木基地内へのミサイル弾薬庫建設問題で防衛庁へ計画中止を要求、抗議する | 遺憾であるとして国側注意を受ける） | 備書面提出できず、裁判長より遺憾であるとして国側注意を受ける） | 第二次訴訟横浜地裁第1回公判 | 高裁第10回公判（国側が最終準備書面提出できず、裁判長より遺憾であるとして国側注意を受ける） | 定期代議員総会（第二次訴訟と基地撤去の闘いについて）（第25回） |

| 1986（昭和61）年 |                                                                                    |                 |                                  |                                     |                 |                 |                                                            |                                                            |                 |                 |                 |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|----------------------------------|-------------------------------------|-----------------|-----------------|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 2・19        | 4・9                                                                                | 4・16            | 4・22                             | 6・1                                 | 6・16            | 12・10           | 12・10                                                      | 12・10                                                      | 12・10           | 2・19            | 第二次訴訟、横浜地裁第4回公判 |
| 判           | 第一次訴訟の東京高裁判決。飛行差し止め請求は却下、爆音は「公共性が優先するので受忍限度内」として一審で認めた損害賠償を取り消し、将来請求分は却下する、という不当判決 | 第二次訴訟、横浜地裁第5回公判 | 第一次訴訟の東京高裁不当判決に対して、最高裁へ上告手続きを行なう | 定期代議員総会（東京高裁不当判決の逆転をめざす最高裁の闘いなどを議決） | 第二次訴訟、横浜地裁第6回公判 | 第二次訴訟、横浜地裁第7回公判 | 空母ミッドウェーの新艦載機・FA18ホーネットの離発着訓練に対して、横浜防衛施設庁に即時訓練中止などの抗議を行なった | 空母ミッドウェーの新艦載機・FA18ホーネットの離発着訓練に対して、横浜防衛施設庁に即時訓練中止などの抗議を行なった | 第二次訴訟、横浜地裁第7回公判 | 第二次訴訟、横浜地裁第7回公判 | 第二次訴訟、横浜地裁第7回公判 |

| 1988（昭和63）年  |                  |                                    | 1987（昭和62）年      |                       |              |                                                       |                                |                                                           |                 |
|--------------|------------------|------------------------------------|------------------|-----------------------|--------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------|
| 4<br>・<br>18 | 4<br>・<br>17     | 2<br>・<br>1                        | 11<br>・<br>1     | 9<br>・<br>10          | 8<br>・<br>24 | 6<br>・<br>7                                           | 5<br>・<br>25                   | 3<br>・<br>18                                              |                 |
| 判            | 第二次訴訟、横浜地裁第12回公判 | 臨時代議員総会（7・24厚木基地包囲行動の取り組みなどについて議決） | 第二次訴訟、横浜地裁第11回公判 | 厚木爆同は、「遠藤三郎平和賞」を授与される | 所に抗議文を手渡した   | NLPの延長に対して大和市上草柳の「緑の広場」で抗議の市民集会を開き、座間防衛施設事務所に抗議文を手渡した | 争への積極的対応などを議決）第二次訴訟、横浜地裁第10回公判 | 定期代議員総会（第一次の最高裁、第二次の横浜地裁の公判闘争への積極的対応などを議決）第二次訴訟、横浜地裁第9回公判 | 第二次訴訟、横浜地裁第8回公判 |

| 1989（平成元）年                                                          |      |      |     |     | 1988（昭和63）年                                                                    |      |      |
|---------------------------------------------------------------------|------|------|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------|------|------|
| 7・9                                                                 | 4・30 | 4・24 | 4・3 | 2・6 | 8・21                                                                           | 7・24 | 6・27 |
| 定期代議員総会（今年度も全力をあげて裁判闘争に勝利することなどを議決）<br>市民法廷劇、なくせ厚木基地、大和市保健福祉センターで上演 |      |      |     |     | 第二次訴訟、横浜地裁第13回公判<br>28000人の人たちが厚木基地を包囲した。多くの爆同会員・家族が参加し、爆同の闘いに新しい1ページが書き加えられた。 |      |      |
| 臨時代議員総会（裁判闘争の強化と市民法廷劇の上演、実力行使の実現などを議決）<br>第二次訴訟、横浜地裁第20回公判          |      |      |     |     | 定期代議員総会（一次、二次の裁判闘争のほか、基地撤去までは日常的被害の排除などを議決）                                    |      |      |

| 1990（平成2）年                                                                           |      |      |      |      | 1989（平成元）年                                                                                          |       |      |
|--------------------------------------------------------------------------------------|------|------|------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|
| 6・17                                                                                 | 5・28 | 4・23 | 2・26 | 1・29 | 12・11                                                                                               | 10・16 | 8・28 |
| 定期代議員総会（民家防音工事、移転補償は住民の不利益にならないようにする、テレビ受信料の不払い運動はさらに継続する、などを議決）<br>第二次訴訟、横浜地裁第32回公判 |      |      |      |      | 第二次訴訟の現場検証が28・29の両日大和市を中心に行なわれたが米軍機は飛ばず、再度の現場検証の申請をすることにした。<br>第二次訴訟、横浜地裁第26回公判<br>第二次訴訟、横浜地裁第28回公判 |       |      |
| 第二次訴訟、横浜地裁第29回公判（井上大和市長が出廷）<br>第二次訴訟、横浜地裁第30回公判（鈴木綾瀬市長が出廷）<br>第二次訴訟、横浜地裁第31回公判       |      |      |      |      |                                                                                                     |       |      |

| 1991（平成3）年                                                                                                           |      |      |     | 1990（平成2）年                                                                                                |       |      |      |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|------|
| 6・23                                                                                                                 | 6・10 | 5・17 | 2・6 | 12・10                                                                                                     | 10・29 | 8・23 | 6・25 |
| 定期代議員総会（空母ミッドウェーの後継艦としてインディペンデンス配備の本格化にともない、大胆で重層的な反対運動をつくることなどを議決）<br>第二次訴訟の現場検証のうちNLPに対する検証が行なわれた。いつものような激しい飛行だった。 |      |      |     | 第二次訴訟、横浜地裁第33回公判<br>8月に入って昼夜の離発着が激しくなる中でのNLP通告に対して、座間防衛施設事務所に抗議を行なった。<br>第二次訴訟、横浜地裁第36回公判<br>結成30周年記念のつどい |       |      |      |
| 第二次訴訟、横浜地裁第38回公判<br>第二次訴訟の現場検証が行なわれたが、またしても「数も少なく高度もいつもより高く」飛び、検証が終わって裁判長が帰ると再び激しく飛びだした。                             |      |      |     |                                                                                                           |       |      |      |



| 1993（平成5）年                                                   |      |      | 1992（平成4）年                                                                  |                           |  | 1991（平成3）年                            |      |
|--------------------------------------------------------------|------|------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------|--|---------------------------------------|------|
| 6・27                                                         | 6・14 | 2・25 | 12・21                                                                       | 11・30<br>（9月インディペンデンス初入港） |  | 12・16                                 | 7・26 |
| 定期代議員総会（第一次、第二次の判決を踏まえ、訴訟勝利・爆音の全面解消へ向け、総力をあげて運動を強化することなどを決議） |      |      | 第一次訴訟、最高裁判決。飛行差し止め却下、損害賠償部分は東京高裁判決を破棄、高裁に差し戻しNHK受信料不払いなどについてNHK宛に文書申し入れを行った |                           |  | 第二次訴訟、横浜地裁第41回公判で結審を迎えた               |      |
|                                                              |      |      | 第二次訴訟、横浜地裁判決。飛行差し止めは却下、損害賠償は一部認める                                           |                           |  | 空母インディペンデンスの母港化阻止にむけ、鈴木委員長他が外務省に申し入れた |      |

| 1995（平成7）年                                      |      | 1994（平成6）年                    |      |                 |                 |                                  |                           |
|-------------------------------------------------|------|-------------------------------|------|-----------------|-----------------|----------------------------------|---------------------------|
| 7・16                                            | 5・26 | 10・6                          | 8・30 | 7・14            | 7・3             | 5・17                             | 2・10                      |
| 定期代議員総会（第一次、第二次の法廷闘争強化のため「訴訟対策委員会」を設置することなどを決議） |      | 第一次訴訟、東京高裁第10回公判、差し戻し審もこの日で結審 |      | 第一次訴訟、東京高裁第8回公判 | 第一次訴訟、東京高裁第7回公判 | 定期代議員総会（第一次、第二次の公判の立証活動の徹底などを議決） | 第一次訴訟、東京高裁第2回公判           |
|                                                 |      | 第一次訴訟東京高裁現地検証                 |      |                 |                 | 第一次訴訟、東京高裁第5回公判で大和市基地対策課長が証言に立つ  | 第一次訴訟、最高裁差し戻し審（東京高裁）第1回公判 |

|                  | 1996（平成8）年 |                              | 1995（平成7）年                                    |       |      |       |      |
|------------------|------------|------------------------------|-----------------------------------------------|-------|------|-------|------|
| 6・26             | 7・14       | 5・16                         | 12・28                                         | 12・26 | 12・7 | 11・19 | 9・27 |
| 第二次訴訟、東京高裁第12回公判 |            | 第二次訴訟、東京高裁第6回公判              | 艦載機の硫黄島全面移転を求めて会員が外務省、防衛施設庁へ申し入れを行なった         |       |      |       |      |
|                  |            | 定期代議員総会（第三次爆音訴訟に取り組むことなどを議決） | 第一次訴訟の原告全員会議を行なう                              |       |      |       |      |
|                  |            |                              | 第二次訴訟、東京高裁第5回公判                               |       |      |       |      |
|                  |            |                              | 第一次訴訟、東京高裁差し戻し審判決。爆音被害は受忍限度を越えている、として損害賠償を認めた |       |      |       |      |
|                  |            |                              | 基地内に貯油施設ができたことに対して爆同は、記者会見して抗議声明を出した          |       |      |       |      |

| 1997（平成9）年 |                                                                  |
|------------|------------------------------------------------------------------|
| 6・27       | 今年の基地オープンデーに向けてリハーサル訓練中だった落下傘部隊の民家への落下に対して、抗議声明を出し、曲技飛行の即時中止を訴えた |
| 7・13       | 定期代議員総会（第三次爆音訴訟の提訴の日11月3日に向けての取り組みなどを議決）                         |
| 10・5       | 第三次訴訟原告団による結団式が行なわれ、400余人が参加した                                   |
| 10・15      | 9月から10月にかけての激しい空母艦載機による離発着訓練に対して、抗議声明を発表                         |
| 12・1       | 第二次訴訟の現場検証が雨の中で行なわれた                                             |
| 12・8       | 2823人の原告による第三次爆音訴訟の訴状が横浜地裁に提出された                                 |
| 1・12       | NLP訓練の強行に対して、防衛施設庁に対して即時中止を求める申し入れを行なった                          |

| 1998（平成10）年 |                                                           |
|-------------|-----------------------------------------------------------|
| 3・16        | 第三次訴訟、横浜地裁第1回公判                                           |
| 4・27        | 第三次訴訟の最終追加提訴が行なわれ、原告数は合計5047人となった                         |
| 6・29        | 第三次訴訟、横浜地裁第2回公判                                           |
| 7・26        | 定期代議員総会（第三次訴訟とは密接な協力体制を持つて取り組むことなどを議決）                    |
| 7・27        | 第三次訴訟、横浜地裁第3回公判                                           |
| 8・27        | 基地のオープンハウスにおける曲技飛行の中止を求めて、抗議と監視行動を基地北側・草柳トネルの北側で30日まで行なった |
| 9・28        | 第三次訴訟、横浜地裁第4回公判                                           |
| 11・2        | 第三次訴訟、横浜地裁第5回公判                                           |
| 12・7        | 第三次訴訟、横浜地裁第6回公判                                           |
| 12・17       | 第二次訴訟最終口頭弁論                                               |

| 1999（平成11）年 |                                                                   |
|-------------|-------------------------------------------------------------------|
| 1・12        | 1月11日から強行された艦載機の訓練に対して、防衛施設庁長官に抗議と即時中止を求める申し入れを行なった               |
| 2・17        | NLP中止を求めて座間防衛施設事務所と厚木基地に申し入れた                                     |
| 2・23        | NLP通告に対して外務大臣、防衛庁・防衛施設庁長官宛の中止申し入れ書を座間防衛施設事務所に持ち込み、32名が2時間に亘り座り込んだ |
| 2・25        | 23日からのNLPに抗議して26日まで夜間2時間に亘って怒りの炎を燃やす実力行使を貫徹した                     |
| 3・1         | 第三次訴訟、横浜地裁第8回公判                                                   |
| 6・20        | 定期代議員総会（新ガイドライン法案に反対し、基地強化につながる一切の軍事政策を許さな闘いなどを議決）                |
| 7・23        | 第二次訴訟、東京高裁判決。飛行差し止めは却下、損害賠償は認めるも「危険への接近の理論」を採用し賠償額を減額する判決だった      |



| 1999（平成11）年 |                                        |       |                                                                  |       |                                        |       |                  |
|-------------|----------------------------------------|-------|------------------------------------------------------------------|-------|----------------------------------------|-------|------------------|
| 7・23        | 高裁判決のあと、外務省と防衛施設庁にNLPや曲技飛行の中止を求める要請をした | 7・31  | 二次訴訟の弁護団と原告団役員との会議で、東京高裁判決に対して上告しないことを決め、国も上告しないことを決めたので、判決は確定した | 9・24  | 基地開放のデモフライトに対して横浜防衛施設局や米大使館、外務省などに抗議行動 | 9・27  | 第三次訴訟、横浜地裁第12回公判 |
| 10・13       | 連夜のNLPに対し18日まで連日監視行動を展開、怒りの炎を燃やした      | 10・27 | 第三次訴訟、横浜地裁第13回公判                                                 | 11・24 | 第三次訴訟、横浜地裁第14回公判                       | 12・15 | 第三次訴訟、横浜地裁第15回公判 |

| 2000（平成12）年 |                             |      |                            |      |                                      |      |                                                                                             |
|-------------|-----------------------------|------|----------------------------|------|--------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1・19        | 第三次訴訟、横浜地裁第16回公判            | 2・9  | 第三次訴訟、横浜地裁第17回公判           | 3・1  | 第三次訴訟、横浜地裁第18回公判                     | 4・13 | 基地に隣接するエンバイロテックに対し排煙問題で日本政府は特例で手厚い保護を行うという不公平行政に対して、外務省や防衛庁に爆同会員はじめ労組員など320人が座り込みなど抗議行動をとった |
| 6・18        | 定期代議員総会（爆同40周年記念式典の挙行などを議決） | 6・29 | エアショー・曲技飛行の中止を求め、ゲート前で抗議行動 | 6・29 | 「原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県共闘会議」結成集会 | 7・1  | エアショー・曲技飛行の強行実施に抗議・監視行動                                                                     |

| 2001（平成13）年 |                           |      |                                   | 2000（平成12）年 |                                               |
|-------------|---------------------------|------|-----------------------------------|-------------|-----------------------------------------------|
| 2・10        | 「地域から平和をつくろう」全国集会（横須賀）に参加 | 2・18 | 第三次訴訟原告団総会                        | 9・20        | 土屋侯保・大和市長、NLPの強行に「堪忍袋の緒が切れた」と、米海軍との友好関係の中断を表明 |
| 2・21        | 第三次訴訟第26回公判               | 2・23 | NLP強行に基地北側で「怒りの炎」集会（理由開示なくNLP中止へ） | 10・26       | 結成40周年記念式典を横浜ベイシエラトンホテルで行なう                   |
| 3・21        | 第三次訴訟第27回公判               | 4・23 | 第三次訴訟第28回公判（進行協議）                 |             |                                               |
| 5・16        | 第三次訴訟第29回公判（佐々木原告本人尋問）    | 6・17 | 爆同41回定期代議員総会                      |             |                                               |
| 6・18        | 第三次訴訟第30回公判（国側証人 小畑）      | 7・11 | 第三次訴訟第31回公判                       |             |                                               |

| 2001（平成13）年   |                |                   |                        |                                                    |             |                                                  |                      |                                       |             |                       |  |
|---------------|----------------|-------------------|------------------------|----------------------------------------------------|-------------|--------------------------------------------------|----------------------|---------------------------------------|-------------|-----------------------|--|
| 2・17          | 1・23           | 12・19             | 11・21                  | 11・18                                              | 10・17       | 10・11                                            | 9・25                 | 9・24                                  | 9・12        | 8・23                  |  |
| 第三次訴訟第5回代議員総会 | 第三次訴訟第36回公判 結審 | 第三次訴訟第35回公判・弁護団会議 | 第三次訴訟第34回公判・公判終了後弁護団会議 | 「違法な爆音は止める！厚木基地は要らない」11・18平和大行動 ピースフェスティバルin大和2001 | 第三次訴訟第33回公判 | 厚木基地周辺住民の健康・生活被害をもたらし爆音の抜本的解決を要求する申し入れ 座間防衛施設事務所 | 憲法磨きの丘で怒りの炎集会 300名参加 | 「違法爆音・NLP 反対住民集会」実施 上草柳みどりの広場 約200名参加 | 第三次訴訟第32回公判 | 外務省要請行動・米軍のデモフライト強行抗議 |  |

| 2003（平成15）年 |                          |                       |                                 | 2002（平成14）年       |               |                 |               |      |                |                |              |          |              |          |                |           |                  |       |                |
|-------------|--------------------------|-----------------------|---------------------------------|-------------------|---------------|-----------------|---------------|------|----------------|----------------|--------------|----------|--------------|----------|----------------|-----------|------------------|-------|----------------|
| 5・21        | 5・18                     | 2・10                  | 2・9                             | 10・16             | 10・11         | 9・15            | 9・8           | 8・9  | 6・30           | 5・22           | 3・30         | 3・13     | 3・5          | 3・4      |                |           |                  |       |                |
| 野市上大槻。      | 米軍ヘリUH-60不時着。秦和公園から相模大塚駅 | ヒューマンチェーン大行動・アメリカへ派遣。 | 第三次訴訟第6回代議員総会<br>爆同・三次訴訟団代表で団長を | 第三次訴訟横浜地裁判決。国が控訴。 | 防衛施設庁・外務省要請行動 | 品落下。藤沢市長後。屋根破損。 | 米軍ジェット機EA-6B部 | 2002 | ピースフェスティバルin大和 | 座間防衛施設局抗議・要請活動 | 爆同42回定期代議員総会 | 展示飛行廃止決定 | 大和駅 街頭宣伝署名活動 | 国会議員3名参加 | 基地正門抗議↓怒りの炎集会・ | 設局・基地正門抗議 | NLP 通告抗議・横浜防衛施設局 | と申し入れ | 座間防衛施設事務所、爆音抗議 |

| 2004（平成16）年 |              |              |              |                  |                           | 2003（平成15）年    |               |         |      |                                 |      |                 |               |             |              |                 |                    |
|-------------|--------------|--------------|--------------|------------------|---------------------------|----------------|---------------|---------|------|---------------------------------|------|-----------------|---------------|-------------|--------------|-----------------|--------------------|
| 9・9         | 9・3          | 7・4          | 6・9          | 6・1              | 2・8                       | 11・5           | 10・2          | 9・7     | 7・17 | 7・6                             | 6・29 | 6・20            | 6・4           |             |              |                 |                    |
| 東京高裁第2回公判   | 現地検証（現地進行協議） | 爆同44回定期代議員総会 | で抗議行動26日市民集会 | 対街頭宣伝チラシ作成 17日まで | スーパードールネット追加配備反対行動 8日外務省へ | 座間防衛施設事務所へ申し入れ | 第三次訴訟第7回代議員総会 | 日まで監視行動 | 議行動  | 爆音監視・市民集会、キャンドルデモ、座間防衛施設事務所抗議行動 | 2003 | ピースフェスティバル・in大和 | 第三次訴訟控訴審第1回公判 | 爆同第43回代議員総会 | 控訴審勝利・原告決起集会 | 座間防衛施設事務所抗議要請行動 | NPO 大学基地視察・藤田代表立会い |



| 2006（平成18）年 |                |                |             |              |             | 2005（平成17）年    |               |          |              |      |                | 2004（平成16）年  |                |               |               |                 |            |                  |     |           |
|-------------|----------------|----------------|-------------|--------------|-------------|----------------|---------------|----------|--------------|------|----------------|--------------|----------------|---------------|---------------|-----------------|------------|------------------|-----|-----------|
| 9・24        | 9・10           | 7・13           | 7・9         | 7・11         | 2・12        | 10・1           | 7・26          | 7・10     | 5・29         | 4・28 | 2・19           | 2・13         | 12・9           | 11・20         | 9・24          | 9・12            |            |                  |     |           |
| 会           | 第三次訴訟原告団臨時代議員総 | ピースフェスティバル2006 | 第三次訴訟東京高裁判決 | 爆同46回定期代議員総会 | 大和行動（やまと公園） | 第三次訴訟東京高裁控訴審勝利 | 第三次訴訟第9回代議員総会 | 東京高裁結審公判 | 爆同45回定期代議員総会 | 市民行動 | キャンプ座間と厚木基地を結ぶ | 務所抗議（NLP 通告） | 爆音監視行動・座間防衛施設事 | キャンプ座間・人間の鎖行動 | 第三次訴訟第8回代議員大会 | スーパードールネット追加配備反 | 対基地要請・監視行動 | 違法爆音を許すな11・20厚木基 | 地行動 | 東京高裁第3回公判 |

| 2008（平成20）年  |         |                |                |              |         |                |                  |          |               | 2007（平成19）年  |             |              |             |             |                |               |           |            |                |              |                 |
|--------------|---------|----------------|----------------|--------------|---------|----------------|------------------|----------|---------------|--------------|-------------|--------------|-------------|-------------|----------------|---------------|-----------|------------|----------------|--------------|-----------------|
| 12・10        | 12・7    | 10・26          | 10・6           | 9・23         | 9・21    | 9・20           | 9・5              | 7・30     | 7・20          | 5・12         | 12・17       | 12・8         | 11・18       | 11・11       | 9・1            | 7・8           | 7・1       | 2・4        |                |              |                 |
| 第四次訴訟第4回口頭弁論 | 成総会（大和） | 全国基地訴訟原告団連絡会議結 | ピースフェスティバル2008 | 第四次訴訟第3回口頭弁論 | 怒りの炎行動も | 平和を願う市民の集い（大和） | 原子力空母母港化阻止行動（大和） | XP-1監視行動 | 全国基地訴訟原告団交流集会 | 第四次訴訟第2回口頭弁論 | 爆同第48回代議員総会 | 第四次訴訟第1回口頭弁論 | 第四次厚木爆音訴訟提訴 | 第四次訴訟勝利大和集会 | ピースフェスティバル2007 | 第四次訴訟第1回代議員総会 | 第四次訴訟団結団式 | 和生生涯学習センター | 爆同47回定期代議員総会・大 | 第三次訴訟最終代議員総会 | 第三次訴訟団第10回代議員総会 |

| 2010（平成22）年  |               |              |               |              |                               |                             | 2009（平成21）年    |              |                |              |              |                |                       |              |
|--------------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------------------------------|-----------------------------|----------------|--------------|----------------|--------------|--------------|----------------|-----------------------|--------------|
| 5<br>・<br>23 | 4<br>・<br>27  | 4<br>・<br>26 | 4<br>・<br>5   | 3<br>・<br>14 | 2<br>・<br>17                  |                             | 12<br>・<br>21  | 12<br>・<br>2 | 10<br>・<br>31  | 7<br>・<br>19 | 5<br>・<br>18 | 4<br>・<br>22   | 3<br>・<br>8           | 2<br>・<br>23 |
| り込み行動        | P―1配備抗議大和市役所座 | 爆同鈴木保委員長逝去   | 第四次訴訟第11回口頭弁論 | 交流視察 7日まで    | 爆同50周年記念事業「沖縄の闘いと連帯し基地の実態を学ぶ」 | 第四次訴訟第3回代議員総会<br>（大和勤労福祉会館） | 第四次訴訟・全国基地連絡会議 | 第四次訴訟第9回口頭弁論 | ピースフェスティバル2009 | 爆同第49回代議員総会  | 飛ばず。         | 第四次訴訟、現地検証。飛行機 | 第四次訴訟第6回口頭弁論・南        | 第四次訴訟第5回口頭弁論 |
| 大和集会         | P―1配備撤回       |              |               |              |                               |                             | 「新政権への政策要請行動」  |              |                |              |              | 関東防衛局抗議行動      | 第四次訴訟第2回代議員総会<br>（藤沢） |              |

| 2011 (平成 23) 年                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2010 (平成 22) 年                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>11・2<br/>海老名・相模原・町田・藤沢で<br/>反対行動</p> <p>8・12<br/>P-1 配備反対統一行動</p> <p>8・6<br/>南関東防衛局抗議行動</p> <p>8・3<br/>NHK受信料問題学習会</p> <p>6・13<br/>P-1 配備反対緊急行動</p> <p>5・28<br/>厚木爆同町田支部設立総会</p> <p>4・7<br/>第51回定期代議員総会</p> <p>部品落下事故P-1 配備反対<br/>へ申し入れ</p> <p>艦載機機種変更、南関東防衛局<br/>P-1 配備反対・四六文書堅持・</p> <p>1・12</p> | <p>10・26<br/>爆同結成50周年記念式典</p> <p>10・2<br/>ンボジウム・高座渋谷</p> <p>9・6<br/>第3回米軍基地環境調査国際シ<br/>人尋問)</p> <p>8・22<br/>爆同第50回代議員総会</p> <p>7・30<br/>第四次訴訟第13回口頭弁論(本<br/>議第2回総会</p> <p>6・30<br/>全国基地爆音訴訟原告団連絡会</p> <p>6・27<br/>第四次訴訟第12回口頭弁論</p> <p>鈴木保委員長を偲ぶ会</p> <p>新委員長を選出</p> <p>爆同臨時代議員総会で藤田栄治</p> <p>6・12</p> |

| 2014(平成26)年                                                                                                                                     | 2013 (平成 25) 年                                                                                                                                                                                                                                      | 2012 (平成 24) 年                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>2・7<br/>オスプレイ飛来監視行動以後翌<br/>年2・24まで計17回実施</p> <p>5・21<br/>厚木基地爆音訴訟横浜地裁判決</p> <p>5・10<br/>第五四回定期代議員総会</p> <p>1・9<br/>故<br/>スパークホーネットの部品落下事</p> | <p>12・19<br/>連続する米軍機事故</p> <p>11・17<br/>基地視察(キャンプ富士)</p> <p>9・14<br/>学習会</p> <p>9・2<br/>裁結審</p> <p>6・18<br/>第四次厚木基地爆音訴訟横浜地<br/>陸訓練即時中止を要請</p> <p>6・1<br/>南関東防衛局座間事務所へ離着<br/>NLP通告(24)</p> <p>5・11<br/>第五三回定期代議員総会</p> <p>2・24<br/>オスプレイ配備拒否大和集会</p> | <p>11・8<br/>に抗議と申し入れ</p> <p>5・19<br/>オスプレイ阻止、南関東防衛局<br/>第52回定期代議員総会</p> <p>3・31<br/>動・大和</p> <p>2・17<br/>P-1 配備反対統一行動駅頭行<br/>米軍厚木基地への緊急抗議行動</p> <p>2・9<br/>する緊急行動</p> <p>2・2<br/>南関東防衛局への部品落下に対<br/>NHK受信料問題学習会</p> <p>1・28<br/>P-1 配備反対統一行動大和南</p> <p>1・14<br/>P-1 配備反対統一行動大和</p> |

| 2016 (平成 28) 年                                                                                                | 2015 (平成 27) 年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 2014(平成26)年                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>5・7<br/>第五六回定期代議員総会</p> <p>3・15<br/>オスプレイ飛来監視行動厚木基<br/>地の拠点化を狙うオスプレイ飛<br/>来に連日の抗議行動、監視行動<br/>を5月下旬まで行う</p> | <p>11・28<br/>NHK受信料問題学習会</p> <p>10・4<br/>基地視察「百里基地」</p> <p>10・1<br/>横須賀配備、入港</p> <p>9・7<br/>第四次訴訟原告団団長藤田栄治<br/>さん死去</p> <p>8・21<br/>オスプレイ飛来抗議行動・監視<br/>行動</p> <p>8・11<br/>第四次訴訟最高裁上告</p> <p>7・30<br/>厚木爆音訴訟控訴審判決「初の<br/>自衛隊飛行差し止め</p> <p>2・8<br/>新会員歓送迎会</p> <p>1・23<br/>第五五回定期代議員総会</p> <p>1・17<br/>オスプレイの飛行訓練に反対す<br/>る東日本連絡会結成</p> | <p>11・27<br/>第四次訴訟高裁口頭弁論開始</p> <p>10・25<br/>基地視察「横田基地」「入間基地」<br/>総務省・防衛省</p> <p>10・25<br/>NHK受信料全額助成要請行動</p> <p>7・28<br/>「オスプレイ初飛来」抗議行動</p> <p>7・15</p> |



| 2017（平成 29） 年                                                                                                                                                                                                          |              |               |               |               |             |             |             |             |              |             | 2016（平成 28） 年                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |              |              |               |               |             |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|--------------|---------------|---------------|-------------|
| 12<br>・<br>3                                                                                                                                                                                                           | 12<br>・<br>1 | 11<br>・<br>28 | 10<br>・<br>26 | 10<br>・<br>18 | 8<br>・<br>9 | 8<br>・<br>5 | 8<br>・<br>4 | 5<br>・<br>6 | 4<br>・<br>26 | 2<br>・<br>4 | 1<br>・<br>20                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 12<br>・<br>8 | 11<br>・<br>8 | 10<br>・<br>24 | 10<br>・<br>17 | 9<br>・<br>3 |
| NHK受信料問題学習会<br>P-1哨戒機部品落下事故<br>米軍艦載機第二陣岩国移駐<br>防衛省<br>NHK受信料全額助成総務省・和館」<br>米軍艦載機第一陣岩国移駐<br>臨時代議員総会<br>第五次厚木基地爆音訴訟地裁へ提訴<br>第57回定期代議員総会<br>れ厚木基地・防衛省南関東防衛局<br>艦載機離着陸訓練即時中止申し入<br>NHK受信料問題学習会<br>駐計画を発表<br>南関東防衛局、空母艦載機の移 |              |               |               |               |             |             |             |             |              |             | 被害を無視した不当判決<br>第四次訴訟最高裁判決住民基地<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NHK受信料全額助成西営業セ<br>ンター要請<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>基地視察（横須賀基地・池子住宅）<br>NHK受信料全額助成総務省・<br>防衛省交渉<br>NH |              |              |               |               |             |

| 2018（平成 30）年            |               |                |             |               |                         |       |                |              |              |              |              |              |                |             |              |   |                |             |                |        |                |
|-------------------------|---------------|----------------|-------------|---------------|-------------------------|-------|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|-------------|--------------|---|----------------|-------------|----------------|--------|----------------|
| 11<br>・<br>14           | 10<br>・<br>25 | 10<br>・<br>14  |             | 10<br>・<br>10 | 9<br>・<br>10            |       | 7<br>・<br>27   | 7<br>・<br>19 | 7<br>・<br>15 | 7<br>・<br>10 | 6<br>・<br>17 | 5<br>・<br>5  | 5<br>・<br>4    |             | 3<br>・<br>30 |   | 2<br>・<br>14   |             | 1<br>・<br>24   |        |                |
| NHK受信料問題でかながわ西営業センターへ要請 | 基地司令官へ要請行動    | ヘリコプター墜落事故について | オスプレイ飛来監視行動 | 術館」           | 基地視察「横田基地」「丸木美航空機飛行目視調査 | へ申し入れ | 厚木基地司令部・南関東防衛局 | 厚木基地部品落下事故   | 大型ヘリMH53E    | オスプレイ飛来監視行動  | 眞屋求さんを偲ぶ会    | 厚木爆同議員連絡会議結成 | オスプレイ飛行阻止集会に参加 | 第58回定期代議員総会 | オスプレイ飛来監視行動  | 言 | 米軍艦載機岩国移駐完了米軍宣 | 地司令官・南関東防衛局 | オスプレイ飛来抗議行動厚木基 | 回要請防衛省 | NHK受信料補助制度の廃止撤 |

| 2020（令和2）年                                                     |       |      |      |      |     |     |      |  | 2019（平成31・令和元）年           |       |       |      |      |      |  |
|----------------------------------------------------------------|-------|------|------|------|-----|-----|------|--|---------------------------|-------|-------|------|------|------|--|
| 10・29                                                          | 10・26 | 9・15 | 8・31 | 7・10 | 7・3 | 2・2 | 1・29 |  | 11・30                     | 10・28 | 10・23 | 10・9 | 5・11 | 1・26 |  |
| 航空機事故について基地司令官に抗議と申し入れ                                         |       |      |      |      |     |     |      |  | NHK受信料問題学習会               |       |       |      |      |      |  |
| 卒業式・入学式に向けて爆音で妨害されないよう藤沢市・海老名市へ申し入れ（以後、2・20まで大和市、綾瀬市、座間市へ申し入れ） |       |      |      |      |     |     |      |  | 第59回定期代議員総会               |       |       |      |      |      |  |
| 第六〇回定期代議員総会（書面審査）                                              |       |      |      |      |     |     |      |  | 基地視察「キャンプ富士・東富士演習場」       |       |       |      |      |      |  |
| 新たな厚木基地での訓練パラシュート物資投訓練                                         |       |      |      |      |     |     |      |  | NHK受信料問題でかながわ西営業センターへ申し入れ |       |       |      |      |      |  |
| 航空機飛行目視調査                                                      |       |      |      |      |     |     |      |  | 航空機飛行目視調査                 |       |       |      |      |      |  |
| 空挺団パラシュート降下訓練厚木基地から出発                                          |       |      |      |      |     |     |      |  | 日米地位協定の課題                 |       |       |      |      |      |  |
| 米軍ペトリオット訓練開始                                                   |       |      |      |      |     |     |      |  | NHK受信料問題学習会               |       |       |      |      |      |  |
| 基地司令官へ抗議と申し入れ                                                  |       |      |      |      |     |     |      |  | 基地視察「キャンプ富士・東富士演習場」       |       |       |      |      |      |  |

# 厚木基地爆音防止期成同盟役員一覧表

| 1968<br>(昭43)<br>年                          | 1967<br>(昭42)<br>年                | 1966<br>(昭41)<br>年                                | 1965<br>(昭40)<br>年                                                | 1964<br>(昭39)<br>年                                                   | 1963<br>(昭38)<br>年                    | 1962<br>(昭37)<br>年      | 1961<br>(昭36)<br>年     | 1960<br>(昭35)<br>年      | 年<br>度           |
|---------------------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------|------------------------|-------------------------|------------------|
| 真屋<br>求                                     | 知久<br>重一                          | 知久<br>重一                                          | 知久<br>重一                                                          | 知久<br>重一                                                             | 知久<br>重一                              | 知久<br>重一                | 知久<br>重一               | 知久<br>重一                | 委員<br>長          |
| 穂坂 上原<br>政豊・弥市・遠藤 忍・鈴木 謙語 一郎                | 穂坂 上原<br>政豊・弥市・遠藤 忍・鈴木 謙語 一郎      | 穂坂 上原<br>政豊・弥市・遠藤 忍・鈴木 謙語 一郎                      | 穂坂 上原<br>政豊・弥市・遠藤 忍・鈴木 謙語 一郎                                      | 穂坂 上原<br>政豊・弥市・遠藤 忍・鈴木 謙語 一郎                                         | 遠藤 丹沢<br>忍・房治・津森 正也・穂坂 政豊 一郎          | 丹沢 房治・上原 弥市・津森 正也       | 丹沢 房治・上原 弥市・津森 正也      | 津森 正也・神谷豊三郎・上原 弥市       | 副<br>委<br>員<br>長 |
| 次長<br>小島 水上<br>保 秀高                         | 次長<br>渡辺 真屋<br>利重 求               | 次長<br>渡辺 真屋<br>利重 求                               | 真屋<br>求                                                           | 真屋<br>求                                                              | 真屋<br>求                               | 真屋<br>求                 | 真屋<br>求                | 真屋<br>求                 | 書<br>記<br>長      |
| 昭43年度<br>山口スエ子 室井 謙語 遠藤 忍 穂坂 政豊 鈴木 一郎 丹沢 房治 |                                   |                                                   |                                                                   |                                                                      |                                       |                         |                        |                         | 顧<br>問           |
| 大鐘 滝口<br>広志・見竜・青木盛三郎・小柳 春夫 久夫・佐藤 静夫         | 壊 小泉 関口<br>誠・与作・鈴木 静夫・本多 保雄・小野 新一 | 田中 鈴木 尾形<br>茂雄・保・小森 小虎・本多 保雄・松本 良一 義男・小野 保永・浜崎 重信 | 壊 小森 藤谷 尾形<br>誠・小虎・小野 保永・亀崎 春濤・鈴木 保 義男・村上 義男・佐藤 静夫・矢沢 幸三 保雄・本多 保雄 | 本多 小島 佐藤<br>保雄・大鐘 保・松倉 貞義・小森 小虎・樽川 春夫 義男・村上 義男・石井 一郎 一雄・溝呂木田鶴子・渡辺 利重 | 松沢 佐藤<br>定一・荒井 茂・山口スエ子 義男・山中 忠蔵・元島 恒人 | 佐藤 静夫・野原幸之助・穂坂 政豊・樽川 春夫 | 佐藤 静夫・野原幸之助・神谷豊三郎・小菅 操 | 佐藤 静夫・野原幸之助・石川 明雄・矢沢 幸三 | 役<br>員<br>(常任委員) |



| 1980<br>(昭55)<br>年       | 1978<br>(昭53)<br>年                                               | 1976<br>(昭51)<br>年<br>(任期二年制)                             | 1975<br>(昭50)<br>年                                              | 1974<br>(昭49)<br>年                           | 1973<br>(昭48)<br>年                               | 1972<br>(昭47)<br>年                                        | 1971<br>(昭46)<br>年                                                   | 1970<br>(昭45)<br>年                                       | 1969<br>(昭44)<br>年                                                          | 年度            |
|--------------------------|------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 鈴木<br>保                  | 鈴木<br>保                                                          | 鈴木<br>保                                                   | 鈴木<br>保                                                         | 鈴木<br>保                                      | 鈴木<br>保                                          | 鈴木<br>保                                                   | 鈴木<br>保                                                              | 鈴木<br>保                                                  | 真屋<br>求                                                                     | 委員長           |
| 〃                        | 真鍋 室井 小柳<br>藤治 謙語・鈴木 清・藤田 武雄<br>保雄・樽川 春夫                         | 樽川 室井 萩窪<br>春夫・小松 幸一 久夫・小柳 久夫・水上 秀高<br>藤治・本多 保雄           | 小野 室井 萩窪<br>新一・水上 謙語・小柳 久夫・水上 秀高<br>真鍋 藤治・本多 保雄                 | 小柳 室井 萩窪<br>久夫・室井 謙語・穂坂 政豊<br>新一・水上 秀高・白井 良平 | 小柳 萩窪<br>久夫・室井 謙語・穂坂 政豊<br>誠・水上 秀高・白井 良平         | 小柳 穂坂<br>久夫・水上 謙語・中川 政博<br>誠・萩窪 三次 秀高・白井 良平               | 小柳 穂坂<br>久夫・室井 謙語・浜崎 重信<br>誠・萩窪 三次 秀高・白井 良平                          | 小柳 穂坂<br>久夫・室井 謙語・浜崎 重信<br>久夫・樽川 春夫                      | 穂坂 政豊・室井 謙語・浜崎 重信<br>水上 秀高・本多 保雄・小柳 久夫                                      | 副委員長          |
| 次長<br>黒田 矩敬              | 次長<br>黒田 矩敬                                                      | 次長<br>中村 弘道                                               | 次長<br>樽川 春夫                                                     | 次長<br>菊池 陸男                                  | 次長<br>鈴木 清                                       | 次長<br>中川 定七                                               | 次長<br>岸井 孝司                                                          | 次長<br>岸井 孝司                                              | 次長<br>岸井 孝司                                                                 | 書記長           |
| 〃                        | 真屋 山口スエ子 忍<br>求                                                  | 真屋 山口スエ子 忍<br>求                                           | 真屋 山口スエ子 忍<br>求                                                 | 真屋 山口スエ子 忍<br>求                              | 留任<br>留任                                         | 昭46年度<br>真屋 山口スエ子 忍<br>求                                  | 昭45年度<br>丹沢 房治 忍<br>山口スエ子 忍<br>知久 重一 忍<br>真屋 求                       | 遠藤 忍                                                     | 丹沢 房治 忍<br>山口スエ子 忍<br>遠藤 忍                                                  | 顧問            |
| 前年度役員留任<br>新任 品川 清・大波 修二 | 齊藤 弥作・犬飼 富平<br>長谷川 勝・岸井 孝治・大谷 勇・市原 純二<br>小沢 一彦・小林久米三・中川 定七・真田 英一 | 岸井 孝治・近内 昭正・黒田 矩敬・犬飼 富平<br>小島 保・中川 政博・鈴木 清・大波 修二<br>菊池 陸男 | 犬飼 富平・菊池 陸男<br>小島 保・中川 政博・浅野 順三・鈴木 清<br>藤元 晃章・黒田 矩敬・中村 弘道・岸井 孝司 | 中村 弘道・岸井 孝司<br>小島 保・滝口 見竜・中川 政博・鈴木 清         | 岸井 孝司・中村 藤吉・菊池 陸男・林 幸一<br>小島 保・遠藤 徳光・滝口 見竜・中川 政博 | 高野 敬造<br>小島 保・滝口 見竜・真鍋 藤治・鈴木 清<br>渡辺 利重・亀崎 春濤・中村 藤吉・岸井 孝司 | 小菅与三郎・末 定・真鍋 藤治<br>神山 芳男・渡辺 利重・中村 藤吉・亀崎 春濤<br>小島 保・高野 敬造・滝口 見竜・川口 三郎 | 藤元 晃章<br>水上 秀高・坪 誠・下田 政治・亀崎 春濤<br>小島 保・高野 敬造・滝口 見竜・青木 正雄 | 白井 良平・根岸 春夫・鈴木 清・松本 良一<br>小島 保・樽川 春夫・渡辺 利重・滝口 見竜<br>東谷 輝代・青木 和子・真鍋 藤治・中川 健一 | 役員<br>員(常任委員) |

| 1995<br>(平7)<br>年                                                             | 1993<br>(平5)<br>年                                                                     | 1991<br>(平3)<br>年                                                                                                     | 1988<br>(昭63)<br>年                                                                                                         | 1986<br>(昭61)<br>年                                                                                                         | 1984<br>(昭59)<br>年                                     | 1982<br>(昭57)<br>年                      | 年<br>度           |
|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------------------|------------------|
| 鈴木<br>保                                                                       | 鈴木<br>保                                                                               | 鈴木<br>保                                                                                                               | 鈴木<br>保                                                                                                                    | 鈴木<br>保                                                                                                                    | 鈴木<br>保                                                | 鈴木<br>保                                 | 委員<br>長          |
| 伊沢多喜男・飯田 正章・柳町 慶治<br>村田 信之・二見 昇・平岡 幸雄                                         | 本多 保雄・伊沢多喜男・飯田 正章<br>村田 信之・秋山 原宏・二見 昇<br>平岡 幸雄                                        | 本多 保雄・伊沢多喜男・飯田 正章<br>村田 信之・秋山 原宏・二見 昇                                                                                 | 本多 保雄・笠間 繁雄・柳町 慶治<br>飯田 正章・伊沢多喜男・村田 信之                                                                                     | 小柳 久夫・本多 保雄・笠間 繁雄<br>柳町 慶治・飯田 正章・伊沢多喜男<br>村田 信之                                                                            | 室井 謙語・小柳 久夫・本多 保雄<br>藤田 武雄・笠間 繁雄・柳町 慶治<br>飯田 正章        | 小柳 久夫・室井 謙語・本多 保雄<br>藤田 武雄・樽川 春夫・笠間 繁雄  | 副<br>委<br>員<br>長 |
| 次長<br>中川 浜崎 重信<br>敦至                                                          | 次長<br>中川 浜崎 重信<br>敦至                                                                  | 次長<br>黒田 浜崎 重信<br>矩敬                                                                                                  | 次長<br>黒田 浜崎 重信<br>矩敬                                                                                                       | 次長<br>黒田 浜崎 重信<br>矩敬                                                                                                       | 次長<br>黒田 浜崎 重信<br>矩敬                                   | 次長<br>黒田 浜崎 重信<br>矩敬                    | 書<br>記<br>長      |
| 遠藤 忍<br>真屋 求                                                                  | 遠藤 忍<br>真屋 求                                                                          | 遠藤 忍<br>山口スエ子<br>真屋 求                                                                                                 | 遠藤 忍<br>山口スエ子<br>真屋 求                                                                                                      | 遠藤 忍<br>山口スエ子<br>真屋 求                                                                                                      | 遠藤 忍<br>山口スエ子<br>真屋 求                                  | 遠藤 忍<br>山口スエ子<br>真屋 求                   | 顧<br>問           |
| 荻窪 幸一・矢沢 洋二・大波 修二・遊佐 修造<br>金子豊貴男・齊藤 昌民・中川 捷一・齊藤 弥作<br>石塚 長作・平本 二郎・角田敏太郎・山田よし子 | 荻窪 幸一・矢沢 洋二・大波 修二・遊佐 修造<br>金子豊貴男・齊藤 昌民・内野 優・齊藤 弥作<br>石塚 長作・平本 二郎・角田敏太郎・井上 美春<br>山田よし子 | 角田敏太郎・山田よし子<br>岡 幸雄・石塚 長作・平本 二郎・井上 美春<br>石井 照夫・内野 優・齊藤 弥作・大友 勇平<br>太田 德行・遊佐 修造・金子豊貴男・齊藤 昌民<br>中川 敦至・矢沢 洋二・荻窪 幸一・大波 修二 | 井上 美春・角田敏太郎・山田よし子<br>岡 幸雄・品川 清・新倉 市造・平本 二郎<br>齊藤 昌民・石井 照夫・齊藤 弥作・大友 勇平<br>遊佐 修造・金子豊貴男・二見 昇・荻窪 幸一<br>中川 敦至・矢沢 洋二・大波 修二・太田 德行 | 新倉 市造・角田敏太郎・山田よし子<br>齊藤 弥作・大友 勇・平岡 幸雄・品川 清<br>荻窪 幸一・二見 昇・齊藤 昌民・石井 照夫<br>大波 修二・太田 德行・遊佐 修造・金子豊貴男<br>中川 敦至・矢沢 洋二・平本 二郎・井上 美春 | 前年度役員留任<br>新任 角田敏太郎・矢沢 洋二<br>福田 一二・金子豊貴男<br>平本 二郎・二見 昇 | 前年度役員留任<br>新任 山田よし子・大友 勇<br>大貫 三郎・荻窪 幸一 | 役<br>員<br>(常任委員) |

(註：1988～1991年、役員改選を1年延期したため、3年任期となっている)



| 2009<br>(平21)<br>年                                                          | 2007<br>(平19)<br>年                                                           | 2005<br>(平17)<br>年                                                     | 2003<br>(平15)<br>年                                                                    | 2001<br>(平13)<br>年                                                                                | 1999<br>(平11)<br>年                                                            | 1997<br>(平9)<br>年                                                             | 年<br>度           |
|-----------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 鈴木 保<br>(二〇〇九年四月まで)<br>藤田 栄治<br>(二〇一〇年六月から)                                 | 鈴木 保                                                                         | 鈴木 保                                                                   | 鈴木 保                                                                                  | 鈴木 保                                                                                              | 鈴木 保                                                                          | 鈴木 保                                                                          | 委員<br>長          |
| 谷沢 和夫<br>平岡 幸雄・金子豊貴男・池田 幸代<br>斎藤 弥作・岡本 聖哉・二見 昇<br>萩窪 幸一・加藤清一郎・中川 敦至         | 池田 幸代・谷沢 和夫<br>平岡 幸雄・二見 昇・金子豊貴男<br>斎藤 弥作・岡本 聖哉・伊沢多喜男<br>萩窪 幸一・加藤清一郎・中川 敦至    | 小野間 隆<br>平岡 幸雄・松岡 和利・金子豊貴男<br>斎藤 弥作・岡本 聖哉・伊沢多喜男<br>萩窪 幸一・藤田 栄治・中川 敦至   | 松岡 和利・金子豊貴男・小野間 隆<br>岡本 聖哉・伊沢多喜男・平岡 幸雄<br>萩窪 幸一・藤田 栄治・中川 敦至                           | 松岡 和利・金子豊貴男・小野間 隆<br>矢沢 洋二・伊沢多喜男・平岡 幸雄<br>萩窪 幸一・藤田 栄治・中川 敦至                                       | 石郷岡忠男<br>藤田 栄治・中川 敦至・矢沢 洋二<br>伊沢多喜男・柳町 慶治・平岡 幸雄                               | 二見 昇・平岡 幸雄・藤田 栄治<br>伊沢多喜男・柳町 慶治・村田 信之                                         | 副<br>委<br>員<br>長 |
| 次長 相沢 義昭<br>次長 石郷岡忠男<br>次長 大波 修二                                            | 次長 相沢 義昭<br>次長 石郷岡忠男<br>次長 大波 修二                                             | 次長 相沢 義昭<br>次長 石郷岡忠男<br>次長 大波 修二                                       | 次長 石郷岡忠男<br>次長 斎藤 英昭<br>次長 大波 修二                                                      | 次長 石郷岡忠男<br>次長 斎藤 英昭<br>次長 大波 修二                                                                  | 次長 大波 修二<br>次長 浜崎 重信                                                          | 次長 中川 敦至<br>次長 浜崎 重信                                                          | 書<br>記<br>長      |
| 新倉 市造<br>浜崎 重信<br>真屋 求                                                      | 新倉 市造<br>浜崎 重信<br>真屋 求                                                       | 浜崎 重信<br>真屋 求<br>遠藤 忍                                                  | 浜崎 重信<br>真屋 求<br>遠藤 忍                                                                 | 浜崎 重信<br>真屋 求<br>遠藤 忍                                                                             | 真屋 求<br>遠藤 忍                                                                  | 真屋 求<br>遠藤 忍                                                                  | 顧<br>問           |
| 小野 抗夫・高橋 八一・角田敏太郎・山田よし子<br>村田 信之・小川 義郎・内野 健治・斎藤 昌民<br>中坪 清・斎藤 英昭・小野 清輝・矢野 亮 | 矢野 眸・坂本 俊六・高橋 八一・池田 徳晴<br>斎藤 英昭・内野 健治・角田敏太郎・山田よし子<br>石塚 長作・小野 抗夫・小川 義郎・村田 信之 | 高橋 八一・池田 徳晴・新倉 市造<br>角田敏太郎・山田よし子・矢野 眸・坂本 俊六<br>石塚 長作・中川 捷一・斎藤 昌民・加藤清一郎 | 新倉 市造<br>矢野 眸・坂本 俊六・高橋 八一・池田 徳晴<br>加藤清一郎・村田 信之・斎藤 弥作・小野 抗夫<br>金子豊貴男・相沢 義昭・斎藤 昌民・中川 捷一 | 坂本 俊六・高橋 八一・池田 徳晴<br>後藤 忠吾・菅原 和洋・新倉 市造・矢野 眸<br>加藤清一郎・村田 信之・小野 抗夫・斎藤 弥作<br>相沢 義昭・金子豊貴男・中川 捷一・斎藤 昌民 | 石塚 長作・角田敏太郎・山田よし子・斎藤 英昭<br>石塚 長作・平本 二郎・角田敏太郎・山田よし子<br>斎藤 昌民・中川 捷一・斎藤 弥作・松岡 和利 | 萩窪 幸一・矢沢 洋二・大波 修二・金子豊貴男<br>平本 二郎・角田敏太郎・山田よし子・小沢 一彦<br>萩窪 幸一・加藤清一郎・村田 信之・金子豊貴男 | 役<br>員<br>(常任委員) |

| 2015<br>(平27)<br>年                                                                                                                                                                                                  | 2013<br>(平25)<br>年                                                                                                                                                                                                                     | 2011<br>(平23)<br>年                                                                                                                                                                                               | 年<br>度           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 大波<br>修二                                                                                                                                                                                                            | 大波<br>修二                                                                                                                                                                                                                               | 藤田<br>栄治                                                                                                                                                                                                         | 委<br>員<br>長      |
| 高久 保・藤原 康夫<br>(二〇一六年十一月まで)<br>石郷岡忠男<br>(二〇一七年一月から)                                                                                                                                                                  | 平岡 幸雄・小野 抗夫<br>金子豊貴男・二見 昇                                                                                                                                                                                                              | 荻窪 幸一・大波 修二<br>金子豊貴男・平岡 幸雄<br>二見 昇                                                                                                                                                                               | 副<br>委<br>員<br>長 |
| 次長 荻窪 幸一<br>次長 石郷岡忠男<br>(二〇一六年十一月まで)<br>次長 森 謙治<br>(二〇一七年一月から)<br>次長 矢澤 洋二<br>次長 小林 正幸                                                                                                                              | 次長 荻窪 幸一<br>次長 石郷岡忠男<br>次長 矢澤 洋二<br>次長 小林 正幸<br>次長 相澤 義昭<br>(二〇一四年四月まで)<br>次長 藤原 康夫<br>(二〇一四年五月から)                                                                                                                                     | 次長 岡本 聖哉<br>次長 石郷岡忠男<br>次長 相澤 義昭                                                                                                                                                                                 | 書<br>記<br>長      |
| 真屋 求<br>浜崎 重信<br>新倉 市造                                                                                                                                                                                              | 真屋 求<br>浜崎 重信<br>新倉 市造                                                                                                                                                                                                                 | 真屋 求<br>浜崎 重信<br>新倉 市造                                                                                                                                                                                           | 顧<br>問           |
| 斎藤 昌民・谷沢 和夫・小野 清輝<br>藤田 栄治・相澤 義昭・遠藤 健一・原 富四郎<br>二階堂陸治・稗田 耕一・松本 良一・森 謙治<br>武田 峯男・橋口 勲・岩野 誠一・馬場由利子<br>神岡 元子・上杉 和夫・二見 昇・折目 勝雄<br>中坪 清・日朝 志郎・山村 充夫・落合 英雄<br>小野間 隆・木村 栄子・鈴木 正信・木原 義之<br>山本 健治・金子豊貴男・脇 れい子・山口 繁美<br>川村 政枝 | 山村 充夫・原 富四郎・斎藤 昌民・谷沢 和夫<br>中坪 清・石塚 長作・藤田 栄治・中川 敦至<br>山口 繁美・川村 政枝・高橋 八一・脇 れい子<br>藤原 康夫・小野 清輝・武田 峯男・橋口 勲<br>松本 良一・村田 信之・二階堂陸治・岡本 聖哉<br>高久 保・折目 勝雄・日朝 志郎・今井 達也<br>神岡 元子・上杉 和夫・石原 イネ・関本 敏夫<br>相澤 義昭・西根 一夫・吉本 芳治・木原 義之<br>小野間 隆・木村 栄子・鈴木 正信 | 小林 正幸・小野 抗夫・鈴木 敏江・原 富四郎<br>藤原 康夫・小野 清輝・山口 道博・中川 敦至<br>松本 良一・村田 信之・二階堂陸治・矢澤 洋二<br>武田 峯男・鈴木 昇・吉本 芳治・高口 龍介<br>高久 保・矢野 亮・中坪 清・斎藤 昌民<br>山村 充夫・今井 達也・山口 繁美・川村 政枝<br>谷沢 和夫・木原 義之・小野間 隆・藤本 昌樹<br>石塚 長作・高橋 八一・脇 れい子・斎藤 英昭 | 役<br>員<br>(常任委員) |



| 2019<br>(令1)<br>年                                                                                                                                                                                                         | 2017<br>(平29)<br>年                                                                                                                                                                                                                                                                   | 年<br>度           |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| 石郷岡忠男                                                                                                                                                                                                                     | 大波 修二<br>(二〇一七年八月まで)<br>石郷岡忠男<br>(二〇一七年九月から)                                                                                                                                                                                                                                         | 委<br>員<br>長      |
| 高久 保・森 謙治<br>日朝 志郎                                                                                                                                                                                                        | 高久 保・石郷岡忠男<br>(二〇一七年八月まで)<br>森 謙治・日朝 志郎<br>(二〇一七年九月から)                                                                                                                                                                                                                               | 副<br>委<br>員<br>長 |
| 次長 萩窪 幸一<br>前田 伸幸                                                                                                                                                                                                         | 次長 萩窪 幸一<br>次長 矢澤 洋二<br>次長 小林 正幸<br>(二〇一八年一月まで)<br>日朝 志郎<br>(二〇一七年八月まで)                                                                                                                                                                                                              | 書<br>記<br>長      |
| 浜崎 重信<br>(二〇二〇年二月まで)<br>中川 敦至<br>平岡 幸雄                                                                                                                                                                                    | 浜崎 重信<br>中川 敦至<br>平岡 幸雄                                                                                                                                                                                                                                                              | 顧<br>問           |
| 福田 一二・越川 好昭・山本 健治・瀬野 壽伸<br>斎藤 孝幸・大波 修二・斎藤 昌民・宮崎 努<br>遠藤 健一・細川千代子・二階堂陸治・稗田 耕一<br>松本 良一・矢澤 洋二・武田 峯男・岩野 誠一<br>山本 勉・貝津 正孝・中野渡強志・中坪 清<br>山村 充夫・落合 英雄・木村 栄子・植木 裕子<br>久永 徹・佐藤ゆきよ・金子豊貴男・脇 れい子<br>相原 志穂・川村 政枝・飯森 昭男・大谷 直樹<br>智田 伸也 | 斎藤 昌民・谷沢 和夫・小野 清輝・金子豊貴男<br>相澤 義昭・遠藤 健一・三澤金一郎・細川千代子<br>二階堂陸治・稗田 耕一・松本 良一・武田 峯男<br>岩野 誠一・上杉 和夫・馬場由利子・越川 好昭<br>折目 勝雄・中坪 清・日朝 志郎・山村 充夫<br>落合 英雄・木村 栄子・鈴木 正信・植木 裕子<br>山本 健治・木原 義之・脇 れい子・二見 昇<br>山口 繁美・川村 政枝・福田 一二・前田 伸幸<br>飯森 昭男・斎藤 孝幸・瀬野 壽伸・貝津 正孝<br>谷沢 和夫・宮崎 努・山本 勉・佐渡 司<br>中野渡強志・佐藤ゆきよ | 役<br>員<br>(常任委員) |

## 厚木基地爆音訴訟の経過と判決内容

### 第一次訴訟 19年3か月 原告92名 団長:鈴木 保

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| 1976.09.08 | 横浜地裁提訴                       |
| 1982.10.20 | 横浜地裁判決 飛行差し止め却下 損害賠償認める      |
| 1986.04.09 | 東京高裁判決 飛行差し止め却下 損害賠償認めず      |
| 1986.04.22 | 最高裁上告                        |
| 1993.02.25 | 最高裁判決 飛行差し止め却下 損害賠償東京高裁へ差し戻し |
| 1995.12.26 | 東京高裁判決 損害賠償認める 飛行差し止め意見なし    |

### 第二次訴訟 14年9か月 原告161名 団長:笠間 繁雄

|            |                                |
|------------|--------------------------------|
| 1984.10.22 | 横浜地裁提訴                         |
| 1992.12.21 | 横浜地裁判決 飛行差し止め却下 損害賠償認める 将来請求却下 |
| 1999.07.23 | 東京高裁判決 飛行差し止め却下 損害賠償認める        |

### 第三次訴訟 8年8か月 原告5047名 団長:真屋 求

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| 1997.12.08 | 横浜地裁提訴 損害賠償のみで飛行差し止め求めず |
| 2002.10.16 | 横浜地裁判決 損害賠償認める          |
| 2006.07.13 | 東京高裁判決 損害賠償認める          |

### 第四次訴訟 9年6か月 原告7054名 団長:藤田 栄治(提訴時) 金子 豊貴男

|            |                                                                                              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2007.12.17 | 横浜地裁提訴                                                                                       |
| 2014.05.21 | 横浜地裁判決 自衛隊機夜間飛行差し止め認める 米軍機却下<br>将来請求認めず 損害賠償認める                                              |
| 2015.07.30 | 東京高裁判決 自衛隊機夜間飛行差し止め認める<br>ただし 2016 年 12 月 31 日まで 米軍機却下<br>将来請求 2016 年 12 月 31 日まで認める 損害賠償認める |
| 2015.08.11 | 最高裁上告                                                                                        |
| 2016.12.08 | 最高裁判決 将来請求権却下 自衛隊機の差し止め請求請求棄却<br>米軍機の差し止め排斥                                                  |

### 第五次訴訟 現在係争中 原告8879名 団長:大波 修二

|            |            |
|------------|------------|
| 2017.08.04 | 横浜地裁提訴     |
| 2018.05.21 | 第 1 回口頭弁論  |
| }          |            |
| 2020.12.14 | 第 12 回口頭弁論 |

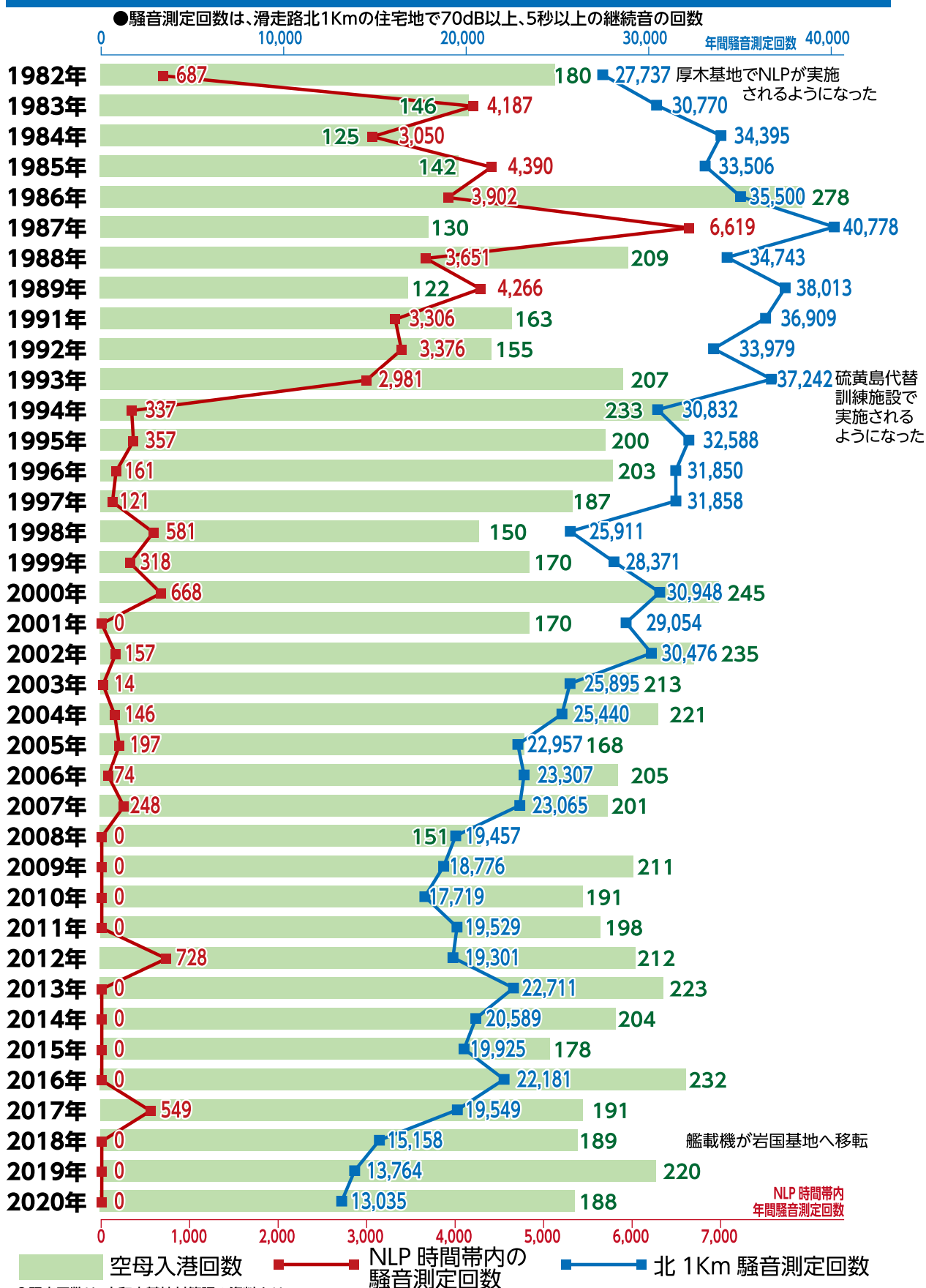


## 第四次厚木基地爆音訴訟の判決内容

|        |      | 横浜地裁<br>2014年5月21日判決                                                            | 東京高裁<br>2015年7月30日判決                                                                                                                                                                               | 最高裁<br>2016年12月8日判決                                                                                                                                 |
|--------|------|---------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 損害賠償   | 民事訴訟 | 2005年1月1日以降、2013年9月2日まで、社会生活上受忍すべき限度を超える被害を生じさせているので国の賠償責任は免れない。<br><br>将来請求は却下 | 2005年1月1日以降、2015年5月14日まで、社会生活上受忍すべき限度を超える被害を生じさせているので国の賠償責任は免れない。<br>控訴審判決で確定、それぞれ月額 95W=2万円、90W=1万6000円、85W=1万2000円、80W=8000円、75W=4000円。<br>将来請求を認める(期間限定) 2015年5月15日から2016年12月31日※までに生ずべき損害も認容する | ・将来請求は却下                                                                                                                                            |
|        | 行政訴訟 | 自衛隊機については却下<br><br>米軍機に対しては棄却                                                   | 自衛隊機については却下<br><br>米軍機に対しては棄却                                                                                                                                                                      | ・自衛隊機については棄却 9月15日<br><br>・米軍機に対しては棄却 9月15日                                                                                                         |
| 飛行差し止め | 民事訴訟 | 自衛隊機について、毎日午後10時から翌日午前6時までやむを得ない事由に基づく場合を除き自衛隊機を運行させてはならない。<br><br>米軍機については却下   | 自衛隊機について2016年12月31日※まで毎日午後10時から翌日午前6時までやむを得ない事由に基づく場合を除き自衛隊機を運行させてはならない。<br><br>米軍機については却下                                                                                                         | ・上告 8月11日<br>・「上告・上告申し立てについて」決定 9月15日<br>・米軍機の差し止めは「支配の及ばない第三者」に対する請求として排斥 9月15日<br>・口頭弁論 10月31日<br>・判決 12月8日<br>・自衛隊機の差し止めについて、控訴審の判断を覆し請求棄却 12月8日 |
|        | 行政訴訟 |                                                                                 |                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                     |

※2016年12月31日で期限を区切っているのは、2017年以降に空母艦載機を岩国基地に移転するという計画を日米政府が打ち出し、それを裁判所が改善策として認めたというのが理由である。  
逆に言えば裁判所はそれまでは爆音の被害が続くと判断したということになる。

# 年別騒音測定回数とNLP時間帯内の測定回数および空母入港日数の推移





## 編集後記

記念誌の編集に関わり、厚木爆同運動の60年の重みを改めて感じています。多くの先達が60年もの長きにわたり、厚木基地周辺住民の切なる願いに真摯に向き合ったこの60年の歴史はただただ頭が下がる思いです。

特筆すべきは、この10年に米軍空母艦載機の岩国基地移転があげられます。60年にわたり、厚木基地を監視し、新しい航空機の配備に速やかに抗議し、新たな訓練に反対し、五次にわたる裁判闘争に取り組んだ成果だと感じています。

身体の内芯に響き、建物を揺らすような爆音は確かに減りましたが、現在も厚木基地周辺の住宅地上空には、米軍のヘリコプターが我が物顔で飛び回り、自衛隊の航空機は数分おきに旋回、訓練を行っているのが現実です。

われわれ厚木爆同は、これから新たな歴史を積み重ねるというよりは、一日も早く静かな空を取り戻せるよう基地撤去をめざして運動を進めていく必要があります。私たちの目的は70年、80年と運動を続けることではないからです。

最後に、さまざまな形で厚木爆同の運動を支えてくださった方々に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 結成記念の刊行物



上段 厚木爆同会報 縮刷版  
下段 右より 25周年記念誌 40周年記念誌 50周年記念誌

## 厚木爆同結成60周年記念事業実行委員会

委員長 石郷岡忠男

事務局長 荻窪 幸一

総務委員会 福田 一二、前田 伸幸、

日朝 志郎、大波 修二、

中坪 清、木村 栄子

記念誌委員会 越川 好昭、森 謙治、

高久 保、山本 健治、

矢澤 洋二、瀬野 壽伸、

貝津 正孝、宮崎 努、

山村 充夫

## 爆音のない静かな空を求めて

## 厚木爆同60年の闘い 記念誌

発行日 2021年5月8日

発行者 厚木基地爆音防止期成同盟

大和市桜森3-5-3

フオン1F

TEL 046-240-7450

H P atsugibakudou.com

印刷 株式会社 ショップハラショー

